



財團法人
啓明會第拾貳回
昭和五年度事業報告書

始



14.5-32

財團 啓明會第拾貳回 昭和五年 事業報告書目次

發行所寄贈本

一、事業

摘要

完成セル補助事業

- 一、中央亞細亞發掘ノ古畫ノ摹本作製(瀧).....二
- 二、本朝文粹註釋ノ出版(柿村).....四
- 三、支那佛教史蹟踏査(常盤).....五
- 四、英國博物館所藏支那古寫本ノ研究(矢吹).....六
- 五、日本家庭ニ於ケル電力ノ應用(鳥湯).....七
- 六、爪哇史ノ翻譯(松岡).....九
- 七、古語拾遺ノ研究英譯及出版(加藤 星野).....一〇
- 八、校本萬葉集ノ整理及刊行(佐々木).....二
- 九、更科日記錯簡考ノ出版及同註釋ノ研究(玉井).....三
- 一〇、日支 漢辭典ノ編纂出版(服部).....三
- 一一、鳥頭屬植物中ノ「アルカロイド」ノ研究(眞島).....四
- 一二、西日辭典ノ出版(清野).....五

- 一三、「ウエイマルン」博士研究成績ノ發刊.....七
- 一四、假名調査(大矢).....八
- 一五、「アイヌ」辭典ノ増補改版(ジョン・パチラー).....九
- 一六、日本住宅ニ關スル衛生學的研究(田村).....一〇
- 一七、支那財政ノ研究(木村).....一〇
- 一八、爬蟲類等ノ聽覺ノ研究(黒田).....一〇
- 一九、常磐炭田ニ於ケル炭層ノ研究(徳永).....一〇
- 二〇、「大唐西域記」ニ記セル東南印度諸國ノ研究ノ出版(高桑).....一〇
- 二一、「經濟上ヨリ見タル蘭領東印度」ノ出版「増井」.....一〇
- 二二、植物色素ノ生物化學的及ビ分光化學的研究「柴田」.....一〇
- 二三、「徳川制度史料」ノ出版(小野).....一〇
- 二四、「山椒魚ノ研究」並ニ出版(田子).....一〇
- 二五、生體染色及細胞ノ機能の鑑別ノ研究(清野).....一〇
- 二六、日本藻類圖譜ノ出版(岡村).....一〇
- 二七、實驗遺傳學上ノ研究(池野).....一〇
- 二八、俗間藥ノ研究(八木).....一〇



寄贈本

二九、海産動物ノ「プロタミン」竝ニ（山川）……………三
 「ニユークレイック」酸ノ研究……………三
 三〇、「アイヌ」傳説研究ノ整理（金田一）……………三
 三一、小學校圖書教育改善ノ研究並ニ教育學出版（上阪）……………三
 三二、「孔子」ノ出版（赤池）……………三
 三三、圓形瓣ノ研究（沖）……………三
 三四、かつを、まぐろ類ノ研究（岸上）……………三
 三五、紅色素ノ研究（黒田）……………三
 三六、歐米ニ於ケル少年裁判ト少年犯罪ノ現況調査（芳川）……………三
 三七、日本武士道ノ研究（有馬）……………三
 三八、「ボテイチエリ」ヲ中心トシタル文藝復興期ノ研究（矢代）……………三
 三九、續日本名家四書註釋全書出版（關）……………三
 四〇、「モリス」氏著「Japan day」（石川）……………三
 「by day」ノ翻譯及出版（宮島）……………三
 四一、「ライデン」大學ニ於ケル蘭學史料ノ謄寫（板澤）……………三
 四二、古社寺所藏圖書ノ調査（高楠）……………三
 四三、善見律毗婆沙ノ出版（高楠）……………三
 四四、家畜ニ於ケル遺傳ノ細胞學的研究（増井）……………三
 四五、フルオレン誘導體ノ化學的研究（中村）……………三
 四六、延喜式校本ノ出版（江木）……………三

四七、「後法興院記」ノ出版（平泉）……………三
 四八、梵文金光明經出版（泉）……………三
 四九、朝鮮佛教ノ研究（忽滑谷）……………三
 五〇、高爐「セメント」ノ研究（永井）……………三
 五一、「亞富汗斯坦」ノ出版（田鍋）……………三
 五二、「政教上ヨリ觀タル論語新釋」ノ出版（赤池）……………三
 進行中ノ補助事業……………三
 一、アイヌ調査事業（河野）……………三
 二、日本産魚類圖説ノ發刊（田中）……………三
 三、東洋音樂理論ノ科學的研究（田邊）……………三
 四、日本民謡ノ蒐集及研究（兼常）……………三
 五、倭寇史ノ編纂（後藤）……………三
 六、日本産鑛物ノ蝕像ニ關スル研究（市川）……………三
 七、本那ニ於ケル化學的研究業績總覽ノ編纂（眞島）……………三
 八、絲狀蟲及ヒ絲狀蟲病ノ研究等（川上）……………三
 九、築港ト漂沙ノ關係研究（關）……………三
 一〇、波斯ニ關スル研究資料ノ蒐集（荒木）……………三
 一一、妊娠腎炎ノ研究（五斗）……………三

一二、「明治工業史」ノ編纂ノ完成及出版（古市）……………三
 一三、渦動ノ研究（藤原）……………三
 一四、定本萬葉集ノ作成（佐々木）……………三
 一五、糖尿病ノ實驗的研究（緒方）……………三
 一六、琉球藝術調査並ニ同報告書作成出版（伊東）……………三
 一七、佛國圖書館並ニ英國博物館所藏支那西域發掘古典籍ノ調査及寫照（内藤）……………三
 一八、日本農民經濟書出版準備（小野）……………三
 一九、青年男女ニ關スル調査（小尾）……………三
 二〇、日本産蛙ノ圖譜ノ出版（岡田）……………三
 二一、元曲選ノ研究（鹽谷）……………三
 二二、支那歴代思潮ノ研究（市村）……………三
 二三、東印度諸島蕃族文様ノ人類學的研究並ニ出版（移川）……………三
 二四、人類「ヴィタミン」B缺乏症ノ研究（稻田）……………三
 二五、琉球古典「おもろさうし」研究（伊波）……………三
 二六、「アロニチン」類ノ化學的構造ニ關スル研究（眞島）……………三
 二七、鎌倉室町時代ノ儒教研究（足利）……………三
 二八、佛敎大辭典ノ編纂（望月）……………三
 二九、「日本ニ於ケル造林ノ起源及發達」ノ編纂（遠藤）……………三

三〇、蟾蜍毒ノ化學的研究（小竹）……………三
 三一、最近支那ニ於ケル思想上ノ傾向ノ研究（笹川）……………三
 三二、人間ノ個性及能率等ニ關スル研究（高峰）……………三
 三三、組織鐵學説ノ完成及其應用研究（勝沼）……………三
 三四、印度敘事詩「マハーパラータ」ノ國譯（山上）……………三
 三五、澳門等ニ於ケル史料蒐集及遺蹟調査（黒板）……………三
 三六、肺結核レントゲン像ノ病理解剖學的研究（藤浪）……………三
 三七、朝鮮陶器ノ研究（倉橋）……………三
 三八、英國博物館所藏支那古寫本ノ寫真帳出版（矢吹）……………三
 三九、日本藻類圖譜出版繼續（岡村）……………三
 四〇、委任統治南洋群島人類學研究（長谷部）……………三
 四一、日本庭園史研究（外山）……………三
 四二、日本語及日本樂器ノ音響學的研究（田丸）……………三
 四三、潜水艦ニ關スル海戰法規及諸問題ノ研究及出版（森）……………三
 四四、明治大正地方財政史編纂（田中）……………三
 四五、西方亞細亞美術史ノ研究（青山）……………三
 四六、梵文楞伽經ノ英譯（鈴木）……………三
 四七、播磨國風土記ノ研究（井上）……………三

四八、鳥類生態寫真ノ撮影及出版 (内田 下村) 一三七

四九、支那工藝圖鑑ノ編纂 (阪谷 伊東) 一三九

五〇、X光線ニヨル吸收スペクトルノ研究 (青山) 一四二

五一、「隨意筋ノ緊張的並ニ栄養的支配」ノ出版 (吳) 一四三

五二、産卵鶏ノ標準飼料量ノ研究 (片山) 一四四

五三、東洋美術總目錄編纂 (正木) 一四四

五四、「ヒボクラテス全集」ノ邦譯及出版 (今) 一四四

五五、英國救貧史ノ研究 (小島) 一四七

五六、「繪畫製作及鑑賞ノ眞理」出版 (和田 岩井) 一四八

五七、方言調査及採集 (大田) 一五一

五八、「實驗葡萄全書」ノ編輯並ニ出版 (川上) 一五三

五九、佛、獨、日諸國ノ農業經濟調査 (笠森) 一五五

完成セル依囑事業

一、「最近政治外交史」ノ講述並ニ出版 (坪井) 一五五

二、「衛生長壽法」ノ著述 (三宅) 一五六

講演會及展覽會一覽表

二、會計 一五七

三、會議 一五七

附錄

本會設立年月日、寄附行爲、職員名簿

四

一、事業



本會ハ大正七年八月ノ創立ニ係リ、研究、調査、著作、發明及ヒ發見ヲ助成獎勵スルコト、必要ナル講演、出版ヲ爲スコト等 (別記寄附行爲第 三條ニ詳記ス) ヲ目的トス。而シテ創立以來前年度 (昭和 四年) 末迄ニ研究、調査、著作、發明、發見等ニ對スル經費補助請求ノ申込ヲ受ケタル件數ハ合計四一一件、其内審査ノ結果採用ト決定セルモノ九十九件 (繼續、追加) (別記) (一) 乃至五〇、(二) 乃至三七及四〇乃至五一) 之ニ對スル補助決定金額五十二萬五千三百五十八圓ナリ。尙前年度末迄ニ採用事業中四十一件ハ完成シ (別記) (一) 累計四十二回ノ講演會及ヒ展覽會ヲ開催シ、依囑事業二件完結セリ。

而シテ本年度 (昭和 五年) 中ニ於ケル研究、調査、著作、發明、發見等ニ對スル補助請求申込數ハ總計十五件ニシテ、外ニ保留又ハ審査未了ノ爲メ前年度ヨリ繰越セルモノ二十件ヲ加ヘテ、合計三十五件、内審査ノ結果採用ト決定セルモノ十件 (別記) (一) 五二、五三、次ニ不採用ト決定セルモノ十二件、保留及調査未了ノ爲メ次年度へ繰越セルモノ十一件 (外ニ撤回セ、右本年度中ニ決定セルモノノ補助金額三萬一千五百圓ナリ。依テ創立以來本年度末迄累

計ノ補助請求申込數四百二十六件(内主トシテ理化學ニ關スルモノ二百四件、社會ニ關スルモノ二十八件、其他ノモノ四件)其内採用ト決定セルモノ百九件(ハ繼續、追加)主トシテ社會科學ニ關スルモノ六十五件(其補助決定額ヲモ加算ス)五十五萬六千八百五十八圓、其内支給濟額五十萬五千五百十三圓十八錢ナリ。而シテ右採用事業中前年度未迄ニ完成シタルモノ四十一件ナリシカ、本年中更ニ十一件(他ニ繼續一件完成)ヲ加ヘ、完成補助事業ノ累計ハ五十二件トナリ、他ハ總テ豫定ノ通り進捗中ナリ。尙依囑事業タル坪井九馬三氏ノ最近政治外交史ノ講述ハ昭和三年未迄ニ終リ上、中、下、續、四卷ヲ出版シ、完結シタリ。三宅秀氏ニ依囑シタル衛生ニ關スル著述ハ、衛生長壽法トシテ、昭和四年富山房ヨリ出版シタリ。又講演會四回ヲ開キ展覽會ト共ニ其累計四十六回トナレリ。而シテ補助事業(完成、進)成績一覽表(ヲ附記ス)、依囑事業及ヒ講演會展覽會並ニ紀要出版ノ概況左ノ如シ。

(一) 完成セル補助事業

一、中央亞細亞發掘ノ古畫ノ摹本作製

金一萬二百九十圓ノ補助

東京市外大崎町字上大崎西谷二二六

文學博士 瀧

精

一

本件ハ別記矢吹氏撮影中ノ支那古寫本ト共ニ、オーレル、スタイン氏カ中央亞細亞燉煌千佛洞ヨリ發掘シ現ニ英國博物館ニ保管セラレ、頗ル有益ナル研究資料タル二百餘點ノ古畫中最モ優秀ナルモノ二十點ヲ模寫セル事業ナリ。即チ本會ハ瀧氏ノ申出ニ應シ右模寫費トシテ標記ノ金額金一萬圓ヲ支出シ、氏ハ畫家永田春水、井上白楊兩氏ヲ派遣シテ之ヲ模寫セシメ大正十年本會ニ提出セラル。何レモ剝落模寫ノ方法ヲ以テセル模本ニシテ、技法精妙真ニ原本ノ髣髴ヲ得タリ。本會ハ同年四月之ヲ東京帝大内ニ於テ一般ノ展覽ニ供シ之ニ就キ瀧氏ノ講演ヲ開キ尙其ノ全部(左記二十點)ヲ美術、宗教、考古學ノ研究資料トシテ同大學ニ寄附シタリ。然ルニ大正十二年九月ノ震火災ノ爲メ模本全部燒失セシハ遺憾ナリ。但シ幸ニ其寫ハ東京美術學校ニ現存ス。

記

地藏菩薩圖一枚、觀世音菩薩圖一枚、力士仰倒圖一枚、菩薩圖一枚、毘沙門天圖一枚、村女取乳糜圖一枚、釋迦降誕圖一枚、追述郎子躄陟屈膝車匿歸城圖一枚、引路菩薩圖二枚、熾盛光佛竝ニ五星神圖一枚、十王圖一枚、千手千眼觀世音菩薩圖一枚、釋迦樹下說法圖一枚、文珠普賢四觀世音圖一枚、釋迦曼荼羅圖一枚、二觀音一枚、

二、本朝文粹註釋ノ出版

佐賀縣唐津町大字東四五

金五千圓ノ補助

柿村重松

本件ハ柿村氏カ七年ノ星霜ヲ經テ研究セラレシ本朝文粹註釋ヲ出版セルモノニシテ、大正十年四月本會補助ノ下ニ其ノ出版ニ著手シ、十一年三月完成セルモノナリ。今日學者ノ日本漢文ヲ研究スル者ハ極メテ稀ニシテ、古賢先哲カ心血ヲ灑キシ詩文モ殆ト高閣ニ束ネテ顧ル者ナシ。柿村氏之ヲ遺憾トシ先ツ平安朝時代漢文ノ研究ニ著手シ即チ本朝文粹ヲ註釋セラル。本朝文粹ハ平安朝名流ノ漢文ヲ集メタル本邦固有ノ漢文書ニシテ、漢文研究者ノ精讀ス可キモノタルハ勿論國文學上ヨリモ亦歴史文學ノ研究資料トシテモ必ス一讀ス可キモノナルニ係ラス、未タ其註釋書ノ公ニセラレシモノナカリシハ學界ノ恨事ナリシニ、同氏ニ依テ本註釋成リ之ヲ出版スルニ至レルハ大慶ト云フヘク、大正十二年五月氏ハ本事業ニ對シ恩賜賞ヲ受ケラレタリ。本書作製ニハ先ツ誤寫ヲ校訂シ、次ニ大意ヲ解釋シ、特ニ故事語句ノ出典ヲ審ニシテ之ヲ註ニ掲ケ、大意ノ解釋ハ「釋」トシテ鼈頭ニ收メ以テ一般讀者ニ便セリ。同氏ハ本註釋書ノ内容ノ

整理等ニ就キ文學博士服部宇之吉、同芳賀矢一兩氏ニ協議セラレタリ。而シテ本書ハ上下二冊ヨリ成リ(約二千四百頁)、先ツ一千部ヲ出版シ、内三十部ハ本會ヨリ各方面ヘ頒布シ、殘部ハ印刷兼發行所タル内外出版會社ニ於テ廣ク一般ニ販賣シツツアリ。

三、支那佛教史蹟踏査

東京市小石川區指ヶ谷町一

金八千圓ノ補助(踏査費六千圓、外ニ蒐集品整理費二千圓)

文學博士 常盤大定

本件ハ常盤氏カ支那ニ於ケル佛教竝ニ佛教ニ關係アル儒道兩教ノ史蹟ヲ踏査シ蒐集品ヲ整理セラレシヲ援助シタルモノナリ。同氏ハ東大文學部ニ佛教史ヲ擔任セラレ曩ニ大正九年末支那各省ヲ踏査セラレシカ、支那ノ廣大ナル、右踏査地點ハ僅ニ其一部ニ過キサリシヲ以テ、更ニ半年ヲ期シ再ヒ踏査ヲ遂行セント欲シ、本會援助ノ下ニ十年九月渡支セラレタルナリ。思フニ支那文明史上ノ精華ハ隋唐ノ文明ニシテ佛教ハ其中核ナルヲ以テ佛教ノ史實ヲ蒐集シ其藝術ヲ探査スル事ハ支那研究上頗ル肝要トス。本踏査ハ隋、唐佛教ノ史實及藝術ヲ主眼トセルモ尙其前後ニ涉リ又佛教ニ關係アル儒、道兩教ニモ及ヒ又其區域ハ大體山東、直隸、江蘇、河南等ノ諸省ニ互リタリ。而シテ

同氏ハ十一年二月多數ノ拓本寫眞等ヲ蒐集歸朝セラレ、詳細ナル報告書ト共ニ之ヲ本會ヘ提出セラレタルヲ以テ、四月東京帝國大學ニ於テ之カ報告展覽講演會ヲ開催シテ廣ク一般ニ紹介シ、蒐集品二百五十餘點ニハ更ニ同年度ニ於テ整理費ヲ補助シテ表裝等ヲ施シ、假ニ同大學漢文學教室ニ寄託セシカ、大正十二年九月震火災ノ爲メ燒失セルハ頗ル遺憾ナリ。但シ踏查報告ハ概要ヲ本會講演集ニ、詳細ヲ同氏著「支那佛教史蹟」ニ發表セラレ、右燒失品ノ一部ハ寫眞トシテ同著ニ掲載セラレアリ。

四、英國博物館所藏支那古寫本ノ研究

東京市外瀧野川町三六五

金一萬一千一百圓ノ補助 (三回ニ決定)

文學博士 矢 吹 慶 輝

本事業ハ彼ノ探險家「スタイン」氏ノ中央亞細亞燉煌發掘品ニシテ「ブリチ」シ、ミユジ「アム」保管ノモノノ中ヨリ、東洋ノ宗教、歴史等ニ關スル重要文書ヲ撮影シテ調査研究セラレタルモノナリ。此等ノ古寫本ハ印度文明殊ニ佛教ノ貴重材料トシテ世界學界ノ注目スル所ニシテ、最初矢吹氏ハ大略四千葉ノ「ロート」グラフニ五百餘點ノ古寫本ヲ撮影シテ、之ヲ研究センコトヲ希望セラレ、大正八年六月本會ハ其經費トシテ金三千五百

圓ヲ補助セリ。依テ早速撮影ヲ依頼セラレシカ歐洲戰後同博物館ノ整理手間取り、殊ニ同寫本ノ番號等移動シ目錄ノ作製抄ラサル等ノ爲メ撮影豫定ノ通り進捗セス、遂ニ氏ハ特ニ渡英シテ親シク關係當局ヲ援助盡力スルニ非ラサレハ到底其目的ヲ達成シ難キヲ確メラレ、本會ハ更ニ四千八百圓ノ渡英費ヲ補助シタリ。同氏ハ十一年十二月渡英シ、其後非常ナル努力苦心ノ結果、豫定ノ通り撮影ヲ了ヘ、十二年九月歸朝セラル。尙其ノ渡英中更ニ一千七百餘葉ノ貴重資料ヲ發見シ、氏ノ責任ヲ以テ撮影註文セラレシモノアリ、本會ハ同一資料ヲ一纏メトシ置クヲ有益ト認メ、之ヲ買受ケ、合計六千葉(七百餘點)ノ表裝其他ノ整理費ヲモ支出シ、氏ノ盡力ニ依リ全部ノ整理結了セリ。而シテ同氏ハ此等ノ文書ニ付、既成ノ研究成績ニ對シテ恩賜賞及學位ヲ受ケラレ、十四年四月本會主催ヲ以テ、東洋文庫ニ於テ、又昭和四年十一月京都ニ於テ、本會ト大藏會ノ共同主催ヲ以テ、右寫眞ヲ展覽シ、同氏ハ之ニ就キ講演セラレタリ。

五、日本家庭ニ於ケル電力ノ應用

金四千圓ノ補助

故 工學博士 島 瀉 右 一

本事業ハ電力ヲ日本家庭ニ應用スルニハ如何ナル方式竝ニ器具裝置ヲ採用スヘキヤ、又瓦斯薪炭ニ比シ經濟的ニ利用シ得ルヤ否ヤヲ研究シタルモノニシテ、大正十年四月以降本會ニ於テ之ヲ援助シタリ。而シテ本研究ノ主眼トセシ所ハ(一)如何ニシテ使用電力ノ極大値ヲ極小ナラシメ得ルヤ、(二)夜間水力ノ徒ラニ流レテ失ハルル電力ヲ家庭ニ於テ利用スル方法ナキヤ、(三)冬期煖房ニ使用スル電力ヲ夏季有效ニ家庭ニ使用スルノ途ナキヤ等ノ諸問題ニシテ、同氏ハ前二者ニ對シテハ充分ニ保溫セラレシ容器内ニ藏セル水ヲ一氣壓以上ノ高氣壓攝氏一〇〇度以上ノ高溫度ニ熱シテ貯藏スル事ニ依リテ其目的ヲ達スヘク、後者ニ對シテハ冬季煖房ニ使用セルヲ夏季冷藏浴場ニ使用シテ其目的ヲ達セン事ニ努力シ、然モ日本中流家庭ノ負擔力ヲモ考慮セラレ、又電氣鍋等ノ考案モ成リ、其成績ハ「蓄電庖廚裝置ト電氣鍋竝ニ電氣火鉢」ト題シテ之ヲ發表シ、之ニテ學理上ノ研究ハ既ニ一段落ヲ告ケラレタリ。而シテ更ニ其工業品トシテ實用化スルコトノ研究ヲ繼續スルノ豫定ナリシニ、大正十二年六月俄ニ病歿セラレシハ洵ニ遺憾トスル所ナリ。

六、瓜哇史ノ翻譯

金二千圓ノ補助

神奈川縣藤澤町鵜沼海岸

松岡靜雄

本件ハ先年蘭領東印度政府國民教科書委員會ヨリ發刊セラレタル蘭人フロイン、メース女史著「瓜哇史」(蘭文)ヲ邦語ニ譯述考證セラレタルモノナリ。元來瓜哇ハ南洋諸島中最古ノ文化ヲ存シ、二世紀ノ半頃既ニ「黃金ノ國」米ノ國トシテ印度、埃及ニ知ラレ、而シテ又我國トハ種々密接ナル關係アリ、即チ古代瓜哇ハ考古學上等我古代史ト關連アルヘク、同シク佛教國トシテ宗教上ノ關係モ存シ、其蘭領トナリシ後ニ於テハ彼我頻繁ナル交通アリ、現時ニ於テハ貿易上ノ關係亦淺カラス。故ヲ以テ邦人ノ瓜哇ニ關スル知識ヲ必要トスルハ勿論ニシテ、其ノ歴史研究ノ如キモ極メテ肝要ナリトス。然ルニ從來瓜哇ニ關スル簡明適切ナル歴史書乏シク、之カ邦譯セルモノニ至ツテハ皆無ニシテ研究者ノ遺憾トセシ所ナリシニ、フロイン、メース女史ノ本書ハ行文簡明内容充實頗ル適當ナル瓜哇歴史ニシテ、挿入セル佛畫ノ如キ極メテ見事ナルモノ多シ。而シテ松岡氏ハ多年此方面ノ研究ニ從事セラレ、本書ノ譯述考證ニハ最モ適任ト云フ可ク、依テ本會ハ大正十一年十二月來、本件ヲ援助シ同氏ノ努力ニ依リ既ニ事業完成シ「瓜哇史」ト題

シテ、出版セラレタリ(菊判四百三十二頁)。尙内二十部ハ之ヲ本會へ提出セラレ本會ハ同書ノ利用多キ諸方面へ配布シタリ。

七、古語拾遺ノ研究、英譯及ヒ出版

金二千圓ノ補助

東京市小石川區丸山町一一

文學博士 加藤 玄 智

東京市麴町區三番町八三

文學士 星野 日子 四郎

本事業ハ加藤、星野兩氏ノ協同事業ニシテ、本邦古代ノ文獻中日本書記、古事記ニ尋キテ貴重ノ資料タル古語拾遺ヲ研究シ、其本文竝ニ同研究成績ヲ英譯シ、而シテ右全部ノ出版ヲ爲シ、以テ内外學界ニ貢獻シ、併テ日本ヲ海外ニ紹介セラレタルモノナリ。先ツ初ニ本書ノ内容ヲ批評的ニ攻究シ、本書成立ノ年時ヲ考へ其目的ヲ明カニシ、之ヲ其時代相ニ照シテ本書ノ歴史的價値ヲ論究シ、又各章句ニ出入シテ批評的研究ヲ行ヒ、其結果ニ成レル詳細ナル脚註ヲ施シ、卷末ニ於テハ古今ニ互ル古語拾遺ノ異本及ヒ、註釋書ノ「ビブリオグラフィ」ヲ附セラレタリ。本會ハ大正十二年七月來之ヲ援助シ、兩氏ノ

苦心ニ依リ十三年七月 “The Kogoshui or Gleaning from Ancient Stories” ト題シ出版セラレタリ(菊版百九頁。其後二版發行)。内百部ハ本會ニ提供セラレ、本會ハ利用多キ諸方面へ配布シタリ。

八、校本萬葉集ノ整理及刊行

金一萬四千圓ノ補助

東京市本郷區西片町一〇

佐々木 信 綱

「事業」萬葉集ハ我國固有文明ノ產物トシテ最貴重ナル古典ナルコトハ言フ俟タス而モ其ノ研究ノ基礎タルヘキ校訂ノ業ニ至リテハ、鎌倉時代ニ仙覺律師カ諸本ヲ集メテ定本ヲ作りシ以來特ニ企テラレシコトナシ。佐々木氏之ヲ遺憾トセラレシカ、明治四十五年氏ノ希望文部省文藝委員會ニ容レラレ、爾來氏ハ文學士橋本進吉、同千田憲、武田祐吉氏等ト共ニ萬葉集校訂ノ事ニ從ヒ、同會廢止後ハ東大文學部國語研究室ニ於テ古河男ノ寄附ニ依ル國語研究獎學資金ニ依リテ之ヲ繼續シ、現存ノ古寫本全部ヲ各地ニ搜索シ、宮内省、有栖川宮家ヲ始メ諸家ニ請ヒテ、一々原本ニ就キテ嚴密ナル校合ヲ施行シ年ヲ閱スルコト滿七年、漸ク其校合ヲ終ルコトヲ得タリ。依テ其原稿ヲ整理シテ刊行ヲ爲スヲ必要トシ、大正八年十一月本會ノ援助ヲ求メラレ、本會ハ右整理刊行ノ經費

ヲ支給スルコトトセリ。其後本事業ハ著々進捗シ、文學士久松潜一氏ニ囑セシ仙覺以後ノ研究ノ補入モ成リ、能書家ヲシテ之ヲ淨書セシメ、寫真金屬版ニ附シ、大部分ノ印刷及製本完了セシニ、大正十二年九月ノ震火災ノ爲メ原版製本共灰燼ニ歸シタルハ千秋ノ恨事ナリキ。然ルニ幸ニモ全部ニ付完全ナル校正刷ノ焼失ヲ免レシモノアリ、直ニ再印刷ヲ行ヒ、既ニ第一帙(首卷二冊附卷一冊諸本輯影二冊)、第二帙(自卷一至卷四、四冊)第三帙(自卷五至卷九、五冊)、第四帙(自卷一〇至卷一四、五冊)、第五帙(自卷一五至卷二〇、六冊)全部ヲ出版セラレ以テ其完成ヲ告ケ、本會ニ提供セラレタルモノハ各方面ニ寄贈シタリ。

九、更科日記錯簡考ノ出版及同註釋ノ研究

東京市小石川區大塚仲町二六

金九百圓ノ補助

玉井幸助

「事業」更科日記ハ平安朝文學中出色ノ作品タルニ拘ラス、數百年間錯簡ノ儘傳ハリ、前後連絡ヲ缺キ、學者其解釋ニ行詰リ居タリ。玉井氏ハ多年同日記ヲ研究シ、殊ニ其ノ錯簡部分ノ解釋ニ苦心ヲ重ネ、錯簡ノ改訂ヲモ試ミタリ。而モ之ヲ立證スヘキ古書ノ

探求ニ餘念ナカリシニ、偶々佐々木信綱氏ノ指導ニ依リ、帝室ノ御物タル藤原定家筆更級日記ヲ拜觀スルコトヲ得、コレカ、錯簡ノ根源ナリシコトヲ發見シテ錯簡ノ依テ生セシ所以ヲ究明シ、自家ノ研究ト符合スルコトヲ確メタリ。依テ氏ハ右御物本ニ由リ錯簡ノ由來ヲ證明解説シ、同日記ヲ正シキ舊形ニ復シ之ヲ出版スルト共ニ、其註釋書ヲモ完成セント欲セラレ、大正十三年十一月來本會ハ其經費ヲ援助スルコトトセリ。而シテ氏ハ十四年五月「更級日記錯簡考」ヲ出版シ、本會ニ提供セラレシモノハ各方面ニ寄贈シタリ、尙同年十二月「更級日記新註」ヲ出版セラレタリ。

一〇、日支漢辭典ノ編纂出版

對譯漢辭典ノ編纂出版

故服部操

「事業」本事業ハ辭典ノ編纂トシテハ大正十年中ニ完成シ原稿全部ノ提出アリシモノナルカ、營利業者ノ出版ヲ引キ受クル者無キ爲メ、更ニ三十年度以降ニ於テ出版費ヲ援助セルモノナリ。元來日支關係ノ重大ニシテ、且ツ支那留學生ノ渡來多キニモ係ラス、彼等カ本邦文物ヲ研究スルニ當リ適當ナル辭典ナシ。例ヘハ漢字ニテ書キタル現

代日本語中取扱、馬鹿、割合、割引、爲替、書留、掛値、掛賣、面倒、世話、怪我、辛抱等吾人ノ日常語ノ多クハ「言海」ことばの泉等ノ國語辭典中ニハ之ヲ解ケトモ、其ノ語ノ讀ミ方ヲ知ラサル支那人ニハ利用ノ方法ナク、又此等ノ現代語ハ、典故正シキ熟語ニ非サル故ニ辭林等ノ漢語辭典ニ之ヲ掲ケサルヲ以テ、結局此等ノ語ヲ知ルカ爲メニ支那人ノ利用シ得ル辭典ナク、日本語ヲ研究セントスル支那留學生等ノ最モ苦ム所ナリ。服部氏之ヲ遺憾トシ大正八年四月以降本會援助ノ下ニ、此等ノ日本語ヲ劃引ニ依リ、且ツ支那語ヲ以テ解説セル辭典ノ編纂ニ著手シ、爾來氏ハ非常ノ苦心ヲ以テ其編纂ヲ結了セラレ、之ヲ「日華大辭典」ト題シ印刷ニ附シ、大正十四年八月完成、内參拾部ヲ本會ニ提供セラレ本會ハ利用多キ各方面ヘ寄贈シタリ。

一、烏頭屬植物中ノ「アルカロイド」ノ研究

金二千三百二十二圓ノ補助（三回ニ決定）

仙臺市米ヶ袋中ノ坂通三六

理學博士 眞 島 利 行

「事業」

烏頭屬植物ハ猛毒性「アルカロイド」ヲ含有スルモノ多ク、就中英獨諸國ノ *Acornitum napolls* 中ニハ「アコニチン」ト稱スル「アルカロイド」ヲ含ム事ハ既ニ知ラルル所ナル

カ、其ノ化學的構造ニ至リテハ研究至難ニシテ些ノ進捗ヲ見ス。本邦ニテ本屬植物ハ各地ノ山地ニ野生シ藥用トシテ使用セラル、眞島氏ハ數年前ヨリ廣ク邦產ノ原料ヲ蒐集シテ此「アルカロイド」ノ研究ニ從事セラレシカ、大正十年四月來本會援助ノ下ニ之ヲ繼續スルコトトナレリ。而シテ其後同氏研究ノ事項ハ（一）植物種類及其產地ト所含「アルカロイド」ノ本質トノ關係、（二）同一產地ノ同種植物ニ就テ採種時期ト所含「アルカロイド」トノ關係、（三）前二項ノ研究ニ於テ漸次蓄積セル材料ヲ以テ本研究ノ究極目的タル「アコニチン」類「アルカロイド」ノ化學的構造ヲ決定スル事ニシテ、秋田、白河、日光、東京附近、伊吹山、白山（加賀）、金剛山（河内）、霧島山、陸奥、北海道、樺太等ノ產品ヲ蒐集シ、白河、日光ニモ栽培ヲ試ミ、「アルカロイド」ノ精製「ヤバコニチン」ノ構造研究ヲ爲シ、其大要ハ獨逸ノ専門雜誌ニ發表シ、更ニ本會ノ補助ニヨリ其ノ詳細ヲ「邦產烏頭屬植物中ノアルカロイドニ就テ」ト題シテ出版セラレ、本會ヘ提出セラレタルモノハ諸方面ニ寄贈シタリ。

一、西日辭典ノ出版

金八千七百七十六圓ノ補助

メキシコ國チャバス州ソコヌスコ郡エスクエトラ町

日暹協働會社 清 野 三 郎

「事業」 西班牙語ハ西班牙本國ハ勿論、墨國ヲ始メ中米、南米ノ諸國及、フィリッピン等ニ通用シ、商業語トシテハ英語ニ次キテ廣ク使用セラレ、或ハ貿易上或ハ植民上今後大ニ同方面ニ發展セントスル本邦人ニハ最モ必要ナル言語ナリ。然ルニ我國ニハ未ダ西日辭典ノ見ル可キモノナク、西班牙語研究者ノ頗ル不便トセシ所ナリ。日墨協働會社之ヲ遺憾トシ即チ本辭典ヲ編纂セリ。同書編纂ハ曩ニ外國語學校ヲ卒業シテ京都同志社ノ講師トナリ、後日墨協働會社員タリシ村井二郎氏之ヲ擔任シ、西班牙語學ノ權威タル外國語學校教授金澤一郎氏之ヲ校閲シ、尙其譯語ハ漢字混リ語ヲ以テスルト共ニ日本式ローマ字ヲ以テシ其部分ハ同式ローマ字ノ先覺者東大教授理學博士田丸卓郎氏自ラ之ヲ校正シ、語數約三萬紙數約千百五十頁ニ達ス。而シテ本辭典ノ出版ノ如キハ營利事業ノ引キ受クル者無キヲ以テ、大正八年十一月本會ニ於テ其ノ出版費ヲ支出スルコトトセリ。其ノ後金澤、田丸兩氏ハ一層嚴密ナル校閲ヲ加ヘラレ、九年六月來博文館印刷部ニ於テ印刷ニ著手シ、既ニ大部分ノ印刷成リシニ、大正十二年九月ノ震災ノ爲メ印刷工場倒潰シ、既成ノ業績散亂シテ一頓挫ヲ來タセシモ、本會ハ更ニ補助ヲ追加シテ再印刷ニ著手シ、十四年十月第一版二千部出版完成セリ。本會ヘ提出セラレタ

ル一千二十五部中百數十部ハ諸方面ニ寄贈シ、殘部ハ實費ヲ以テ讓渡シ、尙會社保有ノ約一千部モ既ニ賣却濟トナリ、何レモ頗ル好評ヲ以テ迎ヘラレ、今ヤ第二版ヲ出スニ至レリ。

一三、「ヴェイルマン」博士研究成績ノ發刊

大阪工業試驗所

金三千圓ノ補助

ビヨトル・ペトロヴィッチ・ヴェイルマン

「事業」 本件ハ「ヴェイルマン」氏ノ研究成績ヲ出版セシモノナリ。氏ハ露國人ニシテコロイド「化學」ノ世界的權威ナリ。水又ハ空氣ノ如ク全部一樣ノ性質ヲ有スルモノヲ均一系ト云ヒ、花崗石ノ如ク色彩性質ノ異リタル部分ヨリ成ルモノヲ不均一系ト稱シ、其中間ニアルモノ例ヘハ牛乳、膠等ノ如キヲ細散系ト言ヒ、細散系ノ物體ヲ研究スル化學ヲ「コロイド」化學ト名ツク。本邦諸大學ニ於テ之ヲ講義スルノ學者アレトモ未タ其專門家ト稱ス可キ人ナシト云フ、同氏齡未タ五十ニ達セサル、新進有爲ノ學者ニシテ、學術研究ニ對シテ頗ル忠實、多數ノ著述アリ、同國諸大學ニ關係セリ。氏ハ戰後本邦ニ流浪シ來ラレ東京帝大ハ氏ノ學力ヲ惜ミ氏ヲ聘シテ同大學理學部ニ於テ二ヶ月ニ涉リ

氏ノ專攻「コロイド」化學ニ付臨時講義ヲ開催シ、其筆記ハ七百餘頁ノ講義録トナル、同大學教授片山博士等ハ之ヲ出版スルコトノ獨リ本邦學界ノミナラス、又世界化學界ノ爲メ頗ル有益ナルヲ認メ、之カ出版援助ヲ本會ニ求メラレ、依テ本會ハ同書ノ世界的ノ良書ニシテ、又斯ル有爲ノ篤學者ヲ援助スルコトノ世界學界ニ裨益スルコト多カル可キヲ信シ大正十二年之カ出版費ヲ補助シ、獨逸ニテ印刷ニ附シ十四年末ニ出版完成シタリ、本會ヘ提供セラレタル百部ハ利用多キ各方面ヘ寄贈シタリ。

一四、假名調査

金一萬二千二百圓ノ補助（三回ニ決定）

故文學博士

大

矢

透

「事業」 假名調査事業ハ國學論上ヨリ見ルモ國語問題ノ上ヨリ見ルモ頗ル重要ナル事項ニシテ、曩ニ文部省内ニ設ケラレシ、國語調査委員會ニ於テモ此事業ニ從事スル所アリ、大矢氏モ亦同會委員トシテ大ニ假名ノ起原及成行等ニ付從來未詳不明ナリシ點ヲ闡明スル所アリタリ。同會廢止ノ後ニ於テモ同氏ハ此ノ研究ヲ續ケ、大正八年七月以降三ヶ年ヲ期シ本會ニ於テ之ヲ援助シ、十一年七月期間滿了シタレトモ、同氏ノ力ニ

俟ツヘキ調査未了ノ事項尠カラサリシヲ以テ、引續キ更ニ三年間氏ノ調査ヲ援助シタリ。本會援助以來氏ハ假名ノ字體、假名遣、及字音ノ沿革ニ付研究ヲ續ケ、八年秋以來居ヲ奈良ニ移シ正倉院聖語藏ノ藏書等ニ付調査シ、十二年秋歸京調査ノ完結ニ努メ、假名遣及假名字體沿革資料トシテ「有林福田方」「十輪經元慶點」「成實論天長點」及「願經四分律古點」ヲ出版シ、唐寫四分律古點「外四卷ヲ脱稿シ、結論トシテ「假名研究」一卷及附屬文書ヲ提出シ、本調査ヲ結了セラレタリ。依テ調査ノ概要、假名ノ研究ヲ本會紀要ニ發表セリ。其他尙同氏著「韻鏡考」モ本會援助ノ下ニ五百部ヲ出版シ、内二百部ヲ本會ヘ提出セラレ、本會ハ學校圖書館等ヘ寄贈シタリ。

一五、「アイヌ」辭典ノ増補改版

金七千五百圓ノ補助

北海道札幌市北三條西七ノ二

神學博士

ジョン・バチラー

「事業」 本件ハ「バチラー」氏著「アイヌ」辭典ヲ増補改版セシモノナリ。「バチラー」氏カ「アイヌ」語學者トシテノ權威ナルコトハ内外定評アル所ニシテ、其著「アイヌ」辭典ノ價值ニ付テモ亦然リ。氏ハ明治十年來朝以來今ヤ七十歳ノ高齡ニ達スル迄四十八年ノ長年

月ノ間終始一貫「アイヌ」人中ニ起居シ、傳道ノ傍ラ「アイヌ」語ノ研究ヲ繼續シ、三十四年「アイヌ」英和辭典附「アイヌ」文典ヲ出版シ、爾來引續キ其ノ研究ヲ遂ゲ、大ニ補足修正ヲ加ヘ新規ニ英「アイヌ」辭典ヲ添付シ以テ之ヲ改版セント欲シ、出版社ニ交渉セラレタレトモ此種特殊ノ著述ヲ引受クル者無ク、醫學博士藤浪剛一氏等「バチラー」氏ノ人格ヲ敬慕セル人々頗ル之ヲ遺憾トシ、之カ出版ヲ本會ニ求メラル。「アイヌ」語ハ古來我國語ニ直接間接甚タ密接ナル關係ヲ有シ、我國語ノ研究及文學歴史言語學等ノ上ヨリ同語ノ研究ハ頗ル必要ノ事ニシテ、又「アイヌ」ノ傳説、歌謠等ノ研究ヲ爲シ「アイヌ」文學ヲ樹立スルカ如キモ甚タ興味アル事ナルカ、此等ノ目的ノ爲メニ完全ナル「アイヌ」辭典ヲ有スル事ハ極メテ緊要ト云ハサルヘカラス。依テ本會ハ其經費ヲ援助シ、稿成リ印刷三分ノ一位進行セシ時、偶々十二年九月ノ震火災ニ遇ヒ全燒シタリ。但シ原稿ハ無事ナルヲ得、本會ハ補助ヲ追加シ、同氏ハ再ヒ印刷ニ著手シ、全部一千部ノ出版成リ、内本會ニ提出セラレシ三十部ハ諸方面ヘ配布シタリ。

一六、日本住宅ニ關スル衛生學的研究

東京市芝區兼房町一三

金九千圓ノ補助

醫學博士

田

村

昌

「事業」住宅ニ關スル衛生學的研究ハ國民保健上又患者治療上洵ニ重要ノ事ナルカ、我國ニハ未タ此種ノ研究頗ル僅少ニシテ多クハ歐米研究ノ糟粕ヲ嘗ムルノ傾アリ。田村氏ハ先年故伊丹博士ト共ニ本研究ニ從事シ、日本住宅室内空氣ノ理化學的性狀ト健康生活トノ關係及疾患治療竝ニ其經過ニ及ホス影響ヲ知ルコトニ努メ、先ツ簡單ニ而モ完全ニ日本室内空氣ノ炭酸瓦斯検査方法ヲ考案シ、又換氣測定ニ付テモ日本室ニ適切ナル方法ヲ工夫シ、之ニ依ツテ既ニ日本住宅ノ煖房ト溫炭酸瓦斯換氣等ノ研究ヲ爲シ、伊丹氏ノ死去後ハ伊丹氏ノ研究所ニ立籠リ、熱心ニ本研究ヲ繼續セラレ、大正十一年一月以來本會援助ノ下ニ之ヲ行ハレタリ。而シテ同氏ハ爾來各種ノ新検査方法ヲ考案シ、之ニ依ツテ炭ノ有害瓦斯、室内ノ塵埃、及黴菌等ニ付キ詳細ナル研究ヲ遂クルノ計畫ヲ立テ、更ニ火鉢、炬燵、瓦斯「ストーブ」ト室内空氣ノ化學的性狀變化ニ就キテ研究シ、木炭竝ニ瓦斯ノ燃燒時ニ發生スル有害瓦斯ノ種類及分量ノ測定法ヲ完成シ、且木炭ノ種類ト有害瓦斯ノ量トノ關係、及ヒカカル有害瓦斯ノ簡易除去方法等ヲ研究シ、(一)日本室ノ換氣ニ就テ、第三報告(二)空氣中ノ有害瓦斯ニ就テ、第一、二、三、報告竝ニ亞酸化炭

素ノ新定量法」(三)病室ト煖房ト其空氣」(四)空氣中ノ有形物質第一、二、報告」(五)空氣ノ衛生學的研究」等ノ論文ヲ發表シ、又喫煙時室內空氣中ニ含有サルル「ニコチン」量等ニ就テ研究セラレタリ。

一七、支那財政ノ研究

東京市外東中野七九六

二ケ年ニ金五千三百圓ノ補助

經濟學博士 木村 増太郎

「事業」本事業ハ支那ノ財政組織竝ニ諸制度ヲ調査研究スルト同時ニ、他方其ノ經濟上ノ組織ル研メ、國策上ヨリ之ヲ批判シ、以テ支那財政ノ革新策ヲ研ムルヲ以テ目的トセリ。元來支那ノ財政組織ハ頗ル錯雜紛糾ヲ極メ、歲出入ノ如キモ其真相ヲ知ルコト難ク、從テ支那財政ニ關シテ未タ完全ナル研究ノ公ニセラレタルモノ無ク、爲メニ支那政治ノ基本確立セス、嘗ニ同國ノ憂ノミニアラサリシナリ。木村氏之ヲ遺憾トシ、夙ニ此種ノ研究ニ著手セラレシカ、更ニ一層深遠ナル根本的研究ヲ爲サンカ爲メ、資料蒐集及實地踏査費ノ援助ヲ求メラレ、大正十二年四月來本會ハ之ヲ援助シタルナリ。爾來渡支セシコト三回、熱心ニ研究ヲ進メラレ、十四年其研究成績ノ一部トシテ「支那財政ノ

真相ト其革新ニ就テ」、「支那ノ關稅改正問題」ノ二報告ヲ提出セラレ、本會ハ之ヲ「紀要」ニ掲載シテ諸方面ニ配布シタリ。而シテ氏ハ昭和二年十一月其研究ヲ大成シ「支那財政論」一卷ヲ出版セラレ、其中十一部ハ本會ニ提供セラレタリ。依テ本會ハ利用多キ諸方面ニ之ヲ配布シタリ。而シテ同氏ハ此研究成績ニ對シ學位ヲ受ケラレタリ。

一八、爬蟲類等ノ聽覺ノ研究

京城帝國大學文學部

金一千圓ノ補助

文學博士 黒田 亮

「事業」本事業ハ爬蟲類ノ聽覺ニ付キ實驗的研究ヲ行ヒ、進ンテ兩棲類、魚類ニ及ホシ、以テ下等脊椎動物ヲ通シテ聽覺ノ系統的研究ヲ企圖セシモノナリ。由來感官ノ生理ニ關シテハ殆ント研究ノ見ル可キモノ無ク、而シテ比較心理上重要ノ位置ヲ占ムルハ下等脊椎動物ノ聽覺機能ナリトス。魚類ノ聽覺ノ如キ多數學者ノ研究アレトモ、尙其存否ニ付キ斷定的結論ヲ見ス。黒田氏茲ニ顧ル所アリ、先ツ本邦産「イシガメ」及「カナヘビ」ニ就テ實驗ヲ行ヒ、之ヲ米國比較心理學雜誌ニ發表シテ、學界ニ注目セラル。氏ハ更ニ本研究ヲ擴張完成センカ爲メ本會ニ補助ヲ求メラレ、大正十二年七月來之ヲ援助シ

タルモノナリ。其後氏ハ本邦産「ヘビ」ノ各種類「スツボン」「イシガメ」「トカゲ」「イモリ」等ニ就キ生理的實驗ヲ行ヒ、尙之ト聽器ノ病理解剖上ノ知見トヲ對照スル爲メ、病理解剖的實驗ヲ進メラレタリ。而シテ研究成績ノ大要ハ心理學會ニ於テ報告シ、又「Experimental Researches upon the Sense of hearing in lower Vertebrates, including Reptiles, Amphibians, and Fishes.」ト題シテ發表セラレ、昭和五年二月本研究ニ依リ學位ヲ受ケラレタリ。

一九、常磐炭田ニ於ケル炭層ノ研究

東京市外大久保百人町三二〇

金四千圓ノ補助

理學博士 德 永 重 康

「事業」石炭ノ研究ハ燃料研究中最モ重要ナルモノナリ。而シテ之カ研究ハ諸方面ヨリスルヲ要シ、徳永氏ハ其專攻ニ係ル地質學ヲ基礎トシテ、石炭層ト共ニ發見セラルル植物化石ヲ研究シ、又石炭ヲ薄片トシテ顯微鏡下ニ檢シ、時ニ必要ナル化學試驗ヲ爲シ、即チ石炭原料タル古代植物ノ研究及ビ石炭ノ物理的研究ヲ行ハレシモノナリ。前者ハ炭層ト化石層トノ關係ヲ明ニシ、以テ斷層ノ所在落差ヲ知ルヲ得ヘク、後者ハ石炭ノ構造ヲ攻査シ、性質及ヒ組織ヲ明ニシ、以テ石炭ノ利用ニ資スヘク、何レモ學術應用兩

方面ニ關係スルモノナリ。氏ハ東京ニ近ク、且ツ最大ノ供給地タル常磐地方ヲ研究場所トシ、大正五年來調査ニ從ヒ、既ニ成績ノ一部ヲ發表セラレタリ。而シテ更ニ之ヲ繼續擴張シ研究ヲ完成セント欲シ、經費ノ補助ヲ求メラレ、本會ハ氏ノ適任ナルヲ認メ、大正十二年二月來之ヲ補助シタルモノナリ。爾來氏ハ折角研究ヲ進メラレ、常磐炭田地内ノ溫泉、「地質學上ヨリ見タル常磐炭田ノ將來」等ヲ發表シ、又昭和二年五月「常磐炭田地ノ地質」及「常磐炭田地質圖」ヲ出版シテ本研究ヲ完結セラレタリ。内本會ニ提供セラレタル二十部ハ之ヲ利用多キ諸方面ヘ配布シタリ。

二〇、「大唐西域記」ニ記セル東南印度諸國ノ研究」ノ出版

金一千五百圓補助

故文學士 高 桑 駒 吉

「事業」唐ノ僧玄奘カ前後十七年間印度各地ヲ歴遊記録セル大唐西域記ハ、印度史研究上貴重ナル資料ニシテ、解説セル者少カラス。然レトモ其中東南地方ニ關スル記事ハ疎ニシテ盡サス。解説困難ニシテ、誤謬多シ。高桑氏之ヲ遺憾トシ專ラ此方面ニ主カヲ注キ先人ノ研究ニ數歩ヲ進メラレタリ。是レ蓋シ同氏ハ印度史、印度古語ニ通曉

セルト共ニ、外人ノ不得手トスル漢學竝ニ佛教方面ニモ造詣深キノ結果ニシテ、從來不安定ナリシ、東南印度史ノ地盤ニ若干固定點ヲ與ヘ、同地歴史研究上一功績ヲ舉ケラレタルモノト云フ可シ。然ルニ本書ハ特殊ノ研究ニシテ、書肆ノ出版ヲ引受クルモノ無ク、本會ノ援助ヲ求メラレタルニ依リ、即チ其經費ヲ補助シ、全部一千部ノ印刷成リ、内四十部ヲ本會ヘ提出セラレ、本會ハ諸方面ヘ配布シタリ。同氏ハ昭和二年七月俄ニ病歿セラレ、洵ニ哀悼ニ堪ヘサル所ナリ。

二一、「經濟上ヨリ觀タル蘭領東印度」完成竝ニ出版

神奈川縣鎌倉町材木座一七四

金一千四百圓ノ補助

增 井 貞 吉

「事業」 增井氏ハ明治四十四年以來瓜哇ヲ始メ南洋各地ヲ歴遊スルコト十數年、其間蘭領東印度ノ資源、産業、制度、習慣、貿易關係、投資事情等諸般ノ事項ニ付キ、頗ル詳細ナル調査ヲ遂ケ、之ヲ記述シテ、四百餘頁ニ上ル。而シテ氏ハ此ニ一層嚴密ナル増補改訂ヲ施シテ其完璧ヲ期シ、之ヲ出版センコトヲ希望セラレ。蘭領東印度ハ比較的本邦ニ近ク、且ツ邦人海外發展ノ有望地ニシテ、其實情ヲ周ク一般ニ紹介スルコトハ頗ル肝要ノ

コトニシテ、夙ニ本會ノ切望セル所ナリ。偶々實際家ニシテ研究家タル同氏ニ依ツテ本事業ノ企圖セラレタルハ、本會ノ欣幸トセシ所、依テ大正十四年十二月標記ノ通り同書編纂ノ完成竝ニ其出版ニ要スル經費ノ援助ヲナスコトトシ、其後編纂完成シ、全部一千部ノ印刷成リ、内二百部ヲ本會ヘ提出セラレタリ。本會ハ其内四部ヲ獻上シ、殘ヲ諸方面ヘ配布シタリ。

二二、植物色素ノ生物化學的及分光化學的研究

東京市小石川區小日向臺一ノ一

金一萬五百圓ノ補助(二回ニ決定)

理學博士 柴 田 桂 太

東京市外大久保町百人町三一八

理學博士 柴 田 雄 次

「事業」 本研究ハ柴田兩氏ノ共同研究ニシテ其目的トセシ所ハ植物界ニ極メテ廣ク分布スル「フラヴォン」族色素ヲ生物化學及分光化學ノ兩方面ヨリ研究シ、遂一其種別性狀ヲ明カニシ且ツ其分子構造ヲ定メ、以テ植物生理上ノ意義及ヒ農工業ニ於ケル應用ニ關スル基礎知識ヲ確立シ、傍ラ又花果紅葉等ノ色素類、樹皮木材等ニ存スル諸染色物

質ト「フラヴオン」化合物トノ關係ヲ尋釋シテ、物質代謝作用、遺傳現象等ノ考究ニ貢獻セ
 ントセシモノナリ。本研究ハ柴田氏從來ノ研究ナルカ大正八年七月以降本會ニ於テ
 之ヲ援助シ、大正十二年六月補助ヲ追加シタリ。而シテ本會援助以後數名ノ助手ト共
 ニ研究ヲ續ケ、其成績トシテ(一)黄荅ノ新「フラヴオン」族化合物ニ關スル研究(和文及獨文)、
 (二)カルコン及其誘導體ノ吸收スペクトル(和文及獨文)、(三)フラヴオン類色素ノ吸收ス
 ペクトル研究(第一報獨文)、(四)ベンゾフェン族化合物ノ分光化學的研究(獨文)、(五)藻紅
 素及藻青素ノ生物化學的研究(獨文)、(六)新フラヴオン配糖體アカシインノ研究(獨文)、
 (七)フラヴオン族化合物メチール誘導體ノ分光化學的研究(獨文)、(八)フラヴオン及フラ
 クヴオノール配糖體ノ分光化學的研究(獨文)、(九)自然的ベンゾフェン誘導體ノ吸收ス
 ペクトル研究(獨文)、(一〇)クマリン誘導體ノ吸收スペクトル研究(獨文)、(一一)フラヴオン
 族植物色素ノ吸收スペクトル研究第四、アントチアン、カテヒン及キサントン誘導體ノ
 吸收スペクトル(獨文)、(一二)アセトフェノン誘導體ノ研究(獨文)、(一三)アルカロイド性色
 素ノ研究(獨文)等ヲ發表シテ昭和二年七月本研究ヲ完結セラレタリ。

二三、「徳川制度史料」ノ出版

金二千圓ノ補助

東京市下谷區上根岸八二

小野清

「事業」明治維新以後本邦上古ノ制度又ハ泰西諸國ノ文物ニ關スル調査研究ハ長足
 ノ進歩ヲ見タレトモ、徳川時代ノ制度ニ關スル調査ハ、二三篤志ノ學者ノ外殆ント閉却
 セルノ觀アリ。然ルニ年ヲ經ルニ從ヒ當時ヲ實見シタル古老ハ逝キ、文獻亦漸ク散逸
 セントス。小野氏之ヲ慨嘆シ、記録ヲ探求シ、珍書ヲ涉獵シ、或ハ當時ノ當路者ニ實話ヲ
 聽取シ、具ニ同時代ノ制度ヲ調査セラルルコト二十年ナリ。標題掲クル所ハ其ノ一部
 ニシテ、柳營行事、關所調等頗ル有益ナル史料ヲ收ム。大正十四年十二月本會ニ於テ其
 ノ出版費ヲ援助スルコトニ決シ、同氏ハ直ニ之ヲ著手セラレ昭和二年十月「徳川制度史
 料」一千部ヲ印刷發表セラレタリ。内三十部ヲ本會ニ提出セラレ、本會ハ利用多キ諸方
 面ヘ配布シタリ。

二四、「山椒魚ノ研究」竝同出版

金參千圓ノ補助(二回ニ決定)

小石川區西原町二ノ四〇

田子勝彌

「事業」 山椒魚ハ東亞ニ産スル動物ニシテ、本邦領土内ニハ種族ニ富ミ、且ツ其種類ニ依リテハ特ニ地方ヲ限リテ饒産スルモノアリ、就中大山椒魚ハ本邦及ヒ支那ノ一部ノ河川ニノミ特産スル稀有ノ動物トシテ世界的ニ有名ナルモノナリ。田子氏ハ明治三十六年以來此動物ノ研究ニ發心シ、公務ノ餘暇全國各地ノ山川ヲ跋涉シテ山椒魚ノ種類及習性ヲ研究セリ。退官後専心本研究ニ没頭シ、大正十五年三月以來本會ノ援助ニ依リ本邦産山椒魚ノ標本ヲ蒐集シ其分布、習性等ノ研究ヲ遂ケ、特ニ大山椒魚ノ産卵ニ關スル習性ヲ明カニスルコトヲ得、發生學上智見ヲ増進セラレタリ。而シテ氏ハ既ニ其研究ヲ完成、日本産有尾兩棲類ニ就テ「報告シ、更ニ昭和三年來本會ノ援助ヲ受ケ、蝶蛭ト山椒魚ト題シテ昭和六年一月出版ヲ完成セラレタリ。内三十部ヲ本會ニ提供セラレ、本會ハ利用多キ方面ヘ配布シタリ。

二五、生體染色及細胞ノ機能的鑑別ノ研究

京都市上京區田中關田町二二

金二萬九千圓ノ補助(二回ニ決定)

醫學博士 清野謙次

「事業」 「生體染色ノ研究」ハ清野氏カ明治四十三年來ノ研究ニシテ、本會ハ大正八年來

援助スルコトトセリ。引續キ氏ハ頗ル熱心ニ研究ヲ續ケ十年研究題目ヲ擴張シ標記ノ如ク之ヲ改メタリ。而シテ爾來氏ハ京大醫學部ニ於ケル他ノ研究者ト協力シ銳意研究ノ進捗ヲ計リ、其ノ成績ハ著書雜誌等ニ掲載シ、更ニ合本トナシ大正十年末迄ノ分ハ「生體染色ノ研究」第一卷研究報告第十五編同第二卷(同氏著生體染色研究ノ現況及其檢査術式)同第三卷研究報告第十四編(トシテ發表シ、頗ル學界ニ注目セラレ十一月五月帝國學士院賞ヲ受ケラル。其後更ニ著々研究ヲ進メラレ、生體染色及細胞ノ機能的鑑別ノ研究第四卷(研究報告三十七編)同第五卷(研究報告三十六編)同第六卷(研究報告三十八編)同第七卷(研究報告十八編)同第八卷(研究報告三十編)及同第九卷(研究報告十七編)トシテ合本出版シ、本研究ヲ完結セラレタリ。

二六、日本藻類圖譜ノ出版

京都市小石川區高田豐川町四二

金六千八百圓ノ補助

理學博士 岡村金太郎

「事業」 岡村氏ハ明治三十三年以來敬業社ヨリ日本海藻圖說ヲ出版シ、同社解散ノ爲メ第一卷第六冊ニ至リテ中絶シタルヲ以テ、其跡ヲ承ケ四十年以來氏ノ獨力ヲ以テ日

本藻類圖譜トシテ出版ヲ續ケラレシカ、第四卷第四冊迄三十四冊出版以來物價暴騰ノ爲メ再ヒ中絶スルノ止ム無キニ至レリ、依テ之ヲ繼續出版センカ爲メ大正九年七月以降本會ニ於テ其經費ヲ支出スルコトトセリ。本會ハ別記ノ通り田中氏ヲ援ケテ日本産魚類圖說ヲ發刊シツツアリ、岡村氏ノ此ノ藻類圖譜ハ藻類ニ付テ右魚類圖說ト相對比スヘキモノニシテ、其ノ價值ニ至リテハ内外學界ノ等シク承認スル所ナリ。上記日本海藻圖說ニ掲載セル分ヲ加フレハ同氏ハ本會援助前已ニ二百三、四十種ノ藻類ヲ圖說シ、其後モ亦每冊銅版五枚ヲ挿入シ、著色原版刷トシ、歐和兩文ヲ以テ説明ヲ加ヘ、昭和二年末迄ニ豫定ノ通り十六冊ヲ出版シ約八十種ノ藻類ヲ圖說セラレタリ。

二七、實驗遺傳學上ノ研究

東京市外千駄ヶ谷町大字原宿八九

金一萬二千圓ノ補助(二回ニ決定)

理學博士 池野成一郎

「事業」本事業ハ本邦農作物園藝植物等ニ就テ實驗遺傳學上ノ研究ヲ遂ケ、此等植物ノ品種改良ノ根本原理ヲ明ニシ、間接ニハ亦人種改良ニモ資セントスルモノナリ。本會カ本件ヲ援助スル事ニ決定セルハ大正九年七月ナリ。爾來氏ハ著々研究ヲ進メ、昭

和三年迄(一)「まつばたん」ノ花色遺傳ノ研究ノ一部ヲ東大紀要ニ「Studies on the Geneties of Flower-Colours in *Portulaca grandiflora*」ト題シテ發表、又獨逸ノ遺傳學雜誌ニ發表、更ニ日本植物學輯報(同研究第二報)ニモ發表シ、(二)「まほばこ」ノ復歸現象ヲ探求シ學術研究會議發行植物學輯報ニ「Erbiichkeitsversuche einigen Sippen von *Plantago major*」ト題シテ發表、尙「まほばこ」ニ就テ特異現象ヲ發見シ、其ハ所謂「殺ス因子」二個ノ生出ニ基クコトヲ實驗證明シ、日本植物學輯報及獨逸生物學雜誌ニ發表、尙オランダ國ハーグ府出版遺傳學文獻ニ「まほばこ科」全體ニ關スル實驗遺傳學上ノ研究ノ大要ヲ總合敘述シ、(三)「まほむぎ」穗ノ芒ニ關スル研究ヲ結了シ、其結果ヲ學術研究會議發行植物學輯報第二卷第三號ニ發表シ、又「まほむぎ」穗ノ條列偶然變更ノ研究ヲ終ヘ、其ノ成果ヲ獨逸國發行ノ遺傳學雜誌ニ發表シ、(四)「たうがらし」ノ子房室數ノ遺傳的行爲ヲ調査シ、(五)「やなぎ」屬ノ奇現象ニ就キ *Annals of Botany* = "On Hybridization of some Species of *Salix*" ト題シテ發表シ、(六)「まほばこ」遺傳學上ノ研究ヲ發表シ、以テ本研究ヲ完結セラレタリ。

二八、俗間藥ノ研究

東北帝國大學醫學部

金九千六百三十圓ノ補助

醫學博士 八 木 精 一

「事業」古來俗間ニ於テ疾病治療ノ目的ニ使用セラレル物質極メテ多シ、其ノ果シテ治病的作用ヲ有スルヤ否ヤハ一二臨床的觀察ヲ以テ決スヘカラス、又醫家ハ此等物質ヲ指シテ治療上何等效果無シトスル傾アレトモ之亦根據ヲ有セス、之カ科學的研究ヲ行ヒテ其價值ヲ決定セスハ、徒ニ俗間ノ濫用ヲ擅ニシ或ハ醫家ヲシテ有效物質ヲ等閑ニ附セシムル憾アリ。茲ニ於テ八木氏ハ廣ク俗間藥ヲ蒐集シ、其ノ治療的作用竝ニ有害作用ノ有無ヲ藥物學的研究センコトヲ企テ、大正八年六月東北帝大醫學部ニ於テ共同研究者ト共ニ本研究ヲ開始シ、爾來本會ニ於テ之ヲ援助スルコトト爲シタリ。驅蟲藥、利尿藥、解熱藥、心臟藥等ノ研究ヲナシ、既ニ一位ノ糖尿抑制作用ニ就テ、「商陸根ノ藥物學的研究」、「強心藥ぢぎたりす葉ニ關スル研究(和文)第一報、第二報、及英文」、「昆布ノ強心利尿作用ニ就テ(和文及英文)」、「芭蕉根ノ解熱作用ニ就キテ」、「俗間利尿藥梓、濱茶及岩落ノ藥物學的作用ニ就テ」、「南天實中ノ一新アルカロイド・ナンテニンノ化學的竝ニ藥物學的研究」、「酸漿ノ解熱竝ニ強心作用ニ就テ」、「艾葉ノ解熱作用ニ就テ」、「海人草有效成分ノ抽出竝ニ其作用ニ就テ」、「萬年青根ノ有效配糖體ろでいんノ化學的竝ニ藥物學

的研究、「ヂキタリス屬製劑ノ比較研究」等トシテ、發表シ本研究ヲ完結セラレタリ。

二九、海產動物ノ「プロタミン」竝ニ「ニュークレイック」酸ノ研究

金五千圓ノ補助

東京市外西巢鴨町池袋一〇〇

農學博士 山 川 洵

「事業」「プロタミン」ハ蛋白質ニシテ比較的純粹ニ且ツ容易ニ取り出スコトヲ得ラレ海產動物ニ於テノミ見出サレ、「ニュークレイック」酸ト結合シテ精蟲ノ主精分ヲナスモノナリ。其ノ化學性狀構造ノ研究ハ遺傳ノ研究ニモ貢獻スルモノニシテ、學術上應用上重要ナル研究ナルニ係ラス、今日ニ至ル迄未タ研究ノ見ル可キモノ尠シ。山川氏ハ數年來本研究ニ從事シ、曩ニ米國ニ留學中モ「ロックフェーラー」醫化學研究所ニ於テ專ラ研究シ、發表セラレシ研究成績數種ニ上ル。氏ハ一層本研究ヲ擴張繼續センコトヲ欲セラレ、本會ハ大正十一年一月以降之ヲ援助スルコトトセリ。而シテ氏カ其後ノ研究目的竝ニ事項ハ(一)海產動物ノ精蟲ノ化學的研究、(二)魚類ニ於ケル「プロタミン」ノ分布附新種ノ分離、(三)見出サレタル數種ノ化學的性質ヲ定メ、既往ノモノトノ比較、(四)凡テ

ノ「プロタミン」ノ構造ノ化學的竝ニ物理的研究、(五)「プロタミン」ト他ノ蛋白質トノ比較、(六)海産動物ノ該酸ノ分布、附、各種ノ内臓ニ於ケル該酸ノ分離、(七)之等ニ附隨セル「ヒストン」ノ研究等ナリ。爾來同氏ハ熱心ニ材料ノ採集、資料ノ調査研究ノ進行ニ努メラレ、「新らしきプロタミン」ニ就テ「第二報」乃至「第四報」イースト・ニュークレイク酸ニ就テ「第二報」、「二三」ノプロタミントヒストントに就テ「第一報」バチの精子に就テ「第一報」大羽鱒の精子に就テ「第一報」鯉精子のニュークレイク酸に就テ等ヲ發表シ、本研究ヲ完結セラレタリ。

三〇、「アイヌ」傳説研究ノ整理

東京府下杉並町大字成宗三三二

金一千圓ノ補助

文學士 金 田 一 京 助

「事業」 金田一氏ハ「アイヌ」語專攻ノ學者ニシテ明治三十九年以來「アイヌ」傳説ノ採録蒐集ニ努メ、大凡二千頁ニ達シ其ノ邦譯註解ニ從事セラレシガ、大正十五年三月以降本會援助ノ下ニ其完成ニ努力セラレ豫定ノ通り、第一編「ユーカラ」概説、第二編「アイヌユーカラ」虎杖丸ヲ出版完結セラレタリ。内六部ヲ本會ニ提供セラレ本會ハ之ヲ利用多キ方面ヘ配布シタリ。

三一、小學校圖畫教育改善ノ研究竝ニ「畫ノ教育學」出版 東京府下大井町字山中四三二七

金三千八百圓ノ補助 (二回ニ決定)

上 阪 雅 之 助

「事業」 上阪氏ハ圖畫教育ニ關與スルコト約十五年、其後畫道ニ精進スルコト又十五年、前後三十餘年間畫生活ニ始終セラル、而シテ同氏ハ年來我國ノ圖畫教育カ其本質ニ觸レ居ラサルヲ痛感シ、其根本的改善ヲ企圖セラレ、教育畫研究會ヲ組織シテ諸學校教授竝ニ専門畫家ト共ニ教育畫ノ原理ノ構成ニ從事セラレシガ、昭和二年七月以來本會援助ノ下ニ菅原教造氏等ト協力、本研究ヲ繼續シ、原理的研究ト共ニ小學校圖畫教育ノ改善ニ付キ研究スヘク美學、教育學ノ學者及圖畫教育ノ實際家ト共ニ銳意研究ヲ進メ、其成績ハ小學校、幼稚園等ニテ實地ニ試驗的ニ教授シ、此等ノ結果ヲ纏メテ「畫ノ教育學」ヲ完成提出セラレタリ。依テ昭和三年十二月本會ハ更ニ其出版費ノ補助ヲ決定シ五年五月出版ヲ了シ完結セラレタリ。内三十部ハ本會ニ提供セラレ本會ハ之ヲ利用多キ方面ヘ配布シタリ。而シテ本書ニ於テハ、現行國定圖畫教科書ヲ説明シ、現在圖畫教育ヲ批判シ、將來圖畫教育ノ方針、畫ノ文化ト畫ノ教育トノ關係ヲ説述セラレタリ。

三二、「孔子」ノ出版

東京市外千駄ヶ谷町原宿二一〇

金一千圓ノ補助

法學士 赤池 濃

「事業」 支那春秋時代ノ世相ハ頗ル現今ノ時勢ニ類スルモノアリ。孔子ノ内治外交ハ現代ノ有益ナル參考ト云フベシ。然シテ支那辛亥ノ改變以來一方ニ排孔ノ思想生スルト共ニ他方ニ尊孔ノ運動起リ。孔子研究ノ必要益緊切ナリ、赤池氏ハ多年支那ノ研究ニ従事シ、文獻ニ徴スルト共ニ渡支五回實地ニ視察シ、其間我國及支那ノ現狀ニ刺戟サレ古ヲ新ニシテ來ヲ察センカ爲メ特ニ此研究ノ必要ヲ信シ、學者又ハ思想家トシテノ孔子ニ非スシテ政治家、社會改良家トシテノ方面ヲ研究セラレ、本會ノ援助ニ依リ昭和三年十一月萬世ノ師孔子「一千部」ヲ玄黃社ヨリ出版シ、二百部ヲ本會ニ提供セラル。依テ本會ハ利用多キ各方面へ寄贈シタリ。

三三、圓形瓣ノ研究

東京市外西巢鴨町池袋四六二

三ヶ年間ニ金四千五百圓ノ補助

工學博士 沖 巖

「事業」 圓形瓣トハ「ポンプ」瓣ノ如ク圓板狀ナルモノ、又ハ内燃發動機ノ瓣ノ如ク「キノ」狀ノモノアリ、又「ホイラー」ノ安全瓣ノ如キモノモアリ。圓形瓣ハ機械ノ部分品トシテ重要ナル働キヲ爲スモノナルニ係ラス、從來之カ根本的研究ヲ爲シタル者甚タ少ク「パツハ」、「クライン」等ノ研究アルニ過キス。沖氏ハ從來本研究ニ付博士論文ヲ提出シ、又其後ニ於ケル研究ヲ「圓形瓣」の研究第一期報告トシテ發表セラレタリ。大正九年十二月以來本會援助ノ下ニ、早稻田大學理工學部機械工學實驗室ノ一部ニ新ニ實驗設備ヲ設ケ、優秀ナル助手ヲ採用シテ折角本研究ヲ繼續シ基本的實驗ハ已ニ一段落ヲ告ケ圓形瓣ノ研究第二報トシテ發表セラレシカ、更ニ同第三報「瓣裏面の渦の影響」ヲ發表シテ完成セラレタリ。

三四、かつを、まぐろ類ノ研究

四ヶ年間ニ金八千九百四十七圓ノ補助

故 理學博士 岸 上 鎌 吉

「事業」 同氏ハ明治四十四年來農科大學ニ於テ専心從來ノ所謂さば科魚類ヲ研究シ、此科ニ含まルルまぐろ、かつを類ハさば、さはら類トハ大ニ異ナル構造(特ニ筋肉系及ヒ

循環系ニ於テ有スル事ヲ發見シ、まぐる、かつを類ノ爲メニ新目ヲ設クルヲ至當トスルニ至レリ(東大農學部紀要)。然ルニ此等學術上興味アリ、經濟上重要ナル魚族ノ發生生長狀態等ノ未タ不明ナルハ學術上、又産業上甚タ遺憾ナリトシ、大正十三年四月以來本會補助ノ下ニ此等ノ事項ヲ研究セラルルコトナレリ。爾來北海道東岸漁場、鹿兒島縣離島附近漁場ニ付、踏査中同縣南方郡島沖ニ於テかつを、しびノ仔魚及稚魚ノ發育スルコトヲ確メ、同時ニ其形狀ノ特徵等ヲモ知リ得タルヲ以テ是等ノ材料ヲ多數蒐集スルト共ニ昭和二年夏臺灣及琉球ニ出張シテ一層研究ノ歩ヲ進メ、かつを漁業ニ於ケル觀察及ヒ、大正十四年ニ於ケルしびかつを研究ノ概要ヲ發表セラレタリ。尙同氏ハ昭和四年魚族研究ノ爲メ支那揚子江ニ出張中ノ處四川省成都ニ於テ病歿セラレタルハ學界ノ爲メ誠ニ遺憾ナリキ。

三五、紅色素ノ研究

東京府下巢鴨町南染井九七〇

二ケ年間ニ金三千圓ノ補助

理學博士 黒田チカ

「事業」紅花ノ色素ハ東洋ノ特産ニシテ、古來染料、化粧又ハ食用色素トシテ實用セラ

ル。然ルニ化學的ニ未タ其本質又ハ構造明ナラス。黒田氏ハ曩ニ我歴史的染料タル紫根ノ色素ノ研究ヲ完成セラレ、更ニ本研究ヲ企テラレシカ、紅ノ原料ハ極メテ高價ニシテ爲メニ多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ原料費ノ支出ヲ本會ニ求メラレ、大正十三年七月以來之ヲ援助スルコトトセリ。然ルニ紅ノ主產地支那ニ於テハ水害内亂等相次ギ、之ヲ得ルニ困難ナリシモ幸ニ相當ノ材料ヲ得ラレ、爾來折角研究中ノトコロ、研究成リテ、“The Constitution of Carthamin” part I—III. ヲ發表シテ本研究ヲ完結セラレタリ。因ニ同氏ハ本研究ニヨリ學位ヲ受ケラレタリ。

三六、歐米ニ於ケル少年裁判ト少年犯罪ノ現況調査 大阪市北區若松町大阪少年審判所

金二千圓ノ補助

芳川顯雄

「事業」川村氏ハ少年犯罪又ハ少年保護ニ對スル熱心ナル研究者ニシテ又實際家ナリ。此種ノ研究カ未タ本邦ニ於テ頗ル不十分ナルヲ遺憾トシ、約一ケ年ヲ期シテ歐米ニ於ケル少年裁判及少年犯罪等ノ現況ヲ視察調査センコトヲ企圖セラレ、大正十五年三月本會ノ援助ニヨリ、歐米ニ出張、視察調査セラレ報告整理中ノ處稿成リ、昭和五年五

月米國少年裁判所の研究」ト題シ本會紀要トシテ壹千部ヲ印刷シ利用多キ方面ニ配布シタリ。

三七、日本武士道ノ研究

東京市外落合町字下落合五二六

二ヶ年間ニ金二千圓ノ補助

文學士 有馬 祐 政

「事業」有馬氏ハ吾國固有ノ道德ヲ發揮シ、以テ今後ノ國民思想ノ向上德風ノ宣揚ニ資スル處アラシムコトヲ期シ、就中武士道ヲ以テ其根幹ト爲シ、先ツ之レカ資料ノ蒐集ヲ必要ト認メ、明治三十七、八年役ニ際シ、武士道叢書三冊及武士道家訓集一冊ヲ公刊セラレシカ、此種ノ資料ニシテ大正十二年大震災火災ノタメ消失セシモノ多ク、又種々ノ事情ニ依テ漸次散佚スルニ至ランコトヲ憂慮シ、此ニ急キカヲ盡シテ武士道資料ヲ各方面ニ互リ搜索探究シテ、哀輯完備スヘキコトヲ切望シ、大正十五年七月以來本會ノ補助ニヨリ其ノ第一著手トシテ東京、大阪、名古屋、京都等ノ大書林ニ就キ續々關係圖書ノ購求ヲ爲シ既ニ百二十餘種ヲ獲、尙各圖書館ヲ始メ舊藩侯、舊名家ニ就テ調査ヲセラレ、其研究ノ一端ヲ「日本武士道について」日本教育、昭和二年五月六日號「日本ノ固有思想ト外來思

想」教育學術界、昭和三年十一月號、「報恩主義ノ鼓吹」昭和公論、昭和三年十一月號等トシテ發表セラレタリ。

三八、「ボテイチエリ」ヲ中心トシタル文藝復興期ノ研究 東京市外大井町金子山六二一六

三ヶ年間ニ金九千七百二十圓ノ補助

文學士 矢代 幸雄

「事業」西歴千四百年代ニ發表シタル「イタリヤ」繪畫ハ唯ニ西洋美術史上ノ精華タルノミナラス、又、當時專ラ用ヒラレシ水繪具ノ材料及ビ技巧ハ、時ニ殆ント日本繪畫ニ見ル如キ形式ト氣分トヲ生ミテ、吾人ヲ教ルトコロ尠ラス、是レ矢代氏カ大正十年ヨリ同十四年ニ互レル歐洲留學ニ於テ、千四百年代イタリヤ繪畫」ノ研究ニ着手セラレタル原因ニシテ、同氏ハ歸朝ニ際シ研究成績ノ主要部分タル「Sandro Botticelli」ヲ英文著書三卷トシテ「ロンドン」ニ刊行セラレタリ。然レドモ同氏ハ歐米ニ廣ク散在スル Botticelli 資料ノ蒐集ニ於テ未タ不充分ナルモノアルヲ遺憾トセラレ、大正十五年七月以來本會援助ノ下ニ既集資料ノ再考査ト新資料探索ノ準備ヲナシ昭和二年四月ヨリ歐米各國ニ再度ノ研究旅行ヲ試ミラル。翌年五月歸朝、Botticelliニ關スル研究ハ一先ツ完成シタ

ルヲ以テ、舊版英文著書ヲ改訂シ、學界ノ批評ニ答ヘタル第二版序文、根本史料ニヨリテ
 編纂シタル Botticelli 年譜ヲ新タニ添ヘタルホカ、新發見ノ諸資料ヲ追加シテ “Sandro
 Botticelli” the Revised Edition 一卷トナシ「ロンドン」ニ出版セラル。内十五部ヲ本會ニ提
 出セラレタルヲ以テ本會ハ之ヲ利用多キ方面ニ配布シタリ。

三九、續日本名家四書註釋全書出版

東京市下谷區西町三

金四千七百圓ノ補助

關 儀 一 郎

「事業」 關氏ハ大正十五年十月以來、本會援助ノ下ニ續日本名家四書註釋全書三冊ノ
 發行ニ著手セラレタリ。該全書ハ先ニ完成セラレタル正編十冊中ニ收ムルヲ得サリ
 シ邦儒ノ四書註釋中、考證又ハ識見ニ於テ優秀ナル價值ヲ有スルモノ五種、學庸知言、同
 參辨、同鄭氏義、論語註解、續孟叢書鈔ヲ選ヒ、嚴密ナル校訂ヲ施シタルモノニシテ、是等ノ
 書ハ何レモ末刊本ニシテ、而モ傳寫本極メテ少ナキ珍籍ナリ。蓋シ本書ノ發行ハ本邦
 ノ經學ヲ紹介スル上ニ於テ、有力ナル資料タルヘキハ疑ヲ容レサルナリ。同氏ノ令弟
 又克ク其事務的方面ヲ分擔シテ、熱心ニ盡力セラレ、而シテ既ニ「讀孟叢書鈔」及ヒ「論語解」

ヲ出版シ更ニ「學庸部」ヲ出版シテ完結セラル。其中各參拾部宛本會ニ提供セラレ、本會
 ハ之ヲ利用多キ方面ヘ配布シタリ。

四〇、モールス氏著“Japan day by day”ノ翻譯及出版

東京市外四谷區大番町一九

金三千圓ノ補助

理學博士 石 川 千 代 松

東京市外杉並町高圓寺五五五

醫學博士 宮 島 幹 之 助

「事業」 モールス氏ハ五十年前東京帝大講師トシテ來朝シ、生物學、人類學等ヲ學界ニ
 講述セシト共ニ、社會的ニ活動シテ進化論等ノ新學說ヲ世人ニ紹介シ、其後モ始終一貫
 我國ノ友人トシテ世界ニ我國ノ真相ヲ知ラシメツツアリシカ、大正十四年八十八歳ヲ
 以テ逝去セラレタリ、同氏ノ多數ノ著書中此“Japan day by day”ハ明治ノ初年來朝當時ノ
 日本人ノ生活ヲ觀察描寫セルモノニシテ、之ヲ翻譯出版スルコトニ依リ、現代ノ青年ヲ
 シテ當時ノ日本ヲ知ラシムル教育資料タルト同時ニ、モールス氏ノ爲メ恰好ノ記念タ
 ルヘキヲ認メラレタル石川千代松、宮島幹之助兩氏ハ其經費ノ援助ヲ本會ニ求メラレ、

本會ハ其極メテ有益ナルヲ信シ、昭和二年五月以來之ヲ援助シ、四年秋、日本その日その日千部ヲ出版完成シ、内百部ハ本會ニ提供セラレ、本會ハ利用多キ諸方面へ配布シタリ。已ニ第一版、第二版ハ賣切レ最近第三版ヲ發行シタリ。

四一、「ライデン」大學ニ於ケル蘭學史料ノ謄寫

東京府下杉並町高圓寺二六

金一千圓ノ補助

文學士 板澤武雄

「事業」板澤氏ハ昭和二年一月宮内省ヨリ史學及史學教授法研究ノ爲メ約一年半歐洲ニ出張ヲ命セラレ、和蘭國海牙市ニ於テ蘭學史關係ノ研究ヲ爲シツツアリシ處、偶「ライデン」大學ニ於テ極メテ有益ナル研究史料ノ保管セラルルヲ發見シ、之ヲ謄寫將來セント欲シ、三上博士ヲ通シテ其經費ノ援助ヲ本會ニ求メラル。依ツテ本會ハ事業ノ有益ニシテ相當ノ成績ヲ舉クヘキヲ信シ、昭和三年七月以來之ヲ援助セリ。同氏ハ銳意事業ノ進行ヲ計リ、信心錄(天草判)六五〇頁ヲロートグラフニ撮リ且ツ「正徳享保年度を中心とする出島葡館日誌」(四百枚)ヲ謄寫シテ、四年二月ニ歸朝セラレタリ。

四二、古社寺所藏圖書ノ調査

東京市小石川區關口臺町五

五ケ年間ニ金五千圓ノ補助

文學博士 高楠順次郎

「事業」本調査ハ高楠博士多年ノ事業ニシテ、大正八年三月以來本會ニ於テ援助スルコトトセリ。而シテ同博士ヲ主任トシ外ニ橋本、大屋、長谷部、戸部、馬越、中野、逸見、蓮澤、塚原、藤田、大山、木下、口入田、國友、水原、田村、近藤、山田等ノ諸氏ニ依リ、大正十二年春迄ニ調査完了シ、成績整理中ノ處昭和五年十二月左ノ如ク完成結了シタリ。(一)粟田青蓮院(吉水藏目錄三卷)(二)御室仁和寺御經藏目錄十一卷(三)江州石山寺深密藏目錄十四卷(四)梅尾高山寺法鼓臺聖教目錄二十二卷(五)東寺金剛藏目錄四十七卷以上何レモ貴重ナル資料ナリ。

四三、善見律毗婆沙ノ出版

東京市小石川區關口臺町五

金三千圓ノ補助

文學博士 高楠順次郎

「事業」善見律毗婆沙ハ一切經漢譯ノ一ニシテ、序文ニハ佛教史ヲ詳述シ、本文ニハ律

藏ノ註釋ヲ爲ス。善見律ハ一切經中唯一ノ南方佛教典ニシテ巴利語原本ヨリ譯出セラレタルモノナルコトハ高楠氏ノ發見トシテ學界ニ重視セラル。同氏ハ先年來巴利語佛典協會ノ依託ヲ受ケ、右巴利語原本ノ校訂竝ニ譯本トノ對照ヲ行ヒ、原本ノ儘ニ出版セント欲シ、既ニ序文一部ヲ公ニセラレタルカ、殘部ヲ三卷トナシ、引續キ出版セント欲セラレ、大正十四年七月以來本會ノ援助ニ依リ「ロンドン」ニ於テ準備中ノ處昭和五年秋三卷トモ印刷ヲ終了シ出版完成セラレタリ。

四四、家畜ニ於ケル遺傳ノ細胞學的研究

東京市外上目黒駒場七七六

六ヶ年間ニ金六千圓ノ補助(二回ニ決定)

獸醫學博士

増

井

清

「事業」 動植物ノ種類改良上最モ必要ナルモノハ遺傳ノ研究ニシテ、又動物ノ遺傳研究ノ基礎タルモノハ生殖細胞ノ研究ナルコトハ一般ニ認メラルル所ナリ。然ルニ斯ノ如キ研究ハ今日迄主トシテ下等動物ニ就テノミ行ハレ、高等動物ニ就テ遂ケラレタルモノ極メテ尠ク、今日委細ニ之レヲ研究スルコトハ學術上又應用上頗ル有益ナリト

ス。増井氏ハ多年本研究ヲ繼續シ其ノ成績トシテ發表セラレシ論文ハ專門學者ノ推賞スル所ナリ。同氏研究ノ方針ハ細胞學的ニ遺傳質及ヒ遺傳現象ヲ研究スルモノニシテ、之カ爲メ牛馬等ノ大動物ニ付其生殖細胞ノ觀察ヲ行ヒ、又羊以下ノ小動物ヲ飼養シテ實驗的且ツ交雜的ニ研究ヲ進メントス。氏ハ最初馬ノ精子ノ發生ニ就テ、次ニハ牛ノ精子ノ發生、第三ニハ鼠及ヒ兎ノ精子ノ發生ニ就テ、精細ナル研究ヲ遂ケラレシカ、大正九年十二月本會ノ補助スルコトトナリテ後、第一ニ計畫セラレタルハ鼠ノ卵ノ發生ヨリ受精ノ現象ヲ詳シク研究シテ染色體性定染色體「コンドリオゾーム」等ノ行動及性質ヲ明ニスル事、及ヒ同時ニ鼠ニ於テ交配ヲ行ヒ遺傳ノ研究ヲ爲ス事ナリ。而シテ鼠ノ卵細胞ノ分化ニ就テノ研究ハ一部既ニ完成シ論文發表アリ、又「マウスニ於ケル生殖腺除去ノ副腎ニ及ホス影響竝ニ其組織細胞學的研究」"The Effect of Gonadectomy on the Structure of the Suprarenal Gland of Mice, with Reference to the Functional Relation between this Gland and the Sex Gland of the Female." "Effect of Gonadectomy on the Weight of the Kidney, Thymus, and Spleen of Mice." 等ヲ發表セラレタルモ、尙研究未了ノ點アルヲ遺憾トシ一ヶ年間延期シ金壹千圓ノ追加補助ヲ受ケラレ、昭和二年四月歐米ニ出張、同四年秋歸朝

セラレ、副腎除去が雌鼠ノ生殖器ニ及ホス影響ヲ發表シテ完結セラレタリ。

四五、フルオレン誘導體ノ藥化學的研究

小石川區西原町一ノ一

金二千四百圓ノ補助

理學博士 中村敬三

「事業」フルオレンハ「ナフタリン」アントラセンニ次キ石炭「タール」ノ主要ナル成分ヲナスニモ拘ラス、ソノ誘導體ノ製法竝ニ性質ノ研究ハ從來等閑ニ附セラレ、不明ノ點頗ル多ク、フルオレン「誘導體」ハ又有機化學ニ一新生面ヲ開キタル彼ノ「フリーラヂカル」ノ研究對象トナツテ興味アルモノナリ。中村氏ハ大正十三年以來此ノ方面ニ關スル研究中、會々ソノ化合物ニ生理作用アルモノヲ發見シタルヲ以テ、多數ノ新誘導體ノ合成ヲ試ミ、藥化學的意義ヲ明ニセント欲シ、本會ノ補助ヲ求メラレ、本會ハ其必要ヲ認メ昭和二年七月以來之ヲ援助スル事ニ決シタリ。而シテ氏ハ其後研究ノ結果トシテ、フルオレン「9」位置誘導體ノ性質ニ就キテ研究ヲ進メ、幸ニソノ位置ニ於テ置換體ノ一般製法ニ成功シ、一連ノ同列誘導體ヲ知ルヲ得、次テ水ニ溶解度ノ大ナル誘導體ヲ得タリ。是等ハ何レモ生理作用ヲ呈スルモノナリ。「フルオレン列」ノ研究「第四報」"Katalytische

Hydrierung des Fluorens und seiner Derivate,"ヲ發表シ、昭和五年八月「フルオレン誘導體」ノ研究ヲ發表シテ事業ヲ完結シタリ。因ニ同氏ハ本研究ニ依リ學位ヲ授ケラレタリ。

四六、延喜式校本ノ出版

東京市牛込區余丁町三五

金二千圓ノ補助

皇典講究所長 江木千之

「事業」大正十五年ハ延喜式撰上以來一千年ニ相當セルヲ以テ、皇典講究所ハ神職會ト謀リ記念事業トシテ之カ校訂ヲ企テ、宮内省御藏本ヲ始メ諸家祕藏本ニ就キテ對照校訂シ、稿已ニ成リタリ。依テ出版費ノ補助ヲ求メラル、本會其ノ頗ル有益ニシテ必要ナル事業ト認メ、昭和三年七月以來之ヲ援助シ、四年九月上卷ヲ出版、次テ下卷ヲ五年十二月ニ出版シテ完結セラレタリ。内貳拾部ヲ本會ニ提供セラレ、本會ハ之ヲ利用多キ方面ヘ配布シタリ。

四七、「後法興院記」ノ出版

東京市小石川區金富町二〇

金貳千圓ノ補助

文學博士 平泉澄

「事業」 後法興院記ハ關白近衛政家ノ日記ニシテ全部三十卷アリ、文政元年二十一歳ノ時ニ始マリ、永正二年六十二歳即チ其薨スル年ニ及ヒ、此間應仁ノ大亂アリ。戰國亂離ノ際史料多ク湮滅シテ當時ノ歴史明瞭ヲ缺ク事多シ、然ルニ此日記ハ前後四十年ニ亙リ詳細ニ記録セラレタルヲ以テ、之ニ依リテ史實ヲ闡明スヘキ所甚ダ多シ。然ルニ此書未タ刊行セラレス、寫本亦殆トナシ、平泉氏之ヲ遺憾トシ、昭和三年七月以來本會援助ノ下ニ之カ刊行ニ著手セラレ、近衛公爵家祕藏ノ原本ニ依テ著々事業ヲ進メラレ、昭和五年九月上、下二卷トシテ出版セラレタリ。内二十部ヲ本會ニ提供セラレ本會ハ之ヲ利用多キ方面ヘ配布シタリ。

四八、梵文金光明經出版

京都市上京區小山大野町三九

金貳千參百圓ノ補助

泉 芳 璟

「事業」 金光明經ハ大乘佛教經典ノ隨一ニシテ、種々ノ邊ヨリ佛教研究資料トシテ著名ナリ、而シテ本經ノ梵文ハ夙ニ湮滅セシカ先年ネパール國ニ於テ發見セラレ、其謄寫本ハ歐洲ノ大學等ニ診藏ス。然ルニ此等ノ寫本ハ謄寫多ク不明ノ點少カラス、故南條

文雄博士ハ英佛ノ圖書館ニテ之ヲ謄寫シ、近年本邦ニ將來セル他ノ寫本ニモ照シ、校異ヲ附シ、出版ノ準備整ヒシカ、昭和三年歿セラレ。泉氏ハ博士ノ遺志ヲ繼キ、之ヲ西藏譯、支那譯ニ勘ヘ缺漏ヲ補ヒ整理修正シテ其底本ヲ作製セリ。依テ之ヲ出版セント欲シ昭和四年四月以來本會援助ノ下ニ、印度「デーヴナーガリー」活字ヲ用ヒ、組版ノ處「梵文金光明最勝王經」ト題シ、六年一月出版ヲ了シ完結シタリ。内二十部ヲ本會ニ提供セラレ本會ハ之ヲ利用多キ方面ヘ配布シタリ。

四九、朝鮮佛教ノ研究

東京市外駒澤町駒澤大學内

金壹千五百圓ノ補助

文學博士 忽 滑 谷 快 天

「事業」 昔時朝鮮文化ノ源泉タリシ佛教ハ、李朝ノ抑壓政策ニ依リ殆ント其ノ活力ヲ喪ヒシカ、日韓合併以後我教化方針ノ樹立ニ伴ヒ、漸次更生ノ機運ニ向ヒ、布教ニ傳道ニ思想善導、日鮮融和等ニ貢獻シ、稍本來ノ面目ニ立歸リタリ。但シ約五百年間社會ヨリ隔離シタル爲メ、名僧高德ノ業績モ隱没シ、信仰ノ中心タリシ寺院モ不明トナリシモノ多ク、佛典史料ノ散逸セルハ勿論雜行雜信甚シク、佛教ノ眞價ヲ發揮シ難シ。忽滑谷氏

之ヲ遺憾トシ、先年「禪學思想史」ヲ著シ、引續キ朝鮮佛教ノ徹底的研究ニ志シ、多數ノ佛書ヲ蒐集シ、銳意検討ヲ進メラレツツアリシガ、昭和四年六月ヨリ八月マテ、本會援助ノ下ニ朝鮮ニ旅行シ、炎暑ヲ冒シテ各地ヲ實地踏査セラレ、三十數ヶ所ノ寺院ニツキ具ニ調査シ、多クノ資料ヲ得テ整理研究セラレ、五年九月朝鮮禪教史ヲ出版シ完成セラレタリ。

五〇、高爐「セメント」ノ研究

金壹千六百七拾圓ノ補助

工學士 永井彰一郎

「事業」本邦「ポルトランドセメント」ハ其製造ノ盛大ト品質ノ優良トニ於テ世界ニ劣ラサルモ高爐セメントニ至リテハ、聊カ遜色アルヲ遺憾トス。此高爐セメントハ製鐵工業等ヨリ副製スル鑛滓ノ利用ニ依リテ成ル混合「ポルトランドセメント」ナリ。從ツテ該工業ハ高爐鑛滓ノ最モ合理的ナル利用法トシテ、其盛否ハ製鐵工業ノ確立ニモ關係スルコト尠ナシトセス。而シテ其品質ノ良否ハ製造主體タル高爐鑛滓ト「セメント」クリンカートノ成分、性狀、配合ノ割合等ニ支配セララルモノナリ。永井氏ハ該セメントノ特性ヲ究メテ品質ノ改善ニ資シ、以テ製造工業ノ發達及其特性ニ從フ適當ナル使

用法ヲ闡明スヘキヲ指摘セラレ、昭和四年四月以來本會援助ノ下ニ研究ヲ進メラレ、高爐セメントの研究第一報及第二報ヲ完成結了セラレタリ。

五一、「亞富汗斯坦」ノ出版

金壹千五百圓ノ補助

東京府下野方町上高田二〇五

田鍋安之助

「事業」亞細亞復興ノ氣運漸ク盛ナラントスル今日、西南亞細亞地方ヲ知ル事ハ國際上頗ル意義アルコトトス。田鍋氏ハ約四十年間支那問題ニ關係シ、彼地ヲ往來スルコト數次、明治三十一年創立以來東亞同文會ノ常任理事タリ。大正十三年辭任スルヤ歐米經由亞細亞諸國ヲ歴訪シ十一年其、シラヤ・パレスタイン、埃及ヲ經テ印度ニ出テ、次テ「アブガニスタン」ニ入り、「カブール」市丈ニ留マル事數ヶ月、具ニ同國ノ地理、人情風俗及歴史等諸般ニ互リテ調査シ、十五年歸朝セラル、爾後標記ノ著述ヲ專ニセラレ稿成ルヤ、昭和五年四月本會援助ノ下ニ出版スルコトナリ、同七月完成發行セラレタリ。内三十部ヲ本會ニ提供セラレ、本會ハ利用多キ方面へ配布シタリ。

五二、「政教上より觀たる論語新釋」ノ出版

金壹千圓ノ補助

東京市外千駄ヶ谷町原宿二一〇
法學士 赤池 濃

「事業」赤池氏ハ曩ニ本會援助ノ下ニ學者又ハ思想家トシテノ孔子ニ非スシテ政治家、社會改良家トシテノ方面ヨリノ「萬世ノ師孔子」ヲ出版セラレタリ。孔子ヲ知ルニハ必ス論語ニヨラサルヘカラス。氏ハ多年支那ノ研究ニ從事シ殊ニ春秋時代ノ政治的及社會的方面ヨリノ觀察ニ精シ、今日ノ時勢カ當時ノ世相ニ類スルヲ痛感セラレ遂ニ標記ノ新釋ヲ試ミラル。稿成ルヤ本會ニ其援助ヲ求メラレ、本會ハ昭和五年七月之ヲ認メ壹千部ヲ印刷出版セラル。内二十部ヲ本會ニ提供セラレタリ、依テ本會ハ利用多キ方面ヘ配布シタリ。

(二) 進行中ノ補助事業

一、アイヌ調査事業

四ヶ年間ニ金四千百七十六圓ノ補助

故河野常吉



「略傳」河野氏ハ文久二年十一月長野縣東筑摩郡島内村ニ生ル。明治十一年同縣師範學校ヲ卒業シ十四年慶應義塾ニ入り十六年以降法律經濟歴史地理物理等ヲ獨修ス。秋田縣小真木鑛山分析主任、長野縣物産陳列場長兼、測候所長、中央氣象臺雇、大日本教育新聞客員等ヲ經テ二十七年北海道廳囑託ト爲リ、次テ北海道史編纂主任タリシカ

昭和五年九月病歿セラル、著書數十部アリ。

河野氏ト共ニ本事業ヲ擔任セル、吉田巖氏ハ明治十五年七月福島縣相馬郡中村町ニ生ル。三十六年相馬中學卒業、三十九年北海道ニ移住、アイヌ研究ヲ志シ、十勝膽振等ノ「アイヌ」學校ニ奉職シ、時々「アイヌ」ニ關スル論文ヲ發表シ、現ニ專ラ本事業ニ從事セラル。

「事業」 河野、吉田兩氏ハ從來久シク「アイヌ」ノ調査ニ從事セラレシカ、更ニ之ヲ繼續完成センカ爲メ、大正八年三月以降本會ニ於テ援助スル事トセリ。本事業ハ「アイヌ」ノ歴史及風俗ヲ調査編纂セントスルモノニシテ、歴史部ハ古代ノ狀況、康正以降數十年間ノ叛亂、松前氏時代ノ施設及叛亂、千島「アイヌ」及其露人トノ關係、樺太「アイヌ」及山靉交易並ニ幕府直轄時代、開拓使時代、三縣時代、北海道廳時代ノ施設及狀況ヲ敘述シ、風俗部ハ社會、宗教、衣食住、器具、體式、產業、教育、衛生、娛樂等ヲ敘述スルコトトセリ。擔任者ハ從來調査セシ所ヲ整理スルト共ニ、更ニ數多ノ書籍ヲ探リ、又「アイヌ」ニ就キテ踏査シ、且篤志者ニ委囑シテ資料ヲ蒐集シ、尙從來ノ書籍ニハ記事ノ精細ナルモノ極メテ少ク、且誤謬多ク又「アイヌ」ノ口碑風俗ハ地方ニヨリテ差違アリ、且變化セルヲ以テ、努メテ廣ク蒐集シテ精確ヲ期サレタリ。即チ兩氏ハ室蘭、十勝、釧路、厚岸、日高、膽振、根室、北見、千島、國後島等ニテ實地ノ踏査ヲ爲シ、堅穴、貝塚及ヒ遺物等ノ調査ヲ遂ケ、新ナル資料ヲ得、而シテ今ヤ歴史、風俗兩部共一通リ脱稿セラレタリ。但シ尙「アイヌ」ノ遺跡調査ヲ附加センコトヲ欲シ、此方面ノ調査中昭和五年六月病歿セラレタリ、目下殘務整理中。

二、日本産魚類圖說ノ發刊

六ヶ年間ニ金一萬八百圓ノ補助

東京市本郷區動坂一〇三

理學博士 田 中 茂 穂



「略傳」 田中氏ハ明治十一年八月高知縣土佐郡高知市南奉公人町ニ生レ、小學及中學ハ高知ニテ卒業シ、三十四年第一高等學校ヲ卒業シ、三十七年東京帝國大學理科大學動物學科ヲ卒業シ、四十一年特選給費生ニ選定セラレ、四十三年六月東京帝國大學理科大學講師ヲ、大正二年十二月同大學農科大學講師ヲ囑託セララル。九年六月同大學助教授ニ任セラレテ理學部勤務ヲ命セラレ、尙同時ニ同大學農學部水産動物學ノ一部及同實驗ノ一部授業擔任ヲ命セララル。

「事業」 本事業ハ我版圖内ニ産スル淡水及海水ノ主ナル魚類ヲ詳細ニ記述シテ、且ツ之レカ正確ナル圖畫ヲ掲クルコトヲ目的トシ、明治四十四年以來田中氏カ巨額ノ私財

ヲ投シテ獨力ヲ以テ出版シ、既ニ第三十卷ニ達セル「日本産魚類圖說」ヲ續刊シテ、日本産魚類圖說ノ完成ヲ期スルモノニシテ、大正八年七月以來本會ニ於テ之ヲ援助スルコトトセリ、抑モ魚類圖說ノ事業ハ英、佛、獨、米、和、伊、露、瑞、典等ノ諸國皆之ヲ有スルニモ係ラス、獨リ本邦ニ於テハ未タ此ノ事業ヲ試ムルモノ無ク、從來日本魚類トシテ刊行セラレタルモノハ、過半外國人ノ手ニ成リ、且ツ諸雜誌ニ散在セル爲メ、斯ノ如キ論文ノ蒐集頗ル困難ナルト共ニ、本邦産魚類ノ全豹ヲ窺知スルコト容易ナラス、田中氏ノ本事業ハ即チ此缺點ヲ補フモノト謂フヘシ。田中氏ハ本會援助後折角材料ノ蒐集ニ努メ、原圖ノ製作説明ノ記述ヲ急キ、稿略成ラントスルモノ少カラサルモ、印刷上ノ事情等ニ依リ一時印刷ヲ中止セラレシカ、其後準備整ヒ既ニ「日本産魚類圖說」第三十一卷乃至第四十八卷ヲ出版發表セラレタリ。尙本會援助後本圖說ハ歐米諸國及濠洲等ヨリ申込多ク注目セララルニ至レリ。

三、東洋音樂理論ノ科學的研究

三ヶ年間ニ金一萬圓ノ補助(二回ニ決定)

東京市外落合町下落合五四六

理學士 田 邊 尙 雄



「略傳」 田邊氏ハ大阪府士族田邊貞吉氏ノ二男

ニシテ、明治十六年八月四谷區西信濃町ニ生ル。

一高ヲ經四十年東大理科理論物理學科ヲ卒業セ

ラル。傍ラ東京音樂學校選科ニ於テ洋樂ヲ研究

スル事數年、擢ラレテ同校管絃樂員ニ加ヘラル。

爾後音樂學校及音樂理論ヲ專攻シ、特ニ東洋音樂

ノ科學的研究ニ從事スル事既ニ十數年目下東大

大學院ニ入り、傍ラ宮内省式部職雅樂練習所囑託、國學院大學講師ヲ務メ、又文部省邦樂教育調査委員、同省社會教育調査委員、北京大學研究所國學門通信講師タリ。

「事業」 本事業ハ本邦ヲ始メ支那、朝鮮、印度等東洋諸國ノ音樂理論ヲ科學的ニ研究シ

テ、東洋音樂理論ノ研究ヲ復興セントスルモノニシテ、大正八年十二月以來本會ノ援助スル所ナリ。爾來同氏ハ主トシテ東洋音樂理論ノ骨子ナル樂律研究ニ力ヲ注キ、先ツ

(一)古來東洋ニテ上梓ノ樂論書及ヒ歐米人ノ之ニ關スル參考圖書ヲ蒐集模寫シ、(二)東

洋ノ古樂器ヲ集メテ之ヲ檢シ、自ラ其技ヲ習得シ、既ニ隋唐樂、高麗樂、印度林邑樂、古聲樂、吉備樂ヲ習得比較シ、(三)東洋各國音樂ノ蓄音器「レコード」ヲ蒐集セララル。而シテ(一)九年十一月奈良正倉院ノ古樂器ニ付研究シ頗ル得ル所アリ、(二)十年三月京城ニ出張シ李王家ノ雅樂ヲ研究シテ、東洋最古ノ藝術的音樂タル周代雅樂ノ真相ヲ明ニシ(本會講演會ニ於テ發表)、(三)十一年三、四月臺灣ニ出張シテ蕃人音樂ヲ研究シ、日本古代民族ノ音樂ト「マレイ」系音樂トノ連絡關係ニ就キ闡明シ、歸途厦門ニ渡リ其地特有ノ古樂御前清曲ヲ調査シ、(四)七、八月琉球ニ出張シ、内地ニハ既ニ滅亡セル足利末ヨリ元祿時代ニ至ル音樂ノ今猶沖繩ニ存スル事、又八重山群島ニハ貴重ナル世界的民謠ノ存在スル事ヲ發見シ(本會講演會ニ於テ發表)、(五)十二年、四、五月支那ニ旅行シ、京師圖書館ノ樂書、孔子廟ノ樂器元代以後ノ戲曲音樂(殊ニ崑曲)、明代ノ雅樂、現代音樂ノ實況等ヲ調へ、且ツ樂書ヲ蒐集シ(六)同年七月佐渡ニ渡リ「やわらぎ」鬼太郎「春駒」大黒舞「夷舞」野呂間人形等ノ民謠ヲ、(七)引續キ樺太ニ航シテギリヤーク・オロツコ・アイヌ等ノ音樂ヲ調査セララル。而シテ尙未了ノ研究存セシニ依リ十一年末期間滿了セルモ、本會ハ更ニ二ケ年ヲ限り援助ヲ繼續スルコトトセリ。其後(八)十三年三、四月滿州ニ旅行シ同地音樂ノ狀況及支那三絃樂律

ヲ調査セララル。(九)引續キ印度ビルマ・シヤム地方へ音樂調査ニ向フ筈ナリシモ、都合ニ依リ延期シ、爾後從來蒐集ノ材料ニ基キ研究ヲ進メラレツツアリ。

四、日本民謠ノ蒐集研究

四年六ヶ月間ニ金五千二百圓ノ補助

文學博士 兼 常 清 佐

東京市外雜司ヶ谷金山三一〇大杉邸内



シテ東京帝國大學文學部ニ於テ同研究ヲ繼續セラレタリ。

〔略傳〕 兼常氏ハ明治十八年十一月山口縣阿武郡萩町ノ儒者ノ家ニ生ル。高等學校ノ頃ニハ數學或ハ自然科學ヲ志シ理科ニ入ラル。病ノ爲メ暫ク休學セラレシ後志ヲ變シテ京都大學文科ニ入學シ、主トシテ古代希臘哲學史ヲ學ヒ、四十三年同科ヲ卒業セラレ、其後某教授ノ勸メニヨリ從來興味ヲ持チシ音樂ノ研究ニ専ラ從事セラレ、主ト

「事業」 本事業ハ文部省取調ノ民謡歌詞ヲ大體ノ根據トシテ更ニ之ヲ補足シ、兼常氏自ラ各地ニ出張シテ採譜ヲ爲シ又特殊ノ研究ノ爲メ若干ノ民謡ハ之ヲ蓄音器ニ吹込ミ、全國ノ民謡ヲ蒐集シテ科學的ニ研究シ、以テ音樂的教育ノ材料ニ供セントスルモノナリ。民謡カ日本國民一般ノ精神狀態ノ或ル方面ノ直接ナル表現トシテ學問上ニ有スル價值ハ、他ノ専門的ノ造形美術ト比較シテ甚タ劣レリトハ言ヒ難ク、又民謡ノ國民精神上ニ與フル刺戟ノ頗ル深酷ナルコトモ明ナル事ナレハ、其ノ保存研究竝ニ改善ハ極メテ緊要ナリト云フヘシ。本會ハ前記ノ通り田邊氏ノ東洋音樂理論ノ研究ヲモ援助シ、彼此相呼應シテ音樂研究ニ貢獻スル所アヘキヲ信ス。本會カ兼常氏ヲ援助セルハ大正九年四月ヨリニシテ、其後同氏ハ數回民謡蒐集ノ爲メ各地ニ出張シ、其蒐集材料ニ付熱心ニ音樂上ノ構造等ヲ研究セラレ、東海道、畿内、北越、東北地方等ニ出張シテ民謡ノ蒐集ヲ爲シ、尙本研究ヲ完成スルカ爲メ十一年一月歐州音樂界ノ視察ニ出發セラレ、十三年春歸朝セラル。然ルニ其間十二年九月ノ震災ノ爲メ研究資料ノ大部分焼失シタリ。依テ氏ハ更ニ資料ノ蒐集ヲ開始シ、銳意其ノ完結ニ努力シ、研究報告既ニ完成シタリ。依テ遠カラス譜ト共ニ之ヲ出版セラルル豫定ナリ。因ニ氏ハ本研究ニヨリ學

位ヲ受ケラレタリ。

五、倭冠史ノ編纂

金一千八百八十圓ノ補助（二回ニ決定）

東京市牛込區藥王寺町八四

後藤 秀 穂



研究ニ没頭セラレ、從テ他ニ何等ノ公私職業ナシ。

「略傳」

後藤氏ハ慶應二年十二月靜岡縣小笠郡相草村棚草ニ生ル。明治二十年早稻田大學政治經濟科ヲ卒業シ、爾來歸國シテ農業ニ從事シ、旁ラ銀行ノ業務ニ就カレタリ。其後倭冠史ノ研究ヲ企テラレ、三十八年ヨリ全ク世事ヲ絶チテ本研究ニ全力ヲ盡シ、其ノ事業ノ遂行ニ便ナラシムル爲メ居ヲ東京ニ移シ、一切ノ俗事ヲ離レテ専ラ其ノ

「事業」

本事業ハ後藤氏カ數十年來蒐集セル倭冠史ニ關スル諸般ノ資料及ヒ之ニ基

キテ研究セル成績結果ヲ整理編纂セント欲スルモノナリ。抑モ倭冠ノ事タルヤ我大和民族ノ海外發展史トシテモ、亦貿易史上ヨリ見ルモ甚タ重要ナル事項ニシテ、亦頗ル興味アル事柄ナリ。然ルニ其出沒セル範圍ノ廣汎ナルト、其繼續セル期間ノ長カリシトニ依リ之ニ關スル研究事實頗ル多ク、又其繼續常ナク且ツ多クハ陰密ノ間ニ行ハレタル爲メ、此ノ調査研究極メテ困難ナリトス。從テ倭冠ニ關シテハ未タ完全ナル研究ノ發表セラレタルモノナク甚タ遺憾トセシ所ナリ。後藤氏ハ民間篤學者トシテ倭冠研究ノ一權威ナルコト既ニ一般ノ認ムル所ニシテ蒐集セラレシ資料等モ頗ル多シ本會カ同氏ノ事業ヲ援助スルコトニ決シタルハ大正九年四月ニシテ其後同氏ハ著々トシテ材料ノ整理ニ努メ、又資料ヲ確ムルカ爲メニ九州ニモ出張シ銳意編纂ノ進捗ヲ計ラレシカ、中途ニシテ大患ニ罹ラレ一時本事業ヲ中止セラレシト、既成ノ原稿中補足訂正ヲ要スル點ヲ發見セラレシ等ノ爲メ編纂ノ完了ニ頗ル苦心セラレ、本會ハ追加補助ヲナシ、同氏ハ一層ノ勉勵ヲ以テ編纂ヲ急カレ、既ニ大半脱稿セラル。本會ハ其ノ間モ無ク完結ニ至ランコトヲ切望スルモノナリ。

六、日本産礦物ノ蝕像ニ關スル研究

三ヶ年間ニ金三千圓ノ補助

福井縣今立郡北新庄村中新庄

市川新松



「略傳」市川氏ハ明治元年五月福井縣足羽郡麻生津村打方新兵衛氏ノ二男ニ生レ、後市川彌治兵衛氏ノ養嗣子トナラル。獨學、小學教員檢定ニ合格、縣内小學校ニ奉職シ、後農業、礦物等ノ中等教員文檢ニ合格シ、諸縣ノ師範學校ニ勤メ、在職十九年ニシテ四十年職ヲ辭シ、爾來專ラ標記研究ニ從事セラル。大正二年萬國地質學會議ニ水晶等ノ論

文ヲ提出シ、海外學會ニモ推賞セラレ、其後氏ノ論文ハ屢、アメリカ「理學雜誌」ニ發表セラレ。四年御大典記念トシテ礦物研究所ヲ設立シ、十三年攝政殿下北陸行啓ノ際拜謁仰付ケラル。十四年財團法人若越輔成會ヨリ福井礦物雜誌出版ノ企ニ對シ五百圓ヲ助成セラル。昭和三年十一月御大典地方饗饌ニ參列。

「事業」 礦物蝕像學ハ藥品ニ因リ結晶分子ヲ離解セシメ、分子ノ配列ヲ研究スルモノニシテ、同氏ハ多年本研究ヲ專攻シ、大正九年十二月來本會援助ノ下ニ之カ研究ノ完成及發表(英和兩文)ニ努メラル。最初「アメリカ理學雜誌」ニ發表ノ水晶蝕像論(原圖一一八個)ハ、モウレングラーフ氏及ヒ、ペンフィールド氏等ノ研究ヲ補足セシト共ニ、從來疑問トセシ水晶ノ「ビシナルフェース」ノ性質ヲ明ニシ、且ツ同晶體ニ於ケル電氣光學等ノ現象ト蝕像トノ間ニモ多クノ新關係ヲ見出シ、其他同誌ニ發表セル方鉛礦(原圖二〇個)方解石(原圖六四個)柘榴石(原圖一二個)閃亞鉛礦(原圖一六個)等ノ天然蝕像論等モ或ハ氏ノ新研究ニ屬シ、又ハ外人ノ不足ヲ補ヒシモノモ尠カラスト云フ。尙本研究ハ學術上ニハ勿論電氣光學、結晶礦物加工等應用方面ニモ貢獻スヘキヲ信ス。而シテ本會援助後ノ成績ハ(一)黃寶石ノ天然蝕像ニ依テ光軸角ヲ測定スル新法ヲ發見シ原圖二五五個ヲ作リ、(二)「ダンブリット」ノ天然蝕像ト光學トノ關係ヲ論シ原圖一三四個ヲ作製シ、(三)天然蝕像ノ綠柱石ヲ研究シテ原圖六八個ヲ收メ、(四)既發表日本產水晶ノ天然蝕像論ニ新原

圖三〇〇個ヲ補ヒ、(五)燐灰石ノ結晶面ニ於ケル天然蝕像ノ廻轉性ヲ論シ原圖三九個ヲ收メ、(六)灰重石ノ天然人工兩蝕像ヲ研究シテ原圖二七個ヲ作製シ、(七)黃銅礦ノ天然蝕像ト結晶系統トノ關係ヲ研究シテ原圖六四個ヲ作リ、(八)黃鐵礦ノ結晶面ニ於ケル天然ノ四ミト結晶系統トノ關係ヲ論シテ原圖一五五個ヲ收メ、(九)輝錒礦ノ天然蝕像ヲ研究シテ原圖七個ヲ作リ、(一〇)既發表柘榴石、方解石、閃亞鉛礦、方鉛礦等ノ天然蝕像論ニ寫真圖五一個ヲ増補シ、既ニ英文ノ報告トシテハ黃寶石、燐灰石、水晶、柘榴石、方解石、閃亞鉛礦、方鉛礦、黃鐵礦等ノ八篇ヲ「アメリカ理學雜誌」ニ登載シ、外ニ「ダンブリット」綠柱石、灰重石、黃銅礦、輝錒礦等ノ五篇ノ原稿モ同誌ヘ寄送シ本年中ニ全部發表ノ豫定ナリ。邦文ノ報告トシテ英文摘要ヲ附シタル説明書モ既ニ出版セラレタリ。昭和四年秋萬國工業會議ニ於テ、佛國學者ノ「水晶ノ結晶體ニ於ケル電氣軸ノ測定」ナル論文發表ニ關聯シテ同氏ノ水晶論文ハ我國學者ヨリ紹介セラレタリト聞及フ。

七、本邦ニ於ケル化學的研究業績總覽ノ編纂

二ヶ年ニ金六千六百圓ノ補助(二回ニ決定)

仙臺市米ヶ袋中ノ坂通三六

理學博士 眞 島 利 行



〔略傳〕 眞島氏ハ明治七年十一月京都ニ生ル。第一高等學校ヲ經テ、東京帝國大學ニ入り三十二年純正化學科ヲ卒業セラル。同理科大學助手、助教ヲ歴テ三十九年留學ヲ命セラレ、獨逸瑞西及ヒ英國ニ於テ有機化學ヲ專攻スルコト四年、四十四年東北帝國大學教授ニ任セラレ、有機化學講座ヲ擔任シテ今日ニ及ヘリ。四十三年理學博士ノ學位ヲ受ケ、漆ニ關スル研究ニヨリ大正二年東京化學會ヨリ櫻井賞牌ヲ受ケ、六年帝國學士院賞ヲ受ケラル。

〔事業〕 本事業ハ明治初年來五十餘年間ニ蓄積セル本邦化學關係研究業績ヲ集約抄録シテ、一般斯學研究者ニ便セントスルモノナリ。化學ノ如ク廣ク醫學、藥學、衛生、生理、製造、農藝、其他ノ産業等ニ對シ一基礎タルト共ニ、邦土地方ニ特有ノ天產品又ハ其加工品ヲモ研究スル學問ニハ、從來ノ業績ヲ一目瞭然タラシムル集約抄録ヲ作ル事極メテ

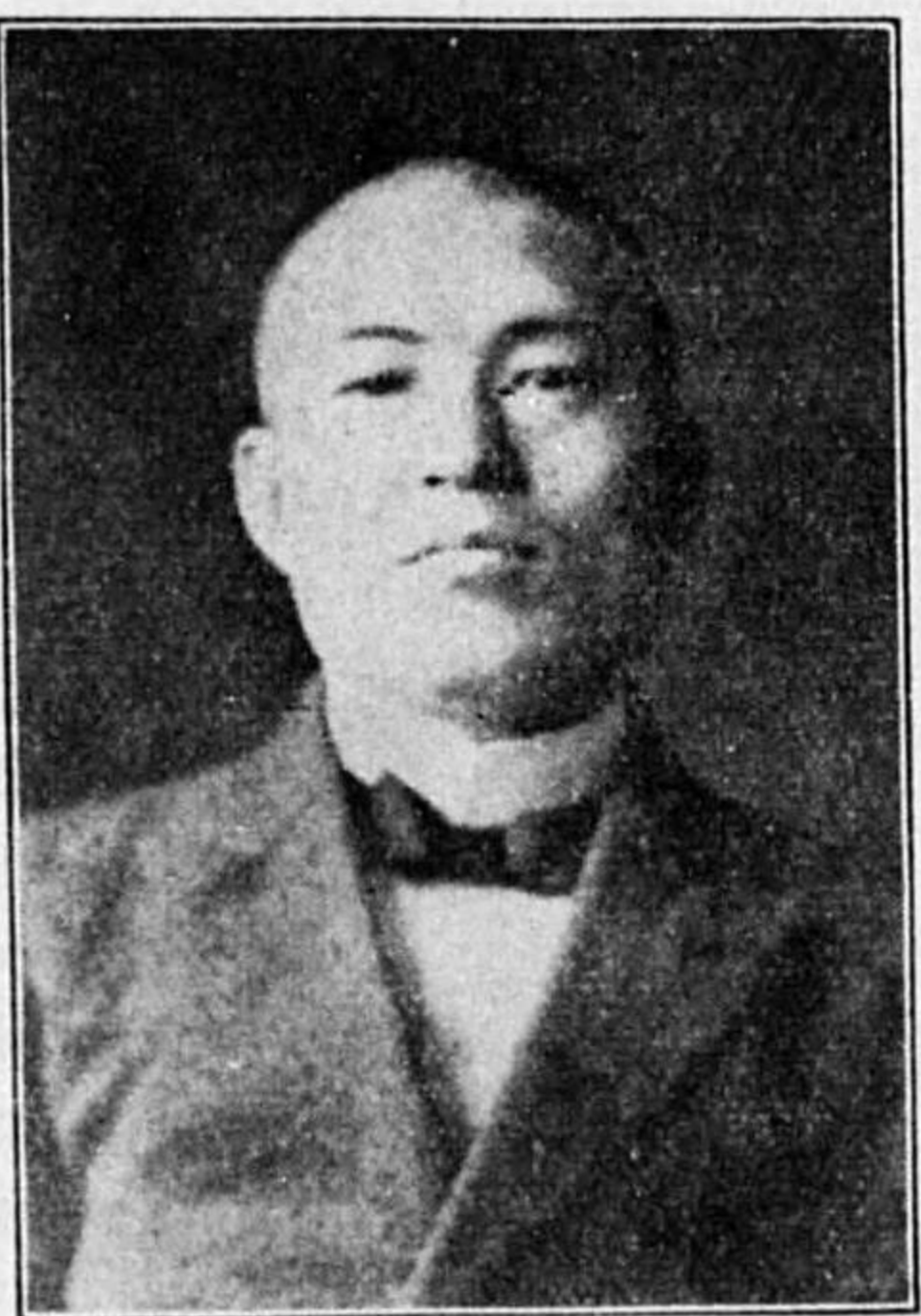
必要ナリ。獨、英、米、佛等ニハ此種ノ事業已ニ存シ、各國ノ研究ヲ抄録セルニ係ラス、邦語ヲ知ルモノナキ爲メ邦文ノ報告ハ之ヲ抄録セス、又本邦化學界ニモ未タ此種ノ企圖ナシ。眞島氏之ヲ遺憾トシ、大正十年四月來本會援助ノ下ニ本事業ニ著手セラル。其後本事業ハ著々進捗シ、東京化學會誌、藥學會誌、工業化學會誌ヲ始メ各大學ノ紀要其他頗ル多數ノ關係報告等ノ抄録ヲ大正九年(一九二〇年)迄完成シタリ。之ニテ一旦打切り出版スル豫定ノ處十二月九日ノ震災ノ爲メ延引ノ已ムナキニ至レリ、依テ之ヲ機會ニ更ニ十二年八月迄延長シ抄録ヲ完了セリ。尙此等業績ノ總索引ハ著者名、物名及分類項目ノ三種ニ分チ、其出版ハ有力者後援ノ下ニ刊行會ヲ組織シテ之ヲ行フコトトシ、大正十二年九月以後ノ文獻ヲ抄録シテ毎年一卷宛刊行シ全部五卷ヲ以テ明治大正年代ノ化學的文獻ノ抄録ヲ終ラントスル豫定ニシテ、既ニ「日本化學總覽(1)」ノ刊行ヲ終リ、(2)モ其ノ第五卷迄刊行シタリ。

八、絲狀蟲及ヒ絲狀蟲病ノ研究竝ニ之ト象皮病、乳糜尿症、乳糜血尿症、

草顛病トノ相互關係調査

東京市外井荻町上井草三六

三ヶ年間ニ金三千圓ノ補助



正三年陸軍二等軍醫ニ任セララル。

醫學博士 川 上 漸

七二

〔略傳〕 川上氏ハ明治十六年三月新潟縣古志郡ニ生ル。四十二年京都帝國大學醫科大學ヲ卒業シ、爾後同大學ニテ病理學ヲ專攻シ、大正五年熊本醫學專門學校教授ニ就任セラレ、七年醫學博士ノ學位ヲ受ケラル。八年慶應義塾大學醫學部教授ノ任ニ就カレ現ニ其ノ職ニアリ。又京都帝國大學卒業後一年志願兵トシテ兵役ニ服務セラレ、大

〔事業〕 絲狀蟲病ハ廣ク我國ニ蔓延シ、其研究ハ頗ル緊要ノ事ニ屬ス。川上氏ハ從來本研究ニ從事セラレシカ、大正十年七月來本會援助ノ下ニ一層深ク之ヲ研究セラルルコトトナレリ。爾來氏ハ主トシテ静岡縣富士郡地方ニ於テ本病ノ蔓延狀態ヲ調査シ、地勢及生活狀態ト本病蔓延トノ關係ニ就キテ探究ノ歩武ヲ進メ、又業室ニ於テ實驗的

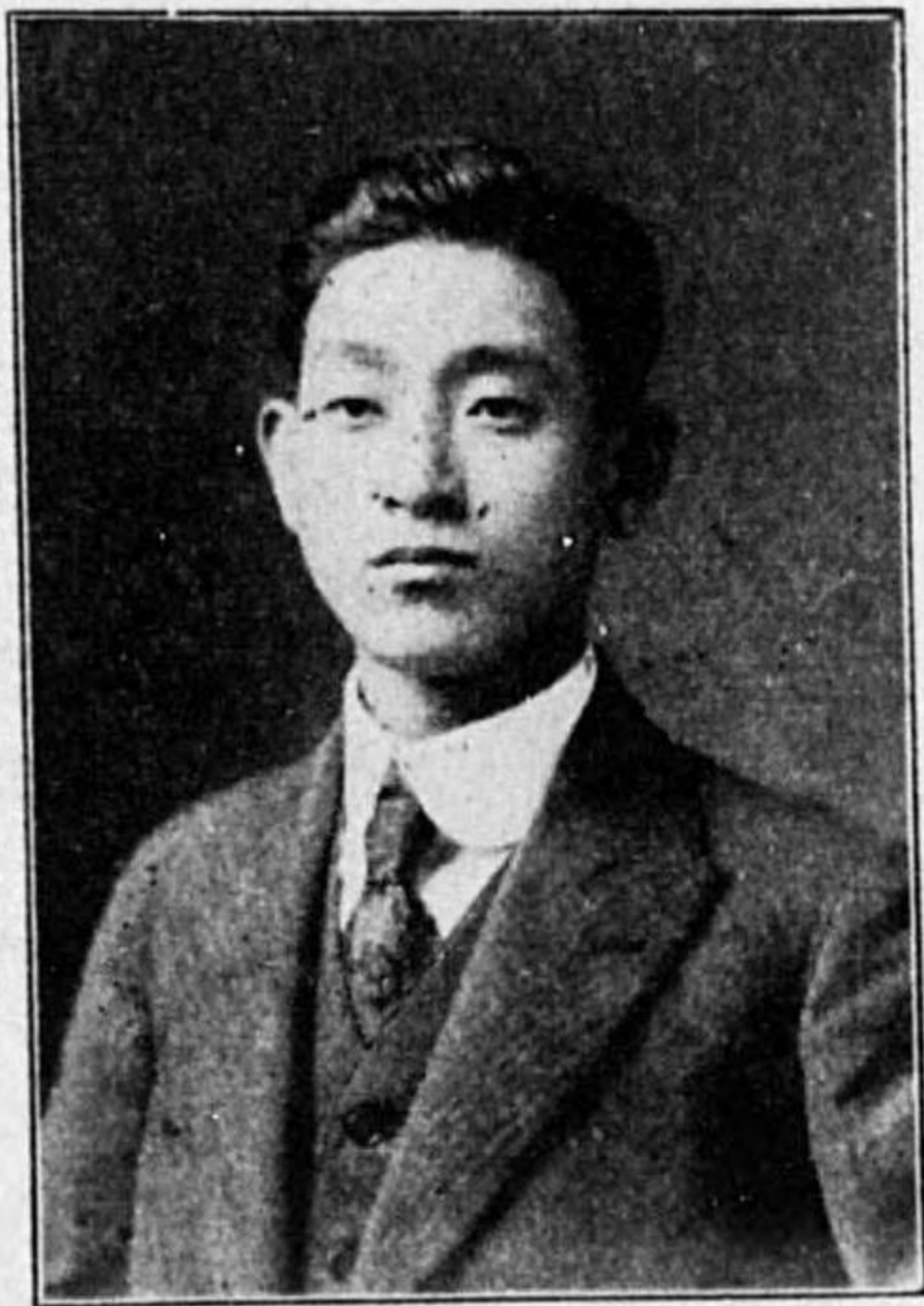
ニ諸種ノ事實ニ就キテ檢索シツツアリ。而シテ氏カ日本病理學會ニ於テ宿題擔當者トシテ演說シ、又諸種ノ醫學雜誌ニ發表シタル所ニヨレハ、第一、象皮病、乳糜尿症、乳糜血尿症、草顛病等ハ何レモ絲狀蟲病ノ一症候ニシテ、第二絲狀蟲病ノ傳播カ蚊族ノ襲蝨ニヨルトナス從來ノ學說ハ慎重考察ノ必要アリテ、使用水カ帶フル所ノ意義カ却ツテ重要視スヘキモノノ如ク、宿主體內ニ封鎖セラレテ存スルモノニハアラスシテ、自然的脫出門戸アリ、第四、從ツテ本病ノ傳播ヲ以テ強ヒテ蚊族ノ襲蝨ニヨルモノナリト爲スノ必要ナク、同一村落内ニ於ケル患者ノ聚落狀態患者ノ聚落ト特殊狀況トノ關係等ヨリ推論スレハ、使用水ニ就キテ本病ノ傳播徑路ヲ追躡スルコトカ寧ロ合理的ナルモノノ如シ。氏ハ此ノ立證ヲ擁護センカ爲メニ、静岡縣下津田村ニ於テ、各戸全家族ノ血液檢査ヲ遂行シ、目下蒐集材料ノ整理觀察中ナリ。又自家ノ研究成績ヲ基礎トシテ草顛病治療法ヲ考案シ、調査區域内ノ醫師ニ託シテ效果試驗ヲ行ヒ、尙「フィラリア」病犬ノ心臟及腎臟竝ニ「フィラリア」患者ノ心臟及腎臟病變ノ比較研究ニ從ヒツツアリ。

九、築港ト漂砂ノ關係研究

東京市外王子町十條一五〇〇

七三

二ヶ年ニ金六百二十七圓ノ補助



工學士 關 信 雄

七四

〔略傳〕 關氏ハ明治二十五年八月福島縣若松市ニ生ル。大正八年東京帝國大學工學部土木工學科ヲ卒業セラレ、直ニ内務省神戸土木出張所ニ奉職シ、繫船壁工場勤務ヲ命セラレ、神戸港修築工事ニ従事シ、同年二月内務技師ニ進ミ、同年五月東京帝國大學助教ニ轉任セラレ、工學部土木學科ニ勤務シ現ニ其職ニアリ。

〔事業〕 折角出來上リシ港カ漂砂ノ堆積スル爲メニ船ノ出入困難トナリ、又甚シキハ殆ント港ノ全部カ土砂ノ爲メ埋立テラレシ工事モ無シトセス、是全ク漂砂ノ運動状態ニ關スル調査不十分ナリシカ、又ハ現在ノ調査方法ニ缺陷アルカ爲メナリト云ハサルヘカラス。故ニ漂砂ノ研究ハ築港其他臨海工事ノ計畫上頗ル重要ナルコトニシテ殊ニ現時ノ我國ノ如ク神戸、横濱等ノ大築港ヲ始メ、各地ニ地方的港灣又ハ漁港ノ築造ヲ

要スルモノ多數アル國ニ於テハ本研究ハ一層緊要ナリトス。然ルニ漂砂ニ關スル研究ハ我國ニ於テモ又歐米ニ於テモ未タ甚タ不充分ニシテ今後ノ研究ニ俟ツ所頗ル多シ。關氏ハ嘗テ築造工事ニ關係セシコトモアリ、現ニ東大工學部土木工學ノ助教トシテ新進有爲ノ研究家ナルカ、大正十年十二月ヨリ本研究ヲ開始セラレシモノニシテ、本會ハ其ノ經費ヲ援助スルコトトナセリ。而シテ本事業ハ波ノ動力利用ノ研究ヲ以テ有名ナル廣井勇博士指導ノ下ニ同博士ノ研究場タル千葉縣太東岬ニ於テ之ヲ行フモノナリシカ、更ニ静岡縣三保海岸及ヒ新潟縣新潟港ヲモ調査セラレタリ。而シテ氏ハ今日迄ノ調査ノ結果ヲ綜合シテ四、五十尺ノ深度ノ海底ニ於テ漂砂ノ現象アルヲ認メラレタリ。尙詳細ナル調査報告ハ近近發表セラルヘシ。

一〇、 波斯ニ關スル研究資料ノ蒐集

東京市赤坂區青山北町一ノ八

五ヶ年間ニ金一萬圓ノ補助

マスター・オブ・アーツ 荒 木 茂

〔略傳〕 荒木氏ハ明治十七年十二月福井縣足羽郡酒生村ニ生ル。三十八年東京高等師範學校在學中語學專攻ヲ思立テ、北米合衆國ニ留學セラレ、比較言語學ノ基礎的研究

七五



ヨリ進ミ、大正三年紐育市「コロンビヤ」大學ニ入學
「サンスクリット」語及ヒ其姉妹語ナル「ベルシヤ」語
ヲ學習シテ「マスター・オブ・アーツ」ヲ受ケラル。爾
來九年三月迄引續キ同大學ニ研究シ同年四月歸
朝、十一年東京帝國大學文學部講師トナリ、且女子
學習院教授ニ任セラレ、今日ニ及フ。

〔事業〕 本件ハ波斯ニ關スル研究資料ヲ蒐集セントスルモノナリ。思フニ波斯ハ古
代東西文明ノ分水嶺ニシテ、東亞ト西歐ノ文化カ如何ニシテ分岐シ如何ナル點ニ接觸
アリシヤヲ知ルニハ波斯ノ研究ヲ看過ス可カラサルナリ。又近世及現代ノ波斯ハ或
ハ政治的ニ或ハ經濟的ニ歐洲諸國ノ注目スル所ニシテ本研究ハ極メテ重要ナリトス
而シテ本研究タルヤ或ハ古代ノ宗教、哲學、文學、藝術又ハ現時ノ言語、風俗、政治、經濟等頗
ル多方面ニ涉ルヲ要シ、現ニ歐米各國ニ於テハ此等ノ諸方面ヨリ盛ニ波斯ノ研究行ハ
レ、之ニ關スル資料ノ蒐集セラレタルモノ亦尠カラス。然ルニ我國ニ於テハ此方面ノ

研究ハ殆ト顧ル者無ク、研究資料ノ看ル可キモノ極メテ尠シ。本會夙ニ之ヲ遺憾トセ
シニ偶々荒木氏ヨリ本件ノ申出アリ、同氏ノ頗ル適任ナル事ヲ認メ、大正十一年四月以
來氏ヲ援ケテ本事業ヲ遂行スルコトトセリ。尙本件ハ高楠順次郎、藤岡勝二兩博士指
導ノ下ニ行フモノニシテ蒐集品ハ到達次第之カ保管ヲ東大文學言語學研究室ニ寄託
スルモノトス。而シテ其後荒木氏ハ十一年五月渡歐セラレシ白鳥庫吉博士ニ託シテ
第一回ノ蒐集ヲ爲シ、次テ十二年春渡歐セラレシ藤岡勝二博士ニモ蒐集ヲ託シ、又直接
歐米ノ書店ニ註文シテ取寄セ、既ニ紀行、歴史、言語、美術等ニ關スルモノ一千百十餘冊到
著セリ。

一一、妊娠腎炎ノ研究

二ヶ年間ニ金二千圓ノ補助

東京市麴町區五番町三

醫學博士

五

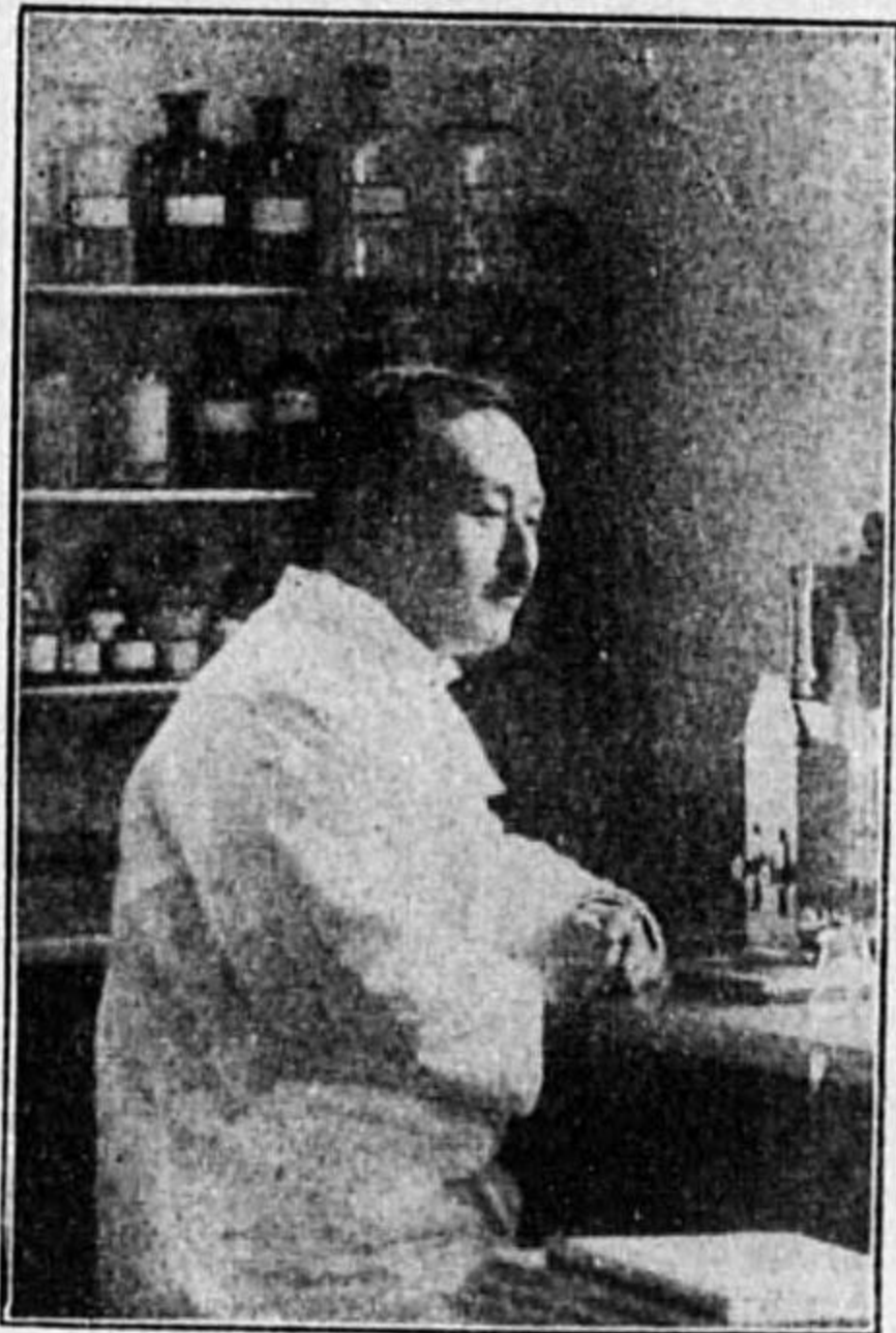
斗

欽

吾

〔略傳〕 五斗氏ハ明治十八年十月和歌山市ニ生ル。四十二年東大醫科大學ヲ卒業シ
直ニ大學院ニ入り、細菌學、醫化學ヲ修メ、後青山教授ニ就キ內科學ヲ專攻セラレ、助手ト
シテ大學附屬醫院ニ勤務スルコト七年、大正五年米國遊學、ペンシルヴァニア大學、ハー

「バード」大學「ロックフェラー」研究所ニ於テ研究シ
 七年歸朝、東大稻田内科ニ入りテ研究ヲ繼續シ、九
 年二月醫學博士ノ學位ヲ受ケラル。此間著者、ア
 シドージス及ヒ「機能的診斷學」ヲ公ニセラレ、同年
 六月日本赤十字病院臨床研究室主任トナリ、今日
 ニ及フ。



「事業」 本事業ハ妊娠時ニ於ケル蛋白尿、糖尿及腎疾患ノ本能及其療法ヲ攻究セント
 スルモノナリ。妊娠時ニ腎疾患及蛋白尿等ノ頻發スルハ人ノ知ル所ナリ、然レトモ其
 本能ニ就テハ學說一定セス、コハ疾患ノ診斷及治療上頗ル重大ナル問題ニシテ其研究
 ハ人類保健上ニ密接ナル關係アリ。五斗氏ハ多年腎機能ニ關シ多大ノ興味ヲ抱キ研
 究業績ノ發表サレタルモノ尠カラズ、殊ニ著述「機能的診斷學」ハ其結晶ニシテ診斷學上
 ニ一新生面ヲ拓キタルモノトス。氏ハ此獨特ノ新見地主トシテ機能的の方面ヨリ、茲ニ
 本事業即妊娠腎炎ノ研究ヲ遂行セラレントスルモノニシテ、コハ在來ノ研究法ニ一新

機軸ヲ出セルモノナレハ、疾患ノ本能ヲ究メ診斷及療法上大ニ貢獻スル所アルヘク、殊
 ニ氏ハ赤十字社病院ニ於テ主トシテ研究方面ヲ擔任セラレ、特別ノ研究設備モアリ、且
 同院ニハ先年施療産院ノ開設セラレタルヲ以テ同氏ノ病理研究ノ結果ハ直ニ同産院
 ニ於テ治療法トシテ應用セラレ、兩々相俟ツテ研究應用上裨益スル所多カルヘキヲ認
 メ、大正十一年四月來本會ニ於テ氏ノ本研究ヲ援助スル事トセリ。其後氏ハ先ツ妊娠
 腎ニツキ本能及臨床上腎機能ヲ研究セラレツツアリシモ、業半ハニシテ、十二年九月ノ
 震災アリ、又本務多忙ナリシト、其後病氣ナリシトノ爲メ一時研究ヲ中絶サルルノ止ム
 ナキニ至レリ。然レトモ其ノ動物試驗ハ既ニ豫備試驗ヲ終リ、今ヤ本研究モ略完成シ
 近々發表ノ豫定アリ。尙氏ハ其研究中理論ト實際腎臟疾患ト題シテ特ニ妊娠腎ニツ
 キ評論セラレタリ。

一三、「明治工業史」ノ編纂ノ完成及出版

二ケ年間ニ金二萬五千圓ノ補助（但内二萬圓ハ後ニ返戻） 東京市外濫谷町常盤松一八

工學會理事長

工學博士

男爵

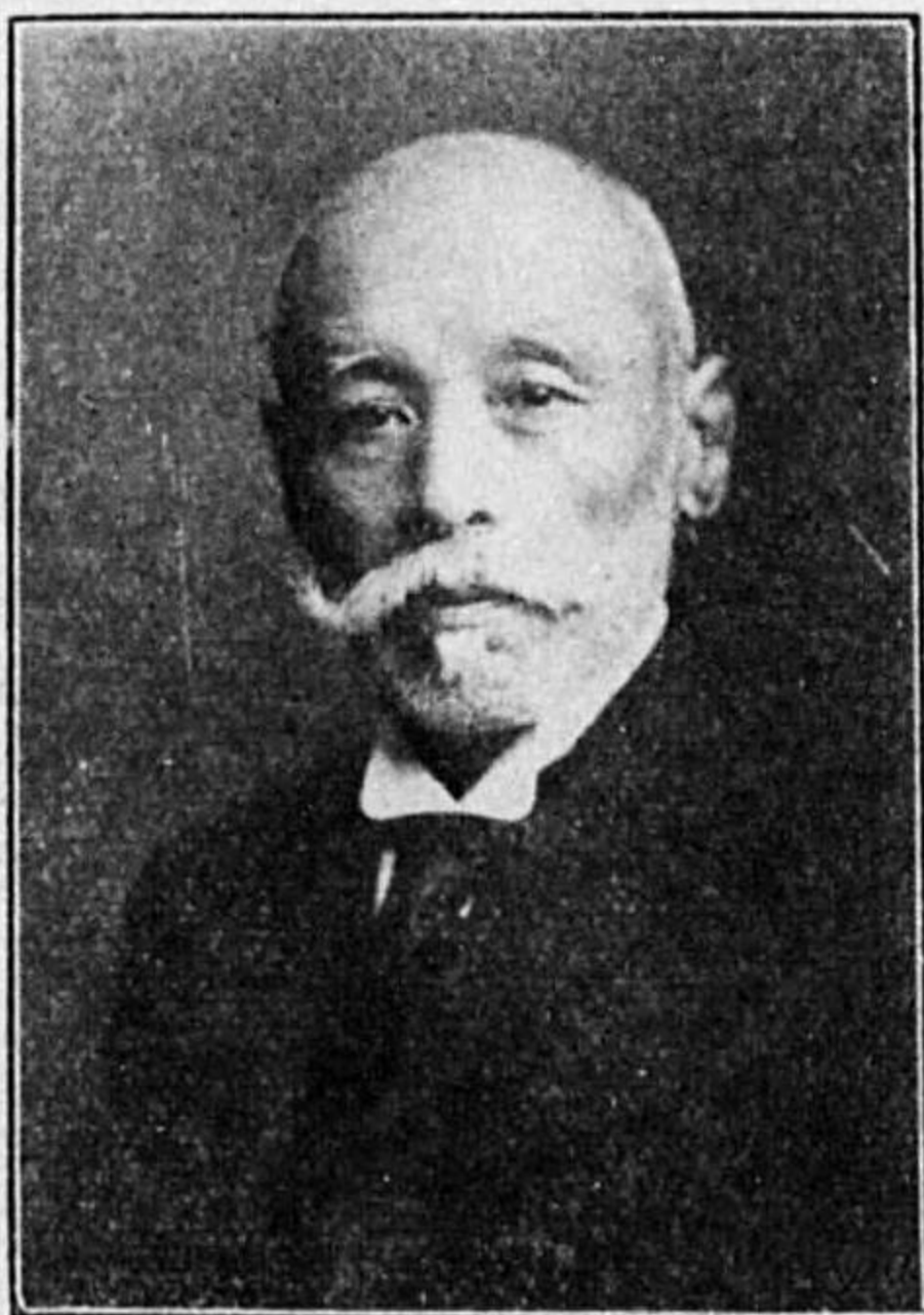
古

市

公

威

「略傳」古市氏ハ姫路藩士ニシテ安政元年閏七月日本橋蠣殻町ニ生ル。工業界ノ長老ニシテ夙ニ學位ヲ受ケ、東大名譽教授、帝國學士院會員タリ、從三位勳一等ニ敍セラレ、男爵ヲ授ケラル、現ニ樞密顧問官タリ。



京都市上京區淨土寺眞如町

明治工業編纂史委員長 工學博士 田邊 湖郎



「略傳」田邊氏ハ文久元年十一月東京ニ生ル。明治十六年工部大學校土木工學科卒業、直ニ京都府ニ赴任、琵琶湖疏水工事ヲ擔任シ本邦最初ノ水力電氣ヲ完成ス。二十三年東大教授ニ任シ、二十四年學位ヲ受ケ、二十九年北海道廳ニ轉任シテ同道官設鐵道ヲ創立シ、三十三年京大教授ニ任シ、大

正十二年十月退職、翌月京大名譽教授ノ名稱ヲ授ケラル。「琵琶湖疏水誌」とんねる「水力」西伯利鐵道「公式工師必携」等ノ著アリ。

「事業」明治工業史ハ明治年間ニ於ケル工業ノ發達ヲ詳述シ、其由來スルトコロノ明治以前ノ状態ヲ略述シ、而シテ大正年間ニ互ルノ順序ヲ記述スル著大ナル工業史ナリ。明治三十三年以來田邊氏ハ獨力ヲ以テ其編纂ニ當ラレシカ、大正五年古市男爵ヲ會長トスル工學會ニ於テ之ヲ繼承シ、田邊氏推サレテ編纂委員長トナリ、百三十餘名ノ委員ヲ設ケ、爾來十年ノ歲月ヲ重ネ、貳萬餘圓ノ經費ヲ投シ、編纂略完成ニ近ツキシト雖モ、未タ完備ニ至ラス、且其出版費大ナルモノアリ、依テ大正十二年四月以來本會ハ其編纂ノ完備ト出版ノ經費ヲ援助スルコト、シタリ。其後同史中ノ化學工業篇(四百十六倍版)。造船篇(四百六十六倍版)。鐵道篇(四百九十九倍版)。建築篇(四百六十五倍版)。電氣篇(四百六十八倍版)。土木篇(四百二十倍版)。火兵篇(四百九十六倍版)。鐵鋼篇(四百六十八倍版)。合本。鑛業篇(四百六十九倍版)。機械篇(四百六十倍版)。地學篇(四百六十六倍版)。合本。各壹千部宛ヲ發行スルヲ得テ分科篇九冊ヲ完成セリ。而シテ今ヤ餘ストコロハ提要八冊トナリタリ。明治工業史十二篇十冊ハ明年ヲ以テ完全スルモノナリ。右梓ニ關スル諸費用ハ先ツ本會援助金貳萬五千圓中ノ貳萬圓ヲ以テ之ニ充テ、

不足額ハ既成ノ各篇ノ賣却代金ヲ以テ之ヲ補フ豫定ニシテ、右出版完成ノ上ハ其賣上
金中ヨリ前記貳萬圓ヲ本會へ返還スルモノナリ。

一三、渦卷ノ研究

三ヶ年間金四千五百圓ノ補助

東京市麴町區元衛町中央氣象臺官舎第二號

理學博士 藤原 咲平

〔略傳〕 藤原氏ハ明治十七年九月長野縣諏訪郡
上諏訪町藤原光藏氏ノ長男ニ生ル、小、中學校、高等
學校、東京帝國大學理科大學理論物理學科及同大
學院ヲ卒業シ、大正四年學位ヲ、九年學士院賞ヲ受
ク。明治四十二年中央氣象臺ニ入り技師トナリ
氣象學ヲ專攻シ今日ニ至ル。



〔事業〕 渦卷ノ研究ハ氣象學上甚タ重要ナレトモ、從來多少ノ理論的研究アリタル外
實驗的研究少シ。藤原氏ハ先年滯歐中本研究ニ著手シ、向對稱ノ原理、造差別即チ増上

的成長ノ原則向平等即チ死滅ノ原理ヲ發見シ、其適用範圍カ單ニ渦卷ニ止ラス廣汎ナ
ル自然現象ニ共通ナルヲ示シ、又渦卷ノ吸引、排斥、分裂、癒著、攝取、世代、自働、種子、成長、適應
等ニ關シ新事實ヲ發見シ、生物及ヒ無生物間ノ一連鎖ナルヘキ事ニ著目シ、既ニ其研究
成績ヲ發表セリ。而シテ氏ハ更ニ本研究ヲ徹底センカ爲メ經費ノ補助ヲ求メラレ、大
正十二年四月來本會ハ之ヲ援助スルコトセリ。其後著々研究ヲ進メ右諸發見ノ事
實ヲ活動寫眞ニ撮影スルコトニ成功シ、尙多年疑問タリシ北尾ノ定理ト岡田ノ法則間
ノ外見的矛盾ノ原因ヲ究明シ、其ノ裝置及成績ハ十二年九月ノ震火災ニ燒失シタレト
モ、新裝置ヲ設ケテ復興ヲ計リ、又大體ノ報告ヲ氣象集誌ニ發表シ、地盤ノ渦卷ト相模灘
大地震ヲ同誌ニ掲載シ、相模灘大地震ノ機巧ニ於テ及、地球ノ表面ノ渦卷〔英文〕ヲ發表シ、
尙大正十五年外遊中諸所ノ學會ニ於テ研究ノ大要ヲ紹介セラレタリ。

一四、定本萬葉集ノ作成

四ヶ年間ニ九千圓ノ補助

東京市本郷區西片町一〇

文學博士 佐々木 信綱

〔略傳〕 佐々木氏ハ明治五年六月伊勢鈴鹿郡石藥師村ニ生レ、歌人佐々木弘綱氏ノ長



男ナリ。東京帝大古典科卒業後、竹柏會ヲ設ケ新派和歌ノ興隆ニ力ヲ盡サレ。三十八年東大講師ヲ囑セラレ、和歌史ヲ講シテ今日ニ至ル。同四十四年文學博士ノ學位ヲ授ケラレ、翌年明治天皇大學行幸ノ際萬葉集古寫本ニ就キ説明シ奉ラル。大正六年帝國學士院ヨリ恩賜賞ヲ受ケ、同年明治天皇御集編輯委員ヲ命セラル。著書ニ日本歌學史、和歌史ノ研究、近世和歌史、元曆校本萬葉集解説、日本歌選、思草、常盤木、新月等アリ。

「事業」本會ハ大正八年來佐々木氏等ノ校本萬葉集ノ整理及刊行ノ事業ヲ援助シ、校本萬葉集五帙二十五冊ノ出版完結シタルコトハ、完成補助事業、八、記載セル通リナリ。依テ異本ヲ集メテ文字訓點ノ異同ヲ調査スルコト、即チ校本ノ作成ハ之ニテ完結シタル譯ナレトモ、萬葉研究ノ完璧ヲ期スルニハ更ニ定本ノ作成、即チ校本ノ異同ニ就キテ是非ヲ判別シ準據スヘキ所ヲ明ニスルコトヲ要ス。佐々木氏等ハ多年右校本ノ作成

ニ從事セラレシ知識經驗ヲ以テ更ニ此ノ定本作成ヲ遂行セント欲シ、其ノ經費ノ補助ヲ求メラレ、本會ハ萬葉研究ノ完成ヲ計ル爲メ、又佐々木氏等ノ適任者ナルヲ幸ニ、大正十二年七月來更ニ本事業ヲモ援助スルコトトシ、其後同氏等ハ熱心ニ其研究ヲ續ケラレ、卷十九マテ第三回ノ調査ヲ了ヘ、豫備事業トシテ新訓萬葉集ヲ出版セラレタリ。尙又分類萬葉集及白文萬葉集ヲ編纂シ、斯クシテ、定本作成ノ完成ニ努力セラレツツアリ。

一五、糖尿病ノ實驗的研究

三ヶ年間ニ金四千圓ノ補助

東京市外千駄ヶ谷町字千駄ヶ谷五六二

醫學博士 緒方 知三郎



「略傳」緒方氏ハ緒方惟準氏ノ三男ニシテ、明治十六年一月神田猿樂町ニ生ル。三高ヲ經テ東大醫科ニ入り、四十年卒業、四十三年獨、佛、英ニ留學、大正二年歸朝、東大醫科大學講師トナリ、三年助教授ニ進ミ、四年學位ヲ受ケ、八年教授トナリ、病理學講

座ヲ擔任シ今日ニ及フ。

「事業」 「メーリング」 「ミンスウスキ」 兩氏カ犬ノ膵臟摘出ニヨリ糖尿病ヲ惹起セシメ得ルヲ發見シテ以來、人類糖尿病膵臟ノ病理解剖組織學的検査ノ結果、同病ノ原因カ膵臟殊ニ「ランゲルハンス」氏島ノ内分泌機能障礙ニ存スル事確實トナリ、而シテ緒方氏ハ多年「ビタミン」B缺乏症ヲ研究シ、缺陷アル食餌ヲ以テ膵臟島組織ニ著變ヲ惹起シ得ルヲ證明セラレ、尙不完全食餌カ糖尿病ノ一因タルハ臨床的觀察ノ教フル所ナルモ未ダ其理由明ナラス。依テ氏ハ「ビタミン」B缺乏症ノ研究上ヨリ得タル知見ニ基キ、廣ク食餌方面ヨリ糖尿病ノ原因ヲ闡明セント欲シ、大正十三年四月來本會補助ノ經費ヲ以テ實驗ヲ始メ、飼養試驗ヲ主眼トシ、他ノ方面ヨリモ糖尿病研究ノ歩ヲ進メ、既ニ研究方針ヲ確立シ目的達成ノ曙光ヲ認メラルルニ至レリ。

一六、 琉球藝術調査並同報告書ノ作成出版

金九千圓ノ補助(三回ニ決定)

東京市本郷區西片町一〇

工學博士 伊 東 忠 太

「略傳」

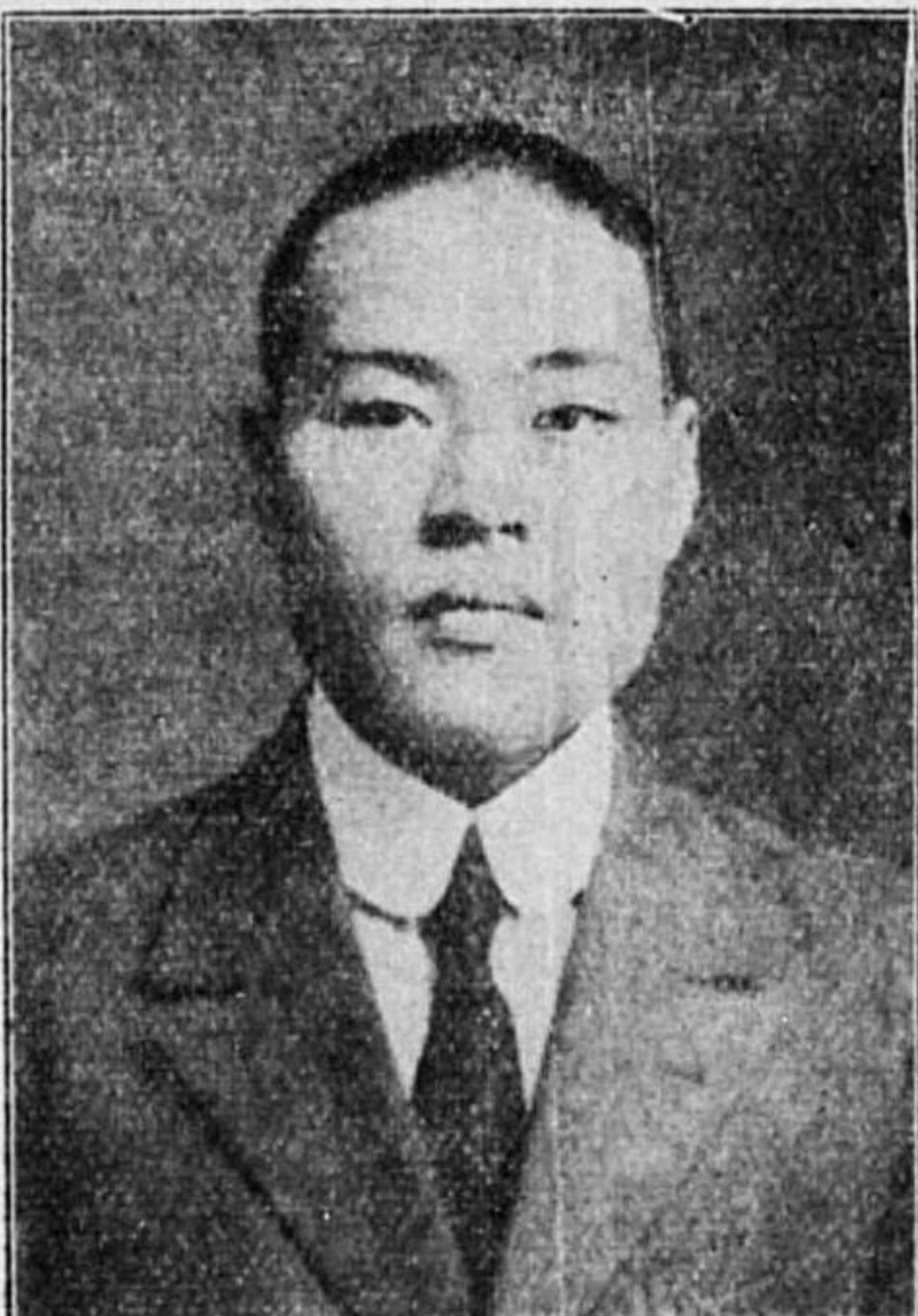
伊東氏ハ慶應三年十月山形縣米澤市ニ生ル。明治二十五年東大工科大学造



家學科卒業、大学院ニ入り、三十二年工科大学講師トナリ、次テ助教ニ進ミ、三十四年學位ヲ受ケ、三十五年支那、印度、土耳其ニ留學、三十八年教授トナリ、建築史講座擔任今日ニ及フ。尙古社寺保存會委員學術研究會議員等ヲ兼ネ、著書ニ「法隆寺建築論」北京紫禁城建築調査報告等アリ。

東京市下谷區上野公園東京美術學校

美術史研究室 鎌倉 芳太郎



「略傳」 鎌倉氏ハ明治三十一年十月香川縣木田郡水上市ニ生ル。大正十年東京美術學校ヲ卒業同年沖繩縣ニ赴任シ琉球藝術ヲ研究シ、十二年母校研究科ニ入ル、十三年同校助手トナリ、琉球藝術踏査ヲ命セラレ、昭和二年ヨリ同校美術史研究室

ニ勤務、五年講師トナリ風俗史ヲ講シテ今日ニ及フ。

「事業」 舊琉球王國ノ藝術ハ獨異ナル特色ヲ有シ、東洋藝術史上一異彩ヲ放ツ、然ルニ未タ之ヲ顧ル者ナク、其遺物ハ漸次湮滅セントス。伊東、鎌倉兩氏之ヲ遺憾トシ、大正十三年四月來本會補助ノ下ニ本調査ヲ開始セラシ。調査ノ目的ハ琉球藝術史ニ體系ヲ與ヘ、東洋藝術史上ノ位置ヲ考定スルニアリ。其手段トシテ寫眞、拓本、模寫、實物等ノ藝術資料ヲ蒐メ、他ノ東洋諸國ノ藝術ト比較シ且ツ琉球文化ノ史料ヲ探求セントス。而シテ其後主要ナル琉球固有ノ祠堂、佛寺、神社、道觀、文廟、陵墓、城堡、官殿、住家、橋梁、庭園等ノ調査ヲ了ヘ、紋様、繪畫、彫刻、漆工、陶磁、織工、染工等多クノ資料ヲ蒐メ、又古記録等ヲ探リ其數二千點ニ上ル。依テ本會ハ展覽會ヲ催シテ之ヲ公開シ、其際兩氏ハ調査成績ノ大要ヲ講演セラレタリ。然ルニ宮古、八重山等ニ於テ調査未了ノモノ少カラサルニ依リ、大正十四年九月金二千圓ヲ追加補助シ、調査ヲ完成スルコトトセリ。依テ鎌倉氏ハ再ヒ同島ニ出張シ昭和二年九月一千三百餘點ノ實物、寫眞、拓本等ヲ蒐集歸朝セラレ、昭和三年四月本會ハ其報告ノ完成及ヒ出版ヲ條件トシテ、更ニ四千圓ヲ追加補助シ、事業著々

進行シテ、論文「琉球固有藝術ノ發生的考察ニ於ケル琉球固有村落體ノ宗教ト藝術」村落體ノ構成ト琉球王國ノ基礎宗教及琉球固有宗教ノ性質ト固有藝術ノ基礎「琉球固有宗教ノ組織ト其藝術」ニ就キ起草中ナリ。

一七、佛國圖書館並ニ英國博物館所藏

支那西陲發掘古典籍ノ調査及寫照

京都府相樂郡瓶原村

金三千圓ノ補助

文學博士 内藤 虎次郎

「事業」 別記ノ通り「オーレル・スタイン」ノ支那西陲各地ニ發掘セル英國博物館所藏品中繪畫ハ既ニ本會援助ノ下ニ瀧精一氏之ヲ模寫將來シ、其主トシテ佛教ニ關スルモノハ之又本會ノ補助ニヨリ矢吹慶輝氏之ヲ寫照將來セラレタリ。然ルニ尙主トシテ佛教關係以外ノモノニハ未調ノモノ存スル如ク、更ニ「パウル・ペリオ」ノ同地方ニ發掘シテ佛國圖書館ニ藏スルモノニモ尙未調ノモノアリト思ハレ、依テ内藤氏ハ大正十三年七月歐洲出張ヲ好機トシ、右兩所ニ於ケル古典籍ヲ調査寫照セント欲シ、其經費ノ援助ヲ本會ニ求メラル。本會ハ夙ニ此等發掘品ノ研究ヲ肝要ト認ムルモノニシテ、即チ同月

氏ノ求ニ應スルコトトセリ。而シテ氏ハ既ニ此事ヲ了ヘ、先年歸朝セラレ調査成績ノ整理中ナリ。

一八、日本農民經濟書出版準備

金五千圓ノ補助

東京府下小金井村字上山谷二七七三

農學博士 小野武夫



〔略傳〕小野氏ハ明治十六年八月大分縣大野郡百技村ニ生ル。同縣農學校卒業後一年志願兵トシテ奉天役ニ參加、四十四年農業科文檢合格、四十五年法政大學政治科卒業、大正二年帝國農會囑託、後海外興業會社調査課長等トナリ、九年來農商務省ヨリ永小作調査ヲ囑託セラレ、十二年來帝國學士院ノ補助ヲ以テ德川時代農民土地制度ヲ研究シ今日ニ及フ。「舊鹿兒島藩ノ門割制度」、「舊佐賀藩ノ農民土地制度」、「舊宇和島藩ノ閘持制度」、「永小作論」、「農民經濟史研究」、「黎明期ノ農村」其他多數ノ著書アリ。

〔事業〕

本事業ハ多年小野氏ノ蒐集セラレシ、主トシテ德川時代列藩ノ民制、農業經濟農耕藝、法制等一切ノ農民生活ノ歴史ニ關スル記録ヲ整理校正シ、且ツ解題ヲ附スルモノナリ。資料ハ其數約三百種、一萬五千枚(六百字詰)ニ達シ、每卷二段組約九百頁トシテ十二卷ト爲ス豫定ナリ。大正十三年七月來本會ハ其經費ヲ援助シ、爾來氏ノ格段ナル努力ト事業全般ニ對スル石黒忠篤、福田德三兩氏ノ助言ト、原稿校正ニ關スル山下重民氏ノ熱心トニ依リ、準備成リ、出版者確定シ、目下印刷中ニシテ、内六卷ハ既ニ校了トナレリ。本書ハ農民史資料ヲ專ラトスル叢書ノ嚆矢ニシテ、農民問題研究ニ貢獻スル事頗ル大ナルヘキヲ信ス。

一九、青年男女ニ關スル調査

三ケ年間ニ金一萬圓ノ補助

東京市外千駄ヶ谷穩田一三〇

社會教育研究所 小野晴敏

〔略傳〕小野氏ハ明治十六年九月山梨縣北巨摩郡篠尾村ニ生ル。大正六年山梨自治會附屬松柏塾ヲ甲府ニ創立シ、十年之ヲ東京ニ移シ、社會教育研究所ト改稱ス。現ニ其主幹兼總務部長タリ。過去二十年各地ニ講演、講習ヲ爲ス事約千五百回、十三年其功ヲ

賞セラレ、十四年助成金ヲ賜ハル。



「事業」 將來國家ノ中堅タルヘキ青年男女ヲ指導スル方針ノ問題ハ頗ル重要ナルコトナルカ、此ノ方針ヲ樹立スルニハ先ニ具ニ青年男女ノ實狀ヲ調査スルヲ要ス。小尾氏ハ先年來此ノ調査ニ著手シ青年男女ノ學力、讀物、思想、體力等ニ付詳細調査中ナリシカ、大正十三年十一月來本會援助ノ經費ヲ以テ一層徹底的ニ之ヲ遂行セラル、コト、ナレリ。同氏ハ時々各地ニ出張講話シテ多クノ青年ニ接觸スル機會ヲ有シ、經營ノ研究所ハ毎年其ノ卒業者ヲ全國ニ送り、到ル所ニ多數ノ援助者ヲ有セラレ、洵ニ本事業ノ適任者ト云フヘシ。爾來氏ハ諸所ニ出張シテ銳意調査ヲ進メラレ、先ツ調査スヘキ町村ヲ選定シ、次ニ豫備調査ヲ爲シ更ニ本調査ヲ行ハレツツアリ。

二〇、日本産蛙ノ圖譜ノ出版

東京市外大崎町字上大崎五〇〇

金三千圓ノ補助

理學博士 岡田 彌一郎



授ニ任シ、同時ニ水産講習所講師ヲ辭サル。

「略傳」 岡田氏ハ明治二十五年六月横濱市ニ生ル。東京府立一中ヲ經、農商務省水産講習所ニ學ヒ、卒業後研究科ニ入り、傍ラ東大理科動物教室ニテ研究シ、同科助手ニ就任ス、其後農商務省農事試験場囑託トナリ、水産講習所、東京高師臨時教員養成所等ニ教鞭ヲ執リタリシカ、昭和四年三月博士ノ學位ヲ受ケラレ同年四月東京高等師範學校教

「事業」 同氏ハ渡瀬庄三郎博士監督ノ下ニ、河野卯三郎氏ト共ニ多年日本産蛙ヲ研究セラレ、而シテ地理的分布ノ研究ハ主トシテ同氏之ニ當リ既ニ完成結了セラレタリ。由來蛙ノ研究ハ農業上害虫捕食ト關係アリ、又食用蛙トシテ食料問題トモ關聯シ、且ツ醫學生理學諸方面ニ交渉ヲ有シ、應用及學術上重要ナル一事項ナリ。依テ氏ハ右成績

ヲ出版センカ爲メ經費ノ援助ヲ本會ニ求メラレ、大正十三年十二月本會ハ此出版中最モ重要ニシテ、而モ引受手ナキ圖譜ノ部分ノ印刷ニ援助スルコトトセリ。依テ同氏ハ直ニ之ニ著手セラレ、本文及圖版ノ印刷略終リ近々出版ノ豫定ナリ。

二一、元曲選ノ研究

五ヶ年間ニ金四千圓ノ補助

東京市小石川區久堅町七四

文學博士

鹽

谷

溫



〔略傳〕鹽谷氏ハ明治十一年七月東京市下谷區ニ生ル。學習院ヨリ第一高等學校ヲ經、三十五年東大文科大學漢學科ヲ卒業、直ニ大學院ニ入學、支那文學ヲ專攻ス。三十九年同大學助教ニ任シ、獨、清兩國へ留學ヲ命セラレ、大正元年八月歸朝ス。九年學位請求論文「元曲ノ研究」ヲ提出シテ、文學博士ノ學位ヲ受ケ、教授ニ陞進セラレ今日ニ至ル。

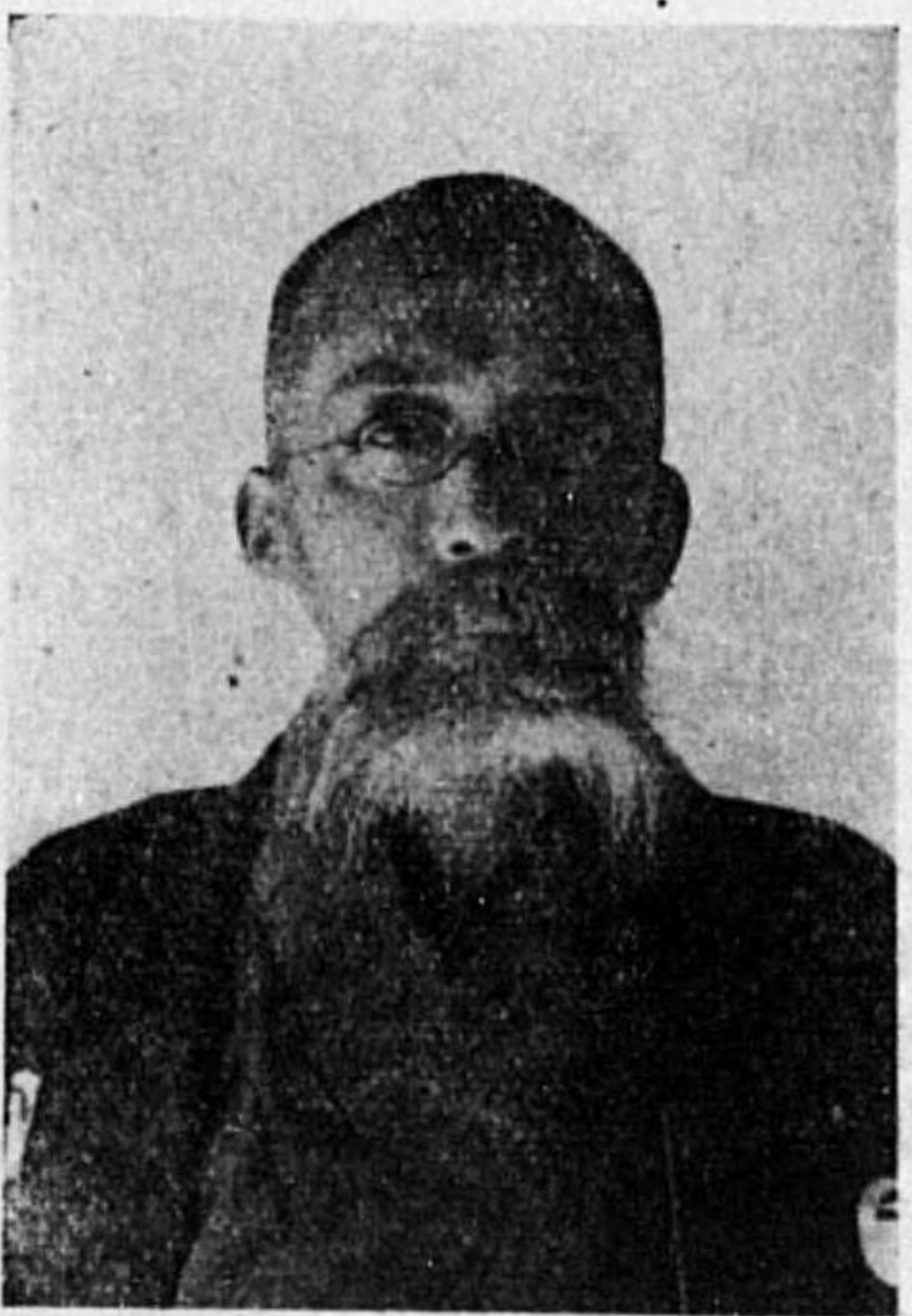
〔事業〕本事業ハ元曲百種ヲ選シ、其原文ニ句讀訓點ヲ施シ、故事熟語ノ註釋ヲ試ミント欲スルモノナリ。抑々「元ノ曲」ハ「漢ノ文」「唐ノ詩」「宋ノ詞」ト竝ヒ稱セラルル四大文學ノ一ニシテ、支那文學史上ニ燦爛タル光彩ヲ放テリ。從來詩文ハ本邦先儒ノ多ク研究スル所ナレトモ詞曲ニ至リテハ殆ト之ヲ顧ミルモノナシ。蓋シ曲ハ當行ヲ貴ヒ、好ンテ淺言俚句ヲ用ヒ、頗ル解シ難ケレハナリ。然ルニ西洋ニ於ケル東洋學者ハ支那ノ戯曲小説ニ興味ヲ有シ、之ニ關スル著述翻譯少シトセス。是實ニ新シキ支那學者ノ手ニヨリテ開拓セラルヘキ天府ノ祕境ナラスヤ。但シ元曲選ハ元人雜劇ノ選集ナレトモ、明代ノ編纂ニ係ルカ故ニ、流傳ノ際後人ノ修訂ヲ經タルモノアルヘシ。之カ考證ヲナスハ本研究ノ主トスル所ニ非ザレトモ、出來得ル限り旁及セントスルモノニシテ、本會ハ大正十四年七月以降本事業ヲ援助スル事トセリ。而シテ氏ハ拓殖大學宮原教授ヲ助手ニ依嘱シ分擔ヲ定メ銳意原文ノ註釋ヲ進メラレ、昭和三年春渡支セラレ專ラ完成ヲ期セラレツツアリ。成績トシテ「元曲新鈔」「梧桐篇」ヲ出版シ、引續キ風俗劇中ノ「神奴兒」「盆兒鬼」「生金閣」等及風情劇中「金錢記」「鴛鴦被」「梧桐葉」「紅梨花」等百種曲全部ヲ閱了シ之ニ註釋ヲ下サレタリ。

二二、支那歷代思潮ノ研究

三ヶ年間ニ金六千圓ノ補助

東京市外戸塚町大字諏訪八〇

文學博士 市村 瓊 次 郎



年八月文學博士ノ學位ヲ授ケラル。大正七年七月東洋史學講座ヲ擔任ス。大學ニ在ルヤ前後四回支那出張ヲ命セラレ史蹟ノ踏査ヲ爲ス。十四年三月依願免官、四月學士院會員被仰付、七月東大名譽教授トナル。著書ニ支那史、支那史要、東洋史要、支那論集、支教論集等アリ。

〔略傳〕市村氏ハ元治元年八月茨城縣北條町ニ生ル。明治二十年七月東大古典科ヲ卒業シ、二十一年十二月學習院教師トナリ、專ラ支那歴史及漢文ノ教授ヲ擔任ス。二十五年七月同院教授ニ任シ、支那へ出張シ古蹟ノ踏査ヲ爲ス。三十一年八月東大文科大學助教授ニ轉任、三十八年七月教授ニ昇任シ、支那哲學、史學、文學講座ヲ擔任ス。四十

〔事業〕支那歷代ノ思想ハ東洋思想ノ一大系ヲナスノミナラス、我日本ノ過去ニ於ケル思潮ニモ關係少カラサルヲ以テ市村氏ハ十餘年來特ニ之カ研鑽ニ從事シ其源流影響ヲ探究シ、帝大ノ教壇ニ於テ常ニ之ヲ講授セラレタリ。然レトモ其範圍廣汎ニシテ先秦諸子ヲ始メ、儒教、道教、佛教等ヨリ其他ノ宗教、文學、政治、風俗ニ至ルマテ、苟モ歷代思潮ト關係アルモノハ悉ク研究ノ題材タルヲ以テ、其ノ進歩容易ナラス、纔ニ上代ヨリ宋代マテハ略緒ニ就キタレトモ、元、明、清ノ時代ニ至リテハ猶未タ手ヲ著クルニ至ラス、大正十四年七月以降本會ニ於テ其ノ經費ヲ援助シ、既ニ緒ニ就ケル部分ノ補修ニ努メ、未タ著手セサル部分ノ完成ヲ圖ルコトトセリ。爾來前者ニ對シテハ兩漢時代ノ思潮、兩晉南北朝時代ノ清談、儒佛道ノ關係等ノ研究ヲ修正補訂シテ完了ニ至リ、引續キ隨唐時代ノ思潮ニ關スル覆考ヲ試ミ、佛教、道教ニ關スル方面ノ修補訂正ヲ略完了シ、更ニ宋代ノ思潮ニ及ヒ、道學即チ儒教哲學勃興ノ淵源來歴ニ就キテ再度ノ檢索ヲ試ミツツアリ。後者ニ對シテハ金代ノ文獻ヲ涉獵シテ之カ宋、元ノ思潮ト如何ナル關係ヲ有セルカラ討究シ、更ニ元代思潮ニ及ホセル宋學ノ影響ヲ明ニセント欲シ、元代諸學ノ學說ニ就キ

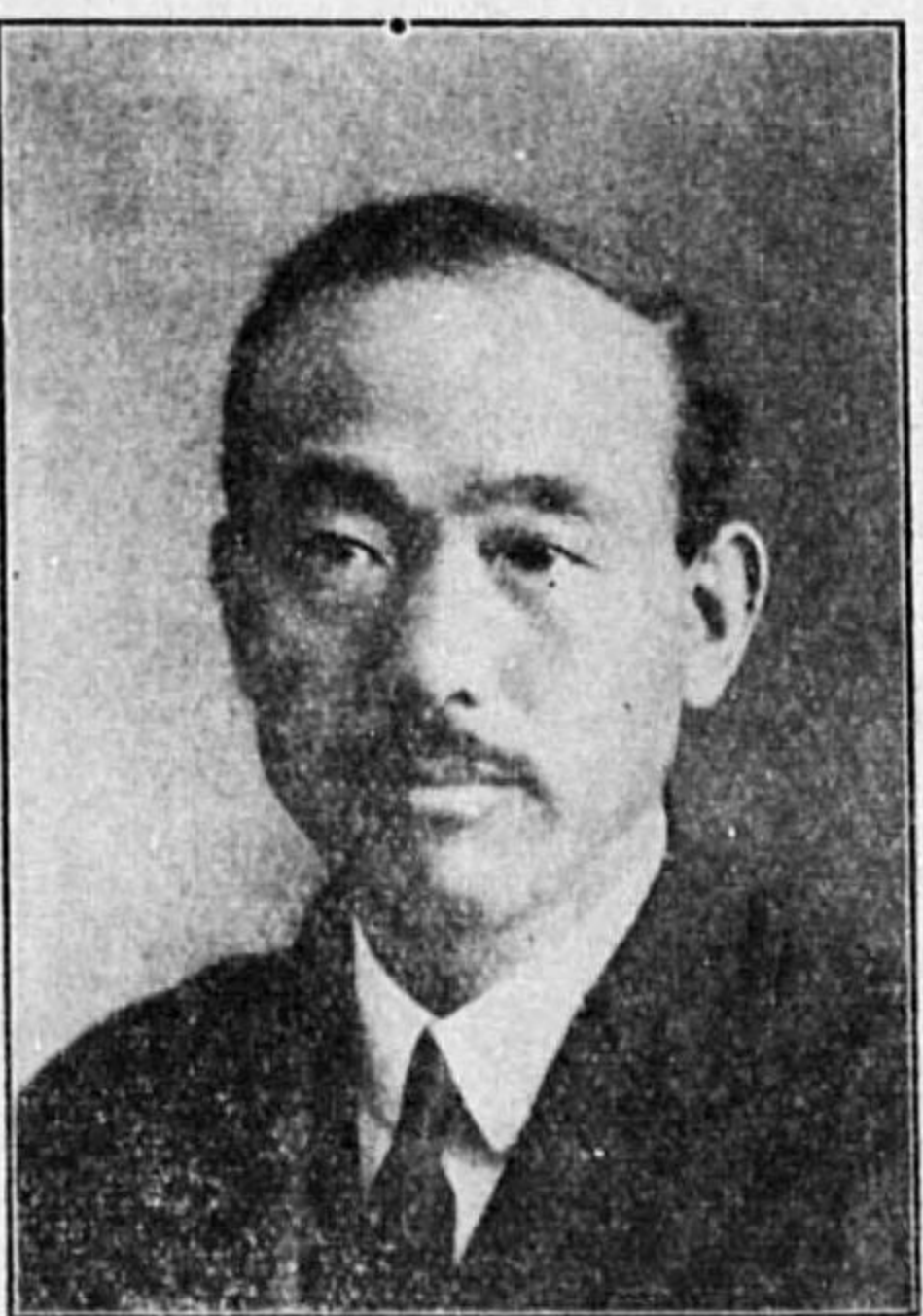
テ檢討シ、更ニ金元時代ノ詩歌小説詞曲ヲ通シテ、時代思潮ノ傾向ヲ探リツツアリシカ
略其大勢ヲ闡明スルコトヲ得タルヲ以テ、進テ明初ノ考察ヲ試ミ、洪武永樂ノ時代ニ國
家カ朱家ヲ文教ノ標準トナシ、更ニ儒教關係ノ典籍ニツキ大全ヲ撰定セシメシ事情ニ
及ヒ、コレカ明代ノ學風ニ如何ナル影響ヲ及ホセルカヲ研究セラレツツアリ。此等ノ
研究ノ一部ハ最近發表ノ豫定ナリ。

二三、東印度諸島蕃族文様ノ人類學的研究並出版

臺北市昭和町

金二千五百圓ノ補助

移川子之藏



「略傳」大正三年四月米國「シカゴ」大學ニテ「バチ
ラー・オブ・ヒロソフキー」ヲ得、三年九月「ハーバード」
大學大學院ニ入り、三ヶ年間人類學專攻、六年六月
「ドクトル・オブ・ヒロソフキー」ヲ受ケ、六年九月「ハー
バード」大學海外研究生トシテ東印度諸島ヲ視察
ス。八年四月慶大文科講師ニ、同年九月東京高等

商業學校講師ニ、次テ十年五月東京商科大學附屬商學專門部教授兼同大學豫科教授ニ
任セラレ、十五年三月臺北帝國大學創立準備在海外研究員トシテ歐洲諸國へ出張ヲ命
セラレ、昭和三年三月歸朝、四月臺北大學教授トナリ土俗人種學講座ヲ擔任ス。

「事業」移川氏ハ米國「ハーバード」大學ヨリ東印度諸島ニ派遣セラレテ文様ノ研究ニ
著手シ、以後引續キ本研究ヲ續ケテ多數ノ資料ヲ蒐集シタリ、依テ之ヲ整理シ、蕃族文様
ノ發達變遷ヲ述ヘテ各蕃族間ノ人種關係ヲ究明シ、大古、文字ナカリシ時代ノ研究ニ極
メテ必要ナル自然民族ノ文様ヲ列ヘテ、土俗人種學、考古學上ノ手掛ヲ提供センカ爲メ
之ヲ出版セントスルモノニシテ、本會ハ大正十五年三月之ヲ援助スルコトニ決シタリ。
其後氏ハ官命ヲ以テ歐洲へ出張ノ處、昭和三年三月歸朝セラレ其研究ヲ進メツツアリ。

二四、人類「ヴァイタミン」B缺乏症ノ研究

金七千五百圓ノ補助

神田區駿河臺鈴木町二三

責任者 脚氣病研究會幹事

醫學博士

稻

田

龍

吉



(一)

東京市外澁谷町大向道二四

出井淳三

東京府下田園調布三〇四

醫學博士 林春雄

東京市外澁谷町永住一四

醫學博士 佐藤恒丸

東京市外西大久保四三九

醫學博士 北島多一

研究者

醫學博士 稻田龍吉 (一)

東京市本郷區駒込千駄木町五〇

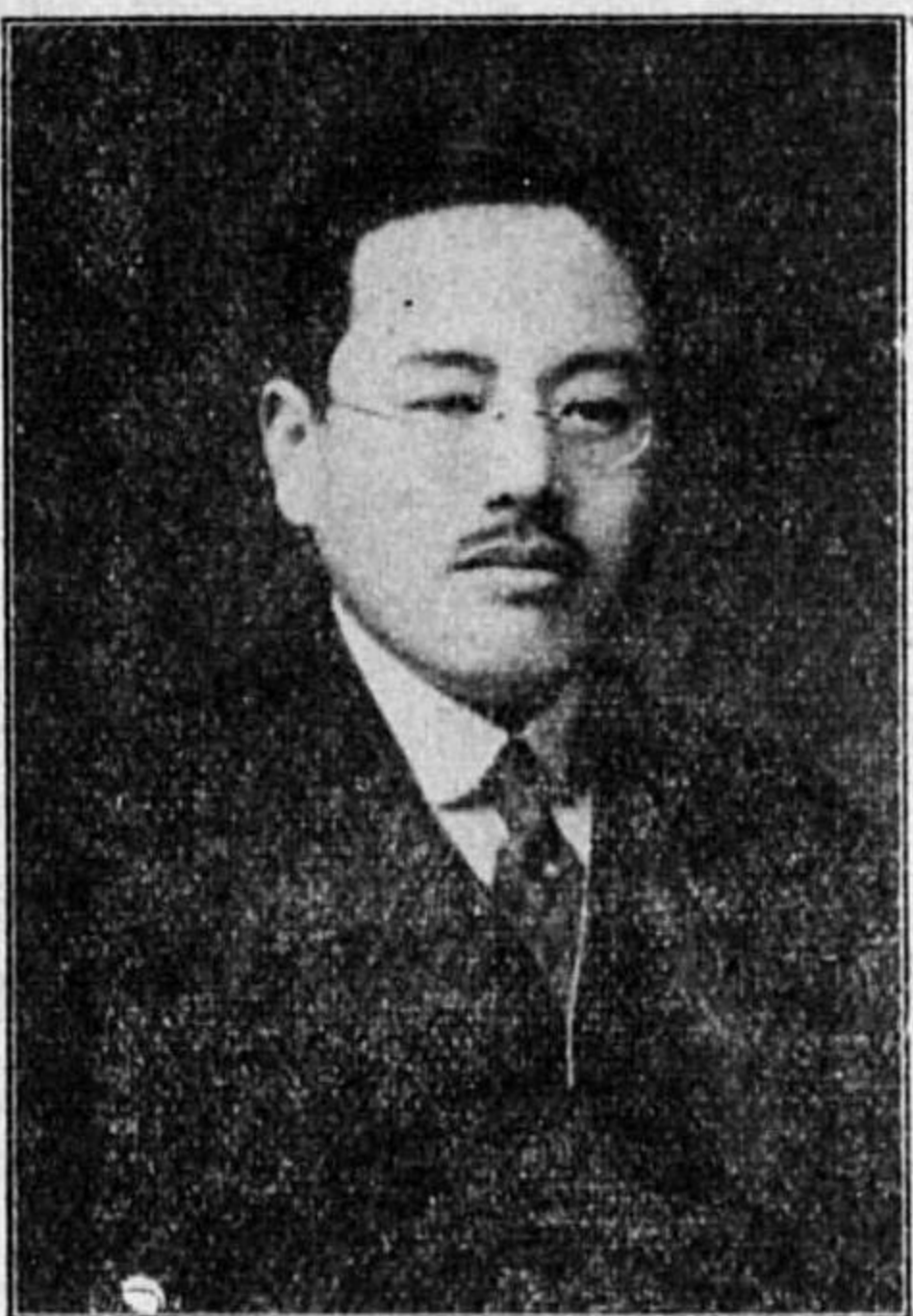
醫學博士 島蘭順次郎 (二)

東京市神田區駿河臺袋町一〇

醫學博士 吳建 (三)



(二)



(三)

仙臺市元柳町五七

醫學博士 加藤豊治郎 (四)

東京市四谷區坂町五一

醫學博士 大森憲太 (五)

〔略傳〕 稻田氏ハ明治七年五月名古屋ニ生マル。三十三年東京帝大醫學部卒業、三十五年内科研究ノ爲メ獨逸ニ留學、三十八年歸朝後、京都帝大、福岡醫大ノ教授ニ任セラレ、内科學講座ヲ擔任ス。大正十五年學士院ヨリ恩賜賞ヲ授與セラレ、七年東京帝大教授ニ轉任、十二年九州帝大名譽教授ノ名稱ヲ授ケラル。

〔略傳〕 島蘭氏ハ明治十年三月和歌山市ニ生ル。和歌山中學、第一高等學校ヲ經テ東京帝大醫科大



(四)



(五)

學ニ入學、三十七年十二月卒業、直ニ陸軍軍醫トシテ日露戰爭ニ參加ス。四十四年歐洲留學、大正二年十一月歸朝、岡山醫學專門學校教授ニ任セラレ、内科擔任、五年八月京都帝大教授ニ轉任、十五年東京帝大教授ニ轉任ス。

〔略傳〕 吳氏ハ明治十六年十月市内麴町區元園

町二ノ四ニ生ル。四十年東京帝大醫科大學卒業、大正八年十一月東京帝大醫科大學助教授ニ任セラレ、九年一月九州帝大教授ニ轉任、十四年五月東京帝大教授ニ轉任ス。

〔略傳〕 加藤氏ハ明治十五年七月三重縣津市ニ生ル。四十年東京帝大醫科大學卒業、直ニ同大學院ニ入ル。官命ニテ歐洲留學中大正四年七月東北帝大醫科大學教授ニ任セラレ、七年五月臨時脚氣病調查會臨時委員仰付ラル。

〔略傳〕 大森氏ハ明治二十二年熊本縣鹿本郡山鹿町ニ生ル。四十四年第七高等學校造士館ヨリ京都帝大醫科大學ニ入學、四年十二月卒業、九年四月慶應大學醫學部講師トナリ、傍脚氣原因ヲ研究ス。十一年十月助教トナリ、十五年同學附屬食養研究所主任ヲ兼任ス。

〔事業〕 脚氣病原因ノ研究ハ從來主トシテ動物實驗ニ因リシカ、大正十年以來人類ニ於テ之ヲ行フニ至リ、就中「**ヴァイタミン**」B缺乏症ノ實驗ハ本研究ノ進歩ヲ促シタリ。然レトモ今日迄ノ實驗ハ臨時脚氣病調查會ニ於テ三、四十人ノ人間ニ付テ行ハレシニ止リ、此ノ如キ少數ノ實驗ヲ以テ脚氣原因ヲ制定スルハ早計ニ失スルカ故ニ、引續キ此ノ方法ヲ以テ實驗ヲ繼續スルコトヲ必要トス。然ルニ臨時脚氣病調查會ハ已ニ廢止セラレタルニ付東京、京都、東北、九州、各帝大醫學部及赤十字病院、慶應大學醫學部等ノ研究者ヲ以テ新ニ脚氣病研究會ヲ組織シテ從事シ、大正十五年三月以來本會援助ノ下ニ之ヲ行フコトトナレリ。今後ノ研究目的ハ人類「**ヴァイタミン**」B缺乏症ヲ研究シ脚氣ヲ以テ直ニ「**ヴァイタミン**」B缺乏症トスヘキカ、或ハ此ノ兩者ハ共ニ榮養障害ニ基キテ來ル別

個ノ疾患ナルカヲ確メントスルニアリ。爾來前記ノ研究者ヲ始メトシテ多數ノ共同研究者ニ於テ、分擔ヲ定メ、或ハ「ヴァイタミン」B 缺乏症ト脚氣患者トノ關係ヲ調へ、夏冬季節ト脚氣トノ關係ヲ見ルナト、諸方面ヨリ本研究ヲ遂行シ、已ニ脚氣患者ニ於ケル基礎的新陳代謝及實驗的脚氣發生症ニ及ホス季節ノ影響ニ就テ等ヲ發表セラレタリ。

二五、琉球古典「おもろさうし」研究

三ヶ年間ニ金一千五百圓ノ補助

市内小石川區戸崎町一二

文學士 伊波普猷

「略傳」 明治九年二月琉球藩那覇ニ生ル。第三高等學校ヲ經テ、東大文科ニ入り、言語學ヲ修メ、三十九年卒業直ニ郷里ニ歸リテ郷土研究ニ従事ス。四十三年縣立沖繩圖書館ノ新設セララルヤ館長ニ就任、大正十二年十二月辭職十三年二月上旬「おもろさうし」研究ニ従事ス。



「事業」 伊波氏ハ明治四十三年來琉球ノ萬葉トモ云フヘキ「おもろさうし」ノ研究ニ従事シツツアリ。本書ハ古琉球ノ歌謠韻文ニシテ祭政、士俗、傳説等諸般ノ事項ヲ網羅シ、内容多種多様ニシテ表現純真素樸而モ頗ル難解ニシテ殆ント不可解ト稱セラル。氏ハ之ニ關スル文獻凡ソ五千冊ヲ蒐集シ、反覆涉獵ノ間漸次一道ノ光明ヲ認メ、日夜研鑽得ルニ從ヒ傍註訓詁シ、章篇漸ク十ノ八ヲ成セリ。先年帝國學士院贊助ノ下ニ「おもろさうし」校訂本ヲ出版セリ。而シテ大正十五年三月以來本會援助ノ下ニ既成ノ稿本ニ對シ註釋ヲ爲スコトヲ企テ、爲メニ必要ニ應シ實地琉球諸島ヲ遍歴シ、目下註釋本ノ完成ニ努力セラレツツアリ。已ニ第十六卷迄ノ註釋ヲ完了セラレタリ。

二六、「アコニチン」類ノ化學的構造ニ關スル研究 「略傳」及「肖像」前出

二ヶ年間ニ金二千圓ノ補助

理學博士 眞島利行

「事業」 眞島氏ハ先年本會援助ノ下ニ烏頭屬植物中ノ「アルカロイド」ノ研究ニ従事シ本邦主要産地ニ於ケル右植物中ノ「アルカロイド」ノ比較研究ヲ遂ケ、其成績ヲ發表セラレタリ。依テ更ニ其「アルカロイド」中ナル「アコニチン」ノ化學的構造ヲ究明シテ本研

究ヲ完結センコトヲ企圖セラレ、大正十五年七月ヨリ本會援助ノ下ニ遂行セラルルコトトナリ、目下折角研究中ナリ。

二七、鎌倉室町時代ノ儒教研究

二ヶ年間金二千圓ノ補助

故 足 利 衍 述

〔略傳〕 明治十一年八月愛媛縣東宇和郡宇和町ニ生ル。東洋大學漢學專修科卒業三十五年ヨリ三十二年東洋大學漢文教授ヲ擔任シ、大正十一年ヨリ明治大學豫科漢文教授擔任、昭和二年ヨリ日本大學ニ日本漢學史ヲ講ス、五年十二月病歿セラル。



〔事業〕 鎌倉室町時代ハ所謂思想暗黒ノ時代ナリ、殊ニ儒教ハ衰微期ニ屬スルヲ以テ狀勢殊ニ明ナラス、從テ之カ研究ハ容易ノ業ニアラス、從來漢學紀源ノ著作アルモ杜撰ヲ免レス。足利氏之ヲ遺憾トシ、同時代ノ正史物

語ノ類ヲ始メ、當時ノ文教支持者タリシ禪僧ノ語錄、詩文集、講抄、日記、及ヒ公卿ノ日記、講抄等ヨリ零細ナル材料ヲ蒐集シテ、大正十年其第一稿ヲ終レリ。然ルニ同時代ノ著書ニハ寫本多ク、且ツ各府縣ノ寺院文庫等ニ散財シ、探訪甚タ困難ナリ。大正十五年七月以來本會ノ補助ニ依リ之カ完全ヲ企圖セラレ、既ニ東京、京都、大阪、埼玉、茨城、神奈川、山形、三重、滋賀各縣下ノ寺院及文庫ヲ訪ヒテ新資料ヲ得テ舊稿ヲ補正シ、從來最モ簡略且不明ナリシ諸侯ノ興學即チ武家ト儒教トノ關係及清原、菅原、二博士ノ學問、足利學校ノ學風ヲ調査シ、又儒教ノ社會ニ及ホセル影響ノ一トシテ物語類ニ現レタル儒教思想ヲ窺ハント欲シ、其代表書ナル大平記及室町時代ノ古抄物等ヲ研究鈔錄シ、尙訓點ノ沿革ヲ調査中ノ處昭和五年五月病歿セラレシハ遺憾ニ耐ヘス目下遺族ニヨリ殘務整理中ナリ。

二八、佛教大辭典編纂

三ヶ年間ニ金六千圓ノ補助

市内小石川區林町二六

文學博士 望 月 信 亨

〔略傳〕 明治二年九月福井縣今立郡國高村字村國松原新六兵衛ノ五男ニ生ル。後神戸市望月有成ノ養嗣子トナラル。明治十九年京都知恩院大學校ニ入り、二十一年東京



大乘起信論之研究等アリ。

浄土宗學本校(宗教大學ノ前身)ニ入學二十八年卒業。尋テ佛教研究ノ爲メ比叡山等ニ遊學シ、三十二年浄土宗學本校教授トナリ、大正三年宗教大學々長ニ任セラレ、十三年文學博士ノ學位ヲ受ケ、後ニ大正大學々部長タリ。又明治四十四年ヨリ大正二年マテ浄土宗執綱タリ。著書ニ佛教大辭典已刊三卷、佛教大年表、法然上人全集、浄土教ノ研究

「事業」 本事業ハ望月氏カ明治四十年以來經營セラレシ所ニシテ、主トシテ佛教研究者ノ便ヲ圖ラントスルニ在リ。四十二年三月以後佛教大辭典分本三冊(九百九十二頁四六倍判、六號組)並ニ佛教大年表一冊(六百餘頁、四六倍判、六號組)ヲ編纂刊行セラレタリ。然ルニ發行者タル書肆カ多額ノ費用ト多數ノ歲月トヲ要スル該編纂ヲ支持スルニ堪ヘス、其後中止ノ已ムナキ狀況ニ陥リ、加フルニ大正十二年九月ノ大震災ニ依リ、既刊分

ノ紙型並ニ刷本等悉皆烏有ニ歸シ、遂ニ絶望ニ瀕ス。仍テ之ヲ繼續編纂センカ爲ニ大正十五年七月以降本會ニ於テ其經費ヲ補助スルコトトセリ。本編纂ハ佛教經典及ヒ論釋紀傳中ノ術語、梵語ヲ始メ、佛名、神名、人名、地名、寺名、書名、圖像、器具等ニ至ルマテ、アラユル語類ヲ網羅シテ、之ニ最モ正確ナル解釋ヲ施シ、一々其出典ヲ示スノミナラス、佛名、神名等ニシテ苟クモ圖像アルモノハ、悉ク之ヲ挿畫シテ專ラ學者ノ研鑽ニ資センコトヲ期セリ。目下十數名ノ補助員ヲ督シ、銳意編纂中ニテ、已ニ約二千頁ヲ脱稿シ、其第一卷ハ近々發行スヘシ。

二九、「日本ニ於ケル造林ノ起源及發達」ノ編纂

二ケ年間ニ金二千圓ノ補助

市外代々幡町幡ヶ谷八

遠藤安太郎

「略傳」 明治五年富山縣ニ生レ、石川縣ニ人トナリ、夙ニ北海道ニ移住ス。初メ東京同人社等ニ學ヒ、後農大本多博士指導ノ下ニ造林學、林政學ヲ修ム。二十九年職ヲ御料局ニ奉シ、次テ德島、山梨、石川ノ諸縣ニ歷任シ、大正三年、朝鮮貴族團ノ招聘ヲ享ケ、其ノ技師長トナリ、九年農林省囑託ヲ命セラレ、林政沿革調査等ニ從事シ今日ニ及フ。著書ニ林

業論纂、山茶菜篇、石川縣山林誌等アリ



ルニ至レリ。此等ノ森林ヲ造成シ更新スルニハ吾國ト氣候、風土、樹種ノ同一ナラサル
 歐米ノ方式ヲ直ニ適用シ難キニ拘ハラズ、從來專ラ外國法ニ則リテ實施シ吾國固有ノ
 經驗ヲ閑却シタル傾アリ。而モ吾國ノ造林ハ宏遠ノ古ニ創メラレ爾來幾多ノ歲月ヲ
 重ネ、明治時代ニ至リ、少クモ千有餘年ノ經驗ヲ積ミタルヲ以テ、吾國固有法ノ存セサル
 ノ理ナシ。遠藤氏此點ニ著眼シ、久シキ以前ヨリ獨力之カ研鑽ニ著手セラレタルモ、不
 幸大正十二年ノ大震火災ニ其資料ノ大半ヲ焼失シタリ。依テ十五年七月以來本會ノ
 援助ノ下ニ更ニ不足セル資料ノ蒐集ヲナシ之ニ基キテ其ノ研究成績ヲ編纂スルノ計

「事業」吾國ノ國情ハ歐米諸邦ニ比シ用材、燃料
 等ノ林產物ヲ需要スルコト多大ニシテ、割合廣汎
 ノ供用林ヲ常備セサルヘカラス。一面地勢其ノ
 他ノ關係上保安林ノ存置ヲ必要トシ、就中農業灌
 溉用水、工業動力用水等ノ爲メ特種林ヲモ強要ス

畫ヲ立テラレ、既ニ幕領(甲府外五ヶ所私領、德島外二十一藩)ノ舊記類ヲ抄出シテ資料ヲ
 蒐メ、之ヲ整理シ、今ヤ此等ヲ基礎トシテ研究報告執筆中ナリ。

三〇、蟾蜍毒ノ化學的研究

三ヶ年間ニ金三千圓ノ補助

市内小石川區林町六四

理學博士 小 竹 無 二 雄



東京高等商船學校化學講師ヲ囑託セララル。

「略傳」明治二十七年十一月富山市總曲輪ニ生
 ル。第七高等學校ヲ經テ、大正九年七月東北帝大
 理學部化學科卒業。同時ニ財團法人理化學研究
 所研究生トナリ、十一年七月同所助手ニ任セララル。
 十二年五月文部省在外研究員トナリ、英、米、獨國ニ
 留學シ、十四年十月歸朝、十四年十一月同所助手ヲ
 免セラレ、生化學ニ關スル研究ヲ囑託セラレ、同月

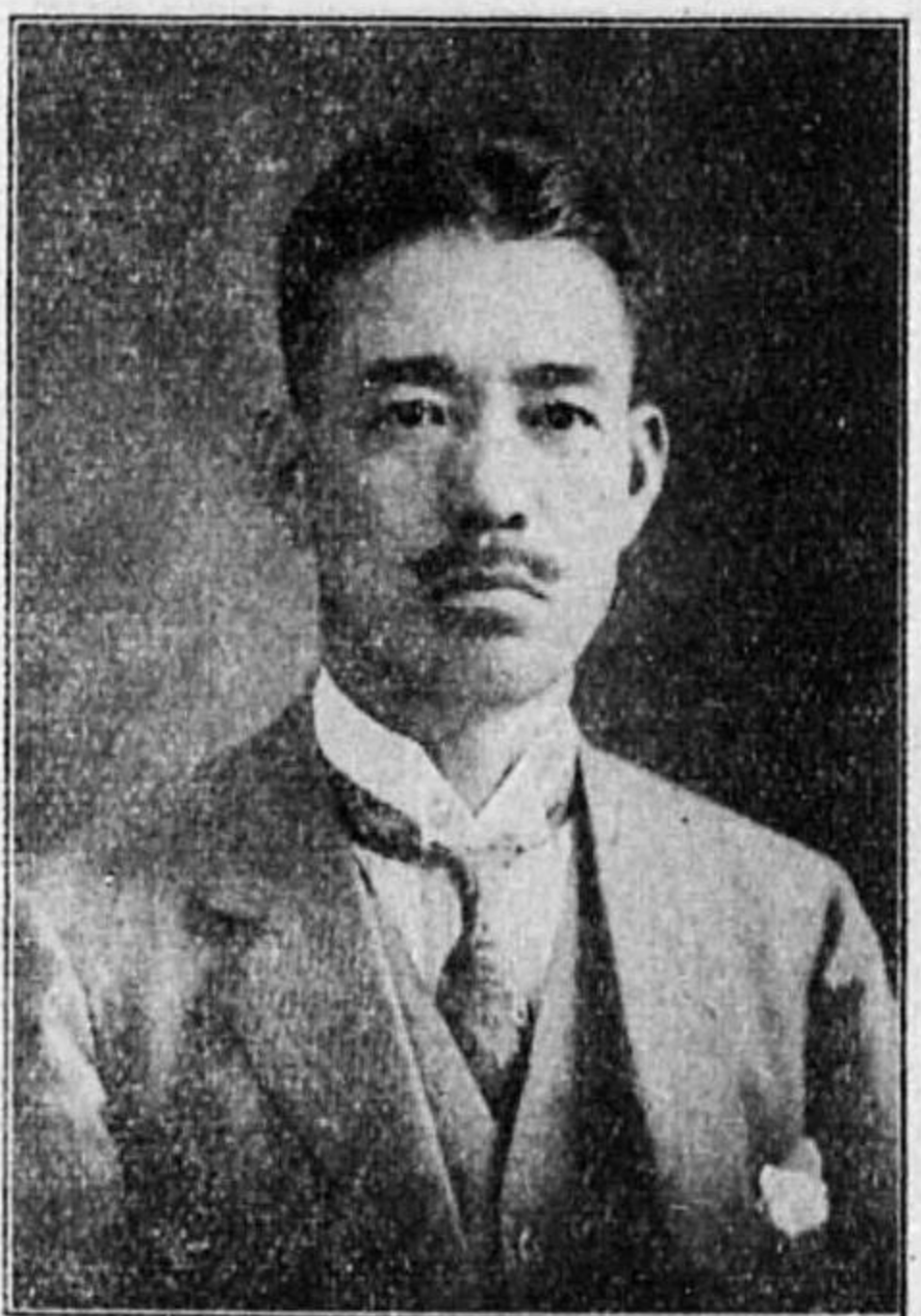
「事業」 蟾蜍毒ハ古來強心劑トシテ使用セラレ或ハ切傷其他ニ用ユ、然レトモ其毒素ヲ科學的ニ研究スルニ至レルハ千九百二年ヲ始メトス。千九百十四年獨逸學者ハ其化學構造ノ研究ヲ始メ今尙續行シツツアリ。然レトモ獨逸產ノ蟾蜍ハ毒素含有量僅少ニシテ研究ニ不便ナルニ反シ、本邦產ノモノハ毒作用強烈ニシテ最モ本研究ニ適當ス。小竹氏ハ大正十五年十月以來本會援助ノ下ニ本研究ニ從事シ、既ニ「蟾」ノ有毒成分ノ化學的研究(蟾酥毒ニ就テ)ヲ發表セラレ、又埼玉縣下ヨリ約一萬匹ノ蟾ヲ採集シテ、其皮膚ノ酒精性「エキス」ヨリ二種ノ有毒物ヲ抽出シ、ソノ結晶トシテ得タルモノニ「ア、ブ」オリント名ケ、其ノ化學的性狀ヲ検査シ、四五ノ誘導體ヲ作り、更ニ非晶質部ヨリ鹽酸ニヨリテ結晶トナル物質ヲ發見シ、之ニ「イ、ブ」アリント名ケ、此ノ物質ノ二三ノ誘導體ヲ製作シ、日本產蟾ノ有毒成分ニ就テ及「日本產蟾」ノ分泌物ノ有毒成分に就きて「ヲ」發表セラレタリ。昭和三年十月右研究ノ一部ニ依リ學位ヲ受ケラレ、一層深ク研究中ナリ。

三一、最近支那ニ於ケル思想上ノ傾向ノ研究

金五千圓ノ補助

本郷區駒込西片町一〇にノ四四

法學士 笹川 潔



「略傳」 明治五年十一月神田區末廣町ニ生ル。

第三高等中學校ヲ經テ、明治三十一年東京帝大法科大學政治科卒業。三十九年ヨリ大正五年迄讀賣新聞主筆、同年米國ヲ漫遊セラレ翌年歸朝、七年ヨリ十三年迄支那漢口、漢字新聞「湖廣新報」社長ニ就任セラレタリ。其間大正十一年支那湖北督軍公署法律顧問ニ推薦セラレ。

「事業」 支那廣東ノ國民政府カ武昌ニ進出シテ以來、國民主義及反國際資本主義ノ風

潮露骨トナリ、其結果トシテ、排英運動ヲ勃發シ、治外法權ノ撤廢、居留民ノ回收等複雑ナル事件ヲ惹起シタリ。此事態ヲ容易ナラサル重大問題ト認メ、笹川氏ハ其真相ヲ調査シ、更ニ遡リテ支那ノ思想問題ヲ研究シ、其政治上及社會上ニ於ケル影響特ニ其ノ日本ニ迨ホス關係ヲ考察センコトヲ希望セラレ、本會亦其必要ヲ認メ、昭和二年三月以來氏ノ本事業ヲ援助スルコトニ決シ、氏ハ同年四月渡支セラレ、約半歲ニ亘リテ南船北馬具

ニ時局ノ實相眞因ヲ究メテ歸朝セラレタリ 依テ同年九月本會主催ノ講演會ニ於テ「支那最近ノ政情」ト題シテ調査報告ヲ發表セラレ、講演筆記ハ之ヲ整理シテ數千部ヲ出版シ、廣ク諸方面ニ配布シタリ。尙氏ハ本研究ノ完成ヲ期シ昭和三年春再ヒ渡支セラレ目下報告書ノ執筆中ニテ近々印刷發行セラルヘシ。

三二、人間ノ個性及能率等ニ關スル研究

東京市外下落合目白第二文化村第一號

金四千五百圓ノ補助

醫學士 高峰 博



〔略傳〕 明治二十四年四月大阪市東區淡路町ニ生ル。第四高等學校ヲ經テ大正六年十二月東京帝大醫學部卒業。續テ大學院ニ入り、精神神經科乃至實驗心理學ヲ專攻スルコト五ヶ年、其間大學病院助手、或ハ東京市電氣局、社會局、及同潤啓成社ノ囑託トナリテ、勞働心理、能率増進法、少年個性診査法、及不具廢疾者ノ能率ヲ研究シテ今日ニ至レ

リ、目下東京市電氣局青山診療所長タリ。

〔事業〕 人間ノ個性、能率等ヲ的確ニ測定スル尺度ヲ見出スコトハ、文化ノ開發上基礎的ナル重大事業ナリ。世間ノ所謂「メンタルテスト」ハ實地應用ノ結果ニ徴スルニ不十分ノ點少カラス、高峰氏ハ大學ニテ精神科ヲ專攻セラレ、多年東京市囑託トシテ實驗心理、勞働心理、能率増進法等ノ研究ニ從事セラレ、更ニ自宅ニ個性能率研究所ヲ設ケテ著々歩ヲ進メツツアリ。然ルニ其研究ヲ徹底大成スルニハ一層廣ク男女ニ付テ實驗スルト同時ニ老幼一般ニ亘リテ觀察スルヲ要ス。本會ハ氏ノ熱心ト力倆ヲ認メ昭和二年七月以來氏ヲ援助シテ本事業ノ達成ヲ期スルコトトシタリ。而シテ其後能率研究ノ成績ヲ全國各地ニ實地應用シ、又「メンタルテスト」用紙ノ使用法及其標準ヲ發表セラレ、之ヲ全國各市町村ノ小學校ニ實地ニ活用シ約二萬五千ノ兒童ヲ考査セラレ、尙成年男女ノ身體發育ノ經過ト其ノ體格標準ノ研究ヲ進メ、性能考査ノ研究〔第四乃至第六及「精神能力ノ研究」ヲ發表セラル。

三三、組織鐵學說ノ完成及其應用研究

金六千圓ノ補助

名古屋市東區七小町四

醫學博士 勝 沼 精 藏



〔略傳〕 明治十九年八月神戸市ニ生ル。第一高等學校ヲ經テ、明治四十四年東京帝大醫學部卒業直ニ三浦内科教室、病理學教室ニ於テ内科學ヲ專攻シ、大正八年愛知醫科大學ニ教授トナリ、九年學位ヲ受ケラル、其間歐米ニ出張スルコト二回、大正十五年帝國學士院賞ヲ受ケラル。

〔事業〕 勝沼氏ハ大正元年以來組織機能ノ細胞學的研究ヲ企テ、生體酸化ノ知見ニ幾多ノ新事實ヲ提供シ、内外二十四篇ノ論文ヲ發表シ、別記ノ通り學士院賞ヲ受ケラレタルカ、其際組織内ニ原形質顆粒ト結合シテ或種ノ鐵化合物ノ存在及分布ヲ新ニ證明シ、之ニ組織鐵ト命名セラレタリ。而シテ赤血球中ノヘモグロビンヨリ由來セル鐵沈著ト全ク別ニ、酸化ノ機能ヲ有スル鐵化合物カ組織自己ニモ儼存シ、血中ニ於ケル血色素

含有細胞ト相俟ツテ、生體酸化ヲ進捗セシムルモノナラントノ想定ノ下ニ、多數ノ材料ト廣汎ナル諸方面物理化學的、組織學的、化學的及物理學的ヨリ之カ完成ニ努力セララル。依テ更ニ進ンテ此ノ組織鐵カ病的狀態ニ於テハ如何ニナリ行クヤノ運命、斯ノ如キ場合ニ對スル治療方針竝ニ鐵ニ代リテ得ヘキ物質ノ探求ニ向ツテ研究ノ歩武ヲ進メンコトヲ企圖シ、之ニ對シ昭和二年七月以來本會ハ其ノ經費ノ援助ヲ爲スコトトシ、爾來折角研究中ナリ

三四、印度敘事詩「マハーバーラタ」ノ國譯

東京府下駒澤町字深澤三四二五

金五千圓ノ補助

山 上 曹 源

〔略傳〕 明治十一年佐賀縣藤津郡能古見村ニ生マル。三十九年七月曹洞宗大學卒業。同年九月印度甲谷大學大學院ニ入り印度文學、印度宗教哲學及梵語ヲ研究シ、四十三年九月甲谷大學 Readerニ任セラル。大正三年九月曹洞宗大學、現在ノ駒澤大學教授トナリ、梵語、印度宗教及佛教文學ヲ教授セラレ今日ニ至ル。大正九年以後同大學學監ヲ兼ねラレシカ昭和三年以來教授專任トナリ、標記ノ事業ニ努力セララル。



準備ヲ進メツツアリシカ、昭和二年七月以來本會援助ノ下ニ本事業ノ大成ヲ期セラルルコトトナリ、補助員トシテ梵語研究者文學士末永眞海氏等之ニ加リ、爾來着々事業ヲ進メラレ、既ニ序篇及ヒ第三卷ノ國譯ヲ了ヘ、目下第二卷ト第四卷ノ翻譯ニ努力セラレツツアリ。

三五、 澳門等ニ於ケル史料蒐集及遺蹟調査

金三千圓ノ補助

東京府下澁谷町櫻ヶ丘七八

文學博士 黑板勝美



ラル。

〔略傳〕 明治七年九月長崎縣東波杆郡下波佐見村ニ生ル。第五高等學校ヲ經テ二十九年三月東京帝大文學部卒業。直ニ史料編纂係ニ任セラル。後同大學助教授ニ進ミ、大正六年史料編纂長トナリシカ翌年之ヲ辭シ、爾後専ラ教授トシテ今日ニ及フ。其間朝鮮半島史編纂顧問及内務省天然記念物保存會委員、文部省古社寺保存會委員ヲ兼ね

〔事業〕 我カ山田長政等ノ史話ハ人口ニ膾炙スル所ナルカ、其等ニ關スル史蹟及我カ御朱印船活動時代ニ於テ邦人ノ渡航セシ地方即チ澳門、河内、ツーラシ、アンコル、トム、パシコック、アイチャ、パタビヤ等ニ於ケル遺蹟ヲ踏査シ、河内ノ佛國東洋學院ノ史料、パタビヤ和蘭政廳ノ文書ヲ研究スル事ハ洵ニ必要ニシテ極テ有益ノ事ナリ。黑板氏ハ先般官命ヲ帶ヒテ歐米ニ出張ノ途次、豫テ著手セラレシ上記ノ遺蹟踏査及史料蒐集ヲナ

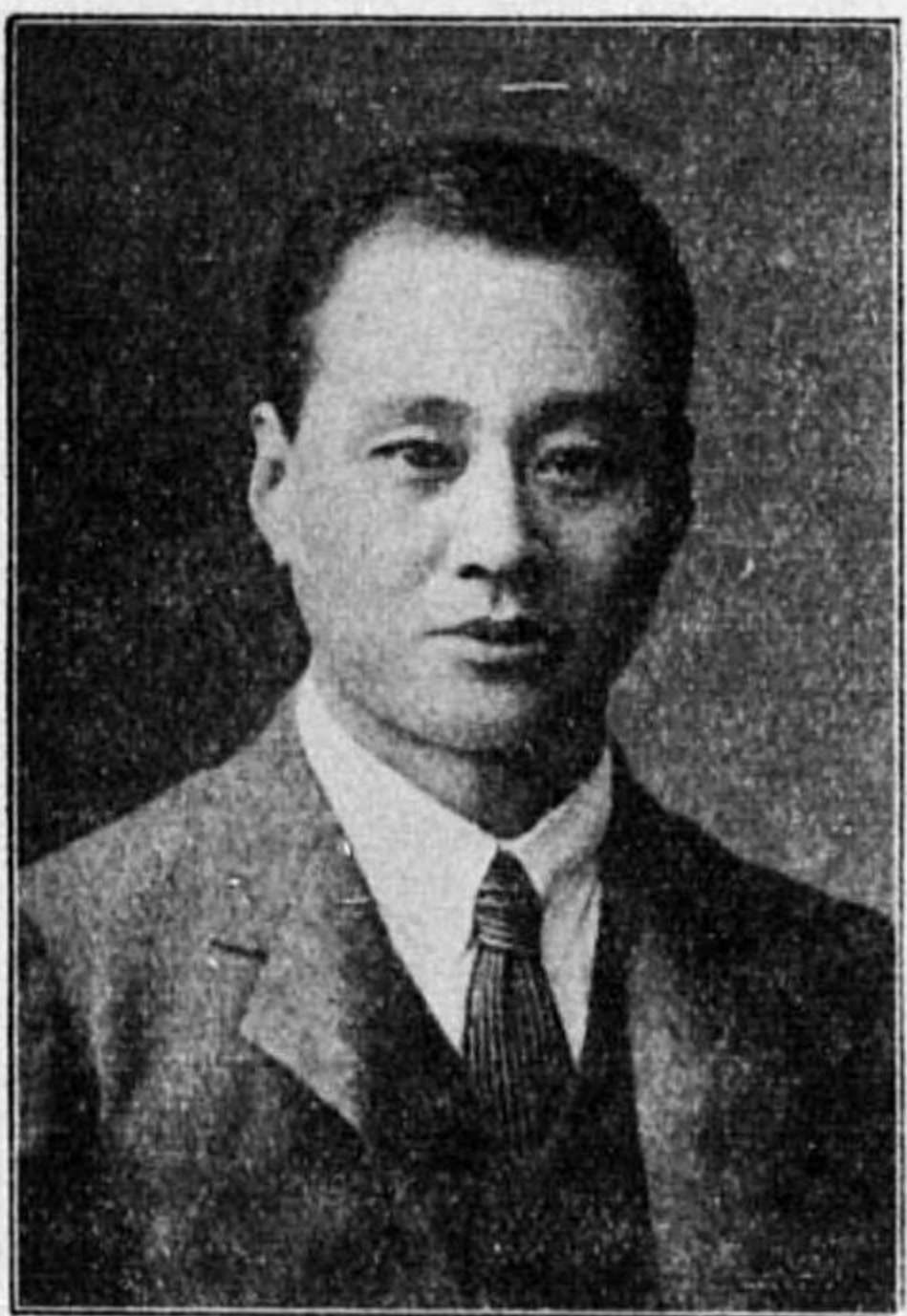
シ、國史研究ノ一新方面ヲ開拓セント企圖セラレ、昭和二年七月本會ニ於テ之ヲ援助スルコトニ決シ、同八月出帆、本事業ヲ遂行セラレ、歐米視察中ノ處翌年春歸朝セラレタリ。依テ同年六月本會主催ノ講演會ニ於テ、南洋に於ける日本關係史料遺蹟に就きてト題シテ調査報告ヲ發表セラレ、目下氏ハ本調査報告書ノ執筆中ナリ。

三六、肺結核レントゲン像ノ病理解剖學的研究

麴町區内幸町一ノ三

金二千三百五十圓ノ補助

醫學博士 藤 浪 剛 一



〔略傳〕 明治十四年七月名古屋ニ生マル。四十年岡山醫學專門學校卒業。傳染病研究所ニ入り四十二年春維納ニ留學、レントゲン學ヲ專攻シ四十五年一月歸朝、同四月順天堂病院ニ入り、レントゲン科ヲ創設ス、大正四年學位ヲ受ケ、同九年慶應義塾醫科大學教授トナリ、十三年東京市立療養所囑託ニ就任、今日ニ及フ。

〔事業〕 肺結核ノ診斷ニ際シ、レントゲン寫眞ヲ撮ル場合、寫眞ノ解釋ヲ爲スニハ、影像ト病變トノ關係ヲ明瞭ナラシメ置クコトヲ要ス、之カ爲メニハ屍ノ病理解剖學的研究ヲ必要トスルモノナルカ、獨逸ノ學者中之ニ著手セルモノアレトモ未タ完全セス、我國ノ問題トシテハ、我國ノ肺結核患者ニ付テ研究セサレハ、我國ノ肺結核ノ特性性ヲ明ニスルコトヲ得ス、然ルニ我國學者中ニ此種ノ研究ヲ企圖セルヲ聞カス。藤浪氏之ヲ遺憾トシ同氏關係ノ東京市療養所ノ涌谷重治、岡治道、黒丸五郎三氏ト協力シテ、標記ノ研究ヲ企テラレ、昭和二年十二月以來本會援助ノ下ニ、ウツド氏合金其他ノ造影劑ヲ使用シ肺ノ構造等各自専門ノ方面ヲ分擔シテ研究ヲ進メラレツツアリ。

三七、朝鮮陶器ノ研究

金三千圓ノ補助

東京市麴町區下二番町七〇

倉 橋 藤 治 郎

朝鮮京城漢芹洞六五

淺 川 伯 教

一一一

朝鮮京畿道高陽郡仁面清涼里

淺川 巧

京都市上京區吉田神樂岡三

柳 宗 悅



コークス製造所ニ技師タリシカ、大正五年農商務省海外實業練習生トシテ渡米、八年歸朝後岩城硝子製造所、東京切子硝子會社ニ取締役タリ。任期滿了後、寶山玻璃廠監査役、社團法人工政會常務理事、中央大學講師等トシテ今日ニ及フ。

〔事業〕 朝鮮陶磁器ハ古來世界ノ工藝界ニ獨自ノ立場ヲ有ス。殊ニ高麗朝ヨリ李朝初期ノモノハ實ニ東洋趣味ノ極致トモ稱スヘシ。而シテ本邦ノ陶磁器ハ支那ニ學フ所大ナリト雖モ、亦朝鮮ノ影響ヲ受ケシコト甚シク、殊ニ西部日本各地ノ陶業ハ其流ヲ

汲ムモノ多シ、然ルニ今日迄内外人ニシテ之カ研究ヲナシタルモノアルヲ聞カス。倉橋氏等ハ本研究カ當ニ朝鮮文明竝ニ日鮮工藝關係ノ研究トシテ頗ル重大ナルノミナラス、將來大ニ發達ノ見込アル朝鮮陶磁器業ノ參考トシテモ大ニ有益ナルヲ信シ、已ニ大口面ノ高麗青磁窯、鷄籠山ノ三島手窯等ヲ探究セラレ、昭和三年四月以來本會援助ノ下ニ本研究ヲ進メラルルコトトナレリ、依ツテ更ニ數ヶ所ノ古窯跡ヲ調査シ、尙之ト密接ノ關係アル日本西部ノ古陶窯跡ヲモ調査セラレ、目下研究成績ノ整理中ナリ。

三八、英國博物館所藏支那古寫本ノ寫真帖出版

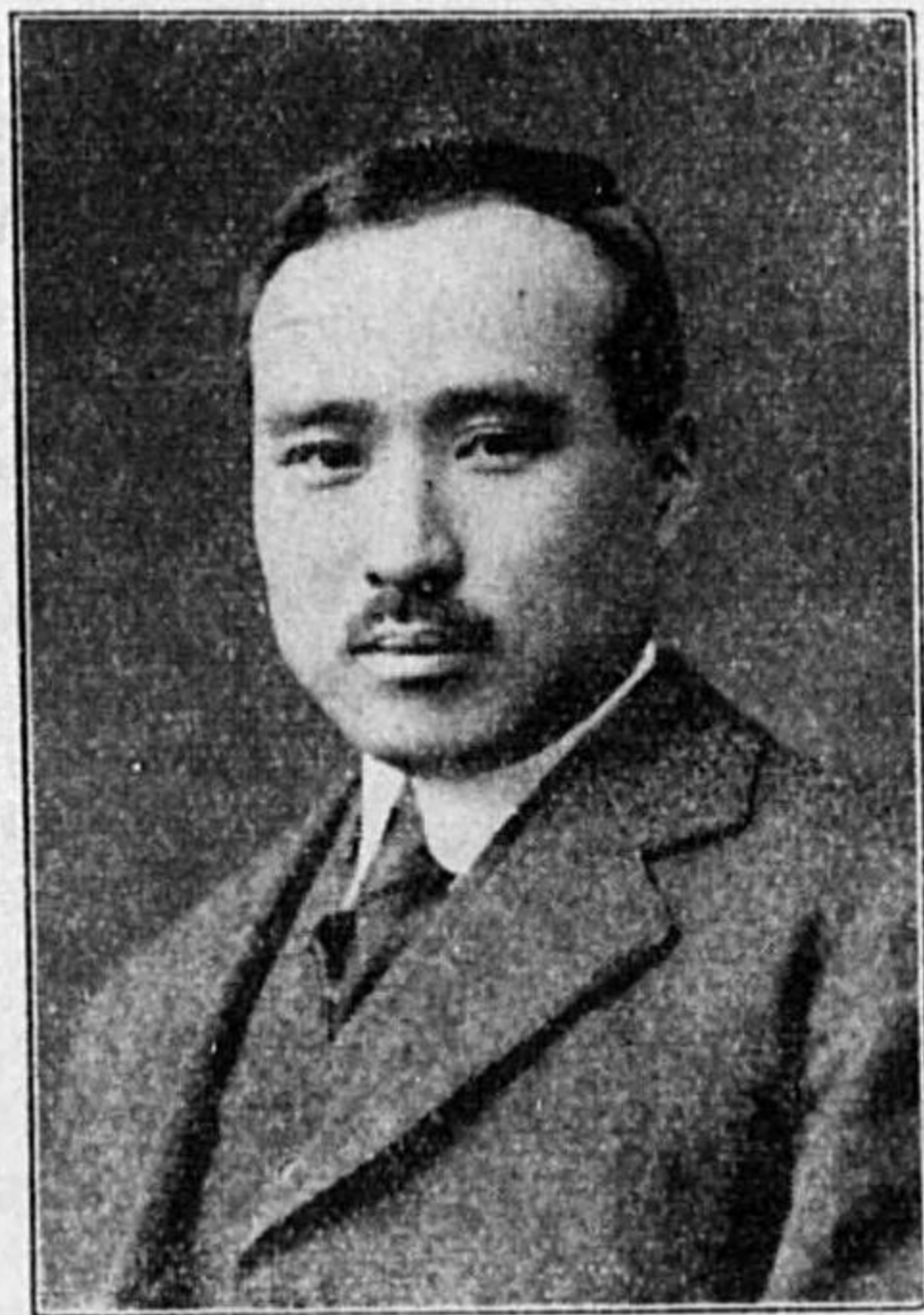
東京市外瀧野川町三六五

金二千七百圓ノ補助

文學博士 矢 吹 慶 輝

〔略傳〕 矢吹氏ハ明治十二年二月福島縣信夫郡飯坂町ニ生ル。三十五年淨土宗高等學院卒業、後第一高等學校ヲ經テ四十二年東大文科大學哲學科ヲ卒業、大正二年歐米ニ留學セラレ六年歸朝セラル、其間主トシテ英、露、佛ニ於テ西域發掘品ヲ視察調査セラル。大正八年以來本會援助ニ依リ其ノ研究ヲ進メラレ、之カ爲メ十一年再ヒ渡英セラレ、其成績一部ニ對シ恩賜賞及學位ヲ受ケラル。其後一時東京市社會局長タラレシカ、目下

大正大學教授等、専ら研究及教育方面ニ盡力セラレツツアリ



「事業」 矢吹氏ハ別記ノ通り、先年本會援助ノ下ニ英國博物館所藏支那古寫本ヲ六千葉ノ白寫眞ニ撮影將來シ、其一部ヲ資料トシテ「三階教ノ研究」ヲ發表セラレタリ。而シテ右寫眞六千葉ノ大部

分ハ活字ヲ以テ高楠氏編纂「大藏經」中ニ收メラルル計畫ナルモ活字ヲ以テシテハ正確ヲ期シ難キト共ニ原本ノ實感ヲ傳フル能ハス。然ルニ右白寫眞ハ年ヲ經ルニ從ヒ變色ノ憂アリ、未タ甚シク褐色セサル中ニ其代表的ノ大部分丈ニテモ「コロタイプ」版ニ附シ、永久ニ原本ノ面影ヲ止メ、且ツ之カ詳細ナル解説書ヲ添付センコトヲ企圖セラレタリ。是レ即チ本事業ニシテ、本會其ノ經費ヲ補助シ、昭和三年四月以來進行中ノ處昭和五年十月稿成リ「鳴沙餘韻」トシテ出版サレ同上解説ハ目下執筆中ナリ。

三九、日本藻類圖譜出版繼續

金四千圓ノ補助

東京市小石川區高田豐川町四二

理學博士 岡村金太郎



長ニ進ミ今日ニ及フ、此間東京高等師範、北海道大學附屬水産専門部ノ講師ヲ囑託セラレ、現ニ東大農學部ノ講師タリ、著書ニ「海藻學汎論」水産一夕話、日本海藻圖說、日本藻類名彙、淺草海苔等ノ外日本藻類圖譜アリ。

「事業」 別記ノ通り大正九年七月以來本會ニ於テ助成シタル岡村氏ノ日本藻類圖譜

ハ計畫通り第四卷第五冊以下第五卷第十冊迄計十六冊ノ著作ハ完成シ已ニ出版済トナレリ。即チ最初ノ計畫ハ完結シタルモ尙圖説スヘキ日本藻類ノ殘レルモノ幾多存ス、岡村氏之ヲ遺憾トシ本會ニ其經費ノ繼續援助ヲ求メラレ、本會之カ必要ヲ認メ昭和三年四月以來補助ヲ追加スルコトニ決シ、第六卷十冊迄繼續出版スルコトトナリ、已ニ第六卷第一輯乃至四輯ヲ出版セリ。

四〇、委任統治南洋群島民人類學研究

仙臺市北六番町一二三

金二千圓ノ補助

醫學博士 長谷部 言 人



〔略傳〕 明治十五年六月東京市京橋區明石町ニ生マル 三十九年十二月東京帝大醫科大學卒業。四十一年五月京都帝大醫科大學ノ助手ヨリ助教授ニ進ミ翌年清、韓兩國へ出張。大正二年新潟醫學專門學校ノ教授トナリ。三年九月學位ヲ受ケラル。四年東京帝大醫科ニ副手トシテ轉シ、三月

南洋マーシャル群島、カロリン及マリアナ群島へ出張。五年三月東北帝大醫科ノ助教授トナリ、九年教授ニ進ミ今日ニ至ル。十年四月人類學研究ノ爲メ歐洲ニ出張一年ニシテ歸朝。

〔事業〕 長谷部氏ハ昭和二年夏南洋應ノ囑託ヲ受ケ標記調査ノ一部ヲ行ヒ、昭和三、四年ニモ之ヲ續行スル豫定トナリ居リシモ、同囑託ノ調査ハ人類學研究ノ僅ニ一部ニ過キス。同氏ハ此機會ニ於テ標記ノ研究ヲナサント欲シ、昭和三年七月以來本會援助ノ下ニ之ニ著手シ、助手及寫眞師ヲ同行シテ同島ニ渡リ、七百五十三名ニ就キテ相貌型寫眞ヲ撮リ且ツ種々ノ測定等ヲナシ、又二、三ノ發掘ヲ試ミ九月歸朝セラレタリ。而シテ昭和四年度ニ同島ニ渡リテ本調査ヲ行ヒ後歸朝セラレ目下其整理研究中ニシテ、わが南洋群島に於けるポロネージャ人の聚落に就てヲ發表セラル。

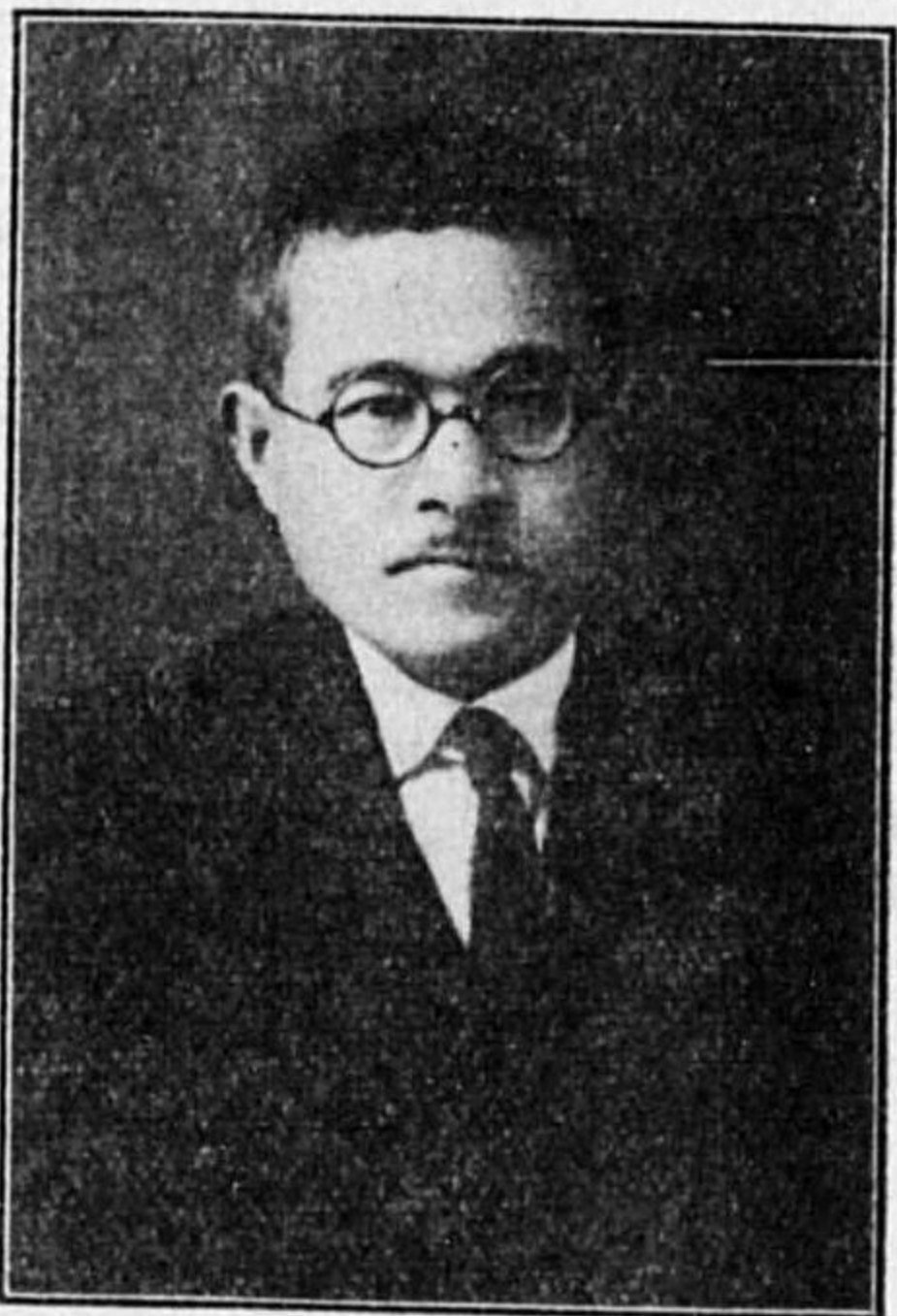
四一、日本庭園史研究

赤坂區青山北町四ノ一〇二

金一千五百圓ノ補助

農學士 外山 英 策

〔略傳〕 明治二十一年七月新潟縣南蒲原郡見付町ニ生マル。第三高等學校ヲ經テ大正五年東京帝大農科大學ヲ卒業直ニ大學院ニ入り、日本庭園史ヲ研究セラル。十年五月内務省史蹟名勝天然記念物保存調査會囑託トナリ、十一年五月辭任。著書ニ「源氏物語と日本庭園」アリ。



〔事業〕 日本庭園ノ發達ハ遠ク上代ニ遡リ得ヘク、日本人ノ庭園ニ對スル異常ノ趣味ハ重要ナル國民性ニシテ古來名園ト稱スルモノ甚タ多シ、然ルニ之ニ關スル研究比較的少ク稀ニ存スト雖モ、誤謬ト脱漏トノ爲メ信憑スル能ハス。外山氏之ヲ遺憾トシ、之ヲ研究ニ從事スルコト十餘年ナリ。大正十年内務省史蹟名勝天然記念物保存會囑託トナラレシモ、十一年之ヲ辭シ專ラ本研究ニ没頭シ、漸ク彼岸ノ曙光ヲ認メラレタリ。昭和三年十月以來本會援助ノ下ニ本研究ヲ續行セラルルコトトナリ、廣ク諸國ノ名園ヲ探究セラレ目下文献ニ徴シツツ研究執筆中ナリ。

四二、日本語及日本樂器ノ音響學的研究

金三千圓ノ補助

東京市本郷區曙町一

理學博士 田 丸 卓 郎



〔略傳〕 明治五年九月東京市本郷ニ生ル。二十八年東京帝大理科大學卒業。二十九年第五高等學校教授ニ任セラレ、三十二年京都帝大理工科大學助教授ニ轉セラル。三十三年東京帝大理科大學助教授トナリ、三十九年學位ヲ受ケ、四十一年教授ニ進マル。大正十五年帝國學士院會員仰付ケラレ以テ今日ニ及フ。

東京市外巢鴨町三ノ二六

理學博士 小 幡 重 一

〔略傳〕 明治二十一年四月東京市京橋ニ生マル。第一高等學校ヲ經テ四十三年七月東京帝大理科大學物理科卒業。同八月遞信省ニ入り四十四年技師ニ任セラル。大正

九年四月學位ヲ受ケ十年十二月東京帝國大學教授ニ任セラレ、又航空研究所員ニ補セラル。同時ニ歐米各國へ出張ヲ命セラレ、一年ニシテ歸朝、今日ニ及フ



「事業」 田丸、小幡ノ兩氏ハ昭和三年十月以來本會援助ノ下ニ電氣的音響記錄方法ニ依リ種々ノ日本語彙ヲ記錄分析シ、日本語ノ母音、子音學等ノ音響學的研究及同様ノ方法ヲ以テ各種日本樂器ノ音響學的研究ヲ行ハルルコトナレリ。右ハ啼ニ學術上極メテ興味アル問題タルノミナラス、日本語及日本樂器ノ特徴ヲ闡明スル點ニ於テ頗ル有意義ナルモノナリ。兩氏ハ斯界ノ權威ニシテ、目下最新ノ方法ヲ以テ、杵屋佐吉、宮城道雄、中島雅樂之都、佐藤美代勢、片山雄山、野村景久、田中佐太郎ノ諸氏ヲ煩シ、長唄及地唄三味線、箏、尺八、小鼓、大鼓等ノ音色ノ研究ヲナシツ、アリ。已ニ再び三味線の勘所に就テ「及尺八ノ音色」等ヲ發表セラル。

四三、潜水艦ニ關スル海戰法規及諸問題ノ研究及出版 芝區二本榎西町二

金二千圓ノ補助

マスター・オブ・アーツ 森 權 吉



年ニハ外務省事務ヲ、昭和二年ニハ東京外國語學校國際法講師ヲ囑託セラル。

「事業」 森氏ハ大正十二年以來潜水艦ニ關聯スル諸問題ヲ考察スヘク執筆中ナルカ、右ハ過般ノ大戰中ニ該武器ヲ不法ニ使用セルノ故ヲ以テ非議サレタル獨逸ノ所謂「潜

水艦戰及其誘因ト目サルル聯合國側ノ討敵措置ノ一般ト、之ニ就キテ獨英及獨米政府ノ爲セル主張ノ是非ヲ論シ、更ニ大正十二年二月英、米、佛、伊ノ諸國間ニ締結調印セラレタル主題ニ關スル條約ノ效力、及適用範圍ヲ吟味シ、進テ戰時ニ於ケル爾餘ノ問題ニ言及セントスルモノニシテ、昭和三年十月以來本會援助ノ下ニ之ヲ完成シ其ノ成績ヲ出版セララルコトトナリ、目下印刷中ナリ。

四四、明治大正地方財政史編纂

東京市赤坂區青山南町五ノ三三

金四千五百圓ノ補助

田中 廣太郎



「略傳」田中氏ハ明治二十一年十一月東京ニ生マル。大正二年東京帝國大學政治科卒業。四年七月東京府屬トナリ後内務屬ヲ兼ス。其後福岡縣理事官、内務事務官、同書記官ヲ歴任シ、昭和三年六月復興局整地部長トナル、其間地方財政及同稅制ニ關スル事務ニ參與シ、又歐米ヲ歴遊シテ各國

ノ地方財政ヲモ研究セリ、四年五月退官、東京市助役トナリ、五年五月辭職、今日ニ及フ。地方財政ニ關スル著書數種アリ。

「事業」地方財政ハ逐年膨脹シ、今ヤ其額國ノ一般會計豫算ニ匹敵シ、且増加ノ趨勢ハ國費ヨリモ大ナリ。地方財政ノ研究ハ財政經濟ノ攻究ニ頗ル重要ニシテ其沿革ヲ知ルノ必要ナルコトハ論ヲ待タス。政府ハ明治財政史ヲ編纂シ、今又大正財政史ヲ編纂シツツアレトモ地方財政ニハ觸レサルナリ。田中氏之ヲ遺憾トシ昭和四年四月以來本會援助ノ下ニ本研究ヲ續ケ、多年官ニ在リテ地方財政ノ局ニ當リ、其實務ニ通スルト共ニ多クノ史料ヲ蒐集研究セル、ソノ蘊蓄ヲ傾ケテ「明治大正地方財政史」ヲ編纂セントスルモノニシテ、神田内務屬及「地方行政」編輯主任泰滿氏等ヲ助手トシテ編纂中ナリ。

四五、西方亞細亞美術史研究

東京市麻布區筭町八

金七千壹百圓ノ補助（二回ニ決定）

青 山 新

「略傳」青山氏ハ明治三十二年五月大阪市ニ生マル。大正六年東京美術學校西洋畫



科へ入學。十三年三月同校卒業、直ニ研究科ニ入
リ、引續キ西洋畫殊ニ西洋美術史ノ研究ヲナス、十
四年十一月同校助手トナリ、西方亞細亞美術史ヲ
專攻ス、次テ講師トシテ西洋彫刻史ヲ擔任シ、昭和
四年助教ニ任セラレ。又昭和二年美術研究所
設立セラレニ及ヒ同所員トナリテ今日ニ至ル。

「事業」 現代ニ於ケル美術史ノ研究上、東西兩洋ノ文化交渉ハ重要ナル研究事項ナリ。
而シテ其爲メニハ西方亞細亞美術史ノ研究ヲ最モ肝要トナス。然ルニ此ノ方面ノ研
究ヲ専門的ニナセル者殆トナシ。青山氏ハ東京美術學校教授、矢代幸雄氏指導ノ許ニ
大正十四年來本研究ニ從事シ大ニ見ル可キモノアリ。而シテ之ヲ大成センガ爲メニ
ハ具ニ同地方ヲ實地踏査スルノ必要ヲ痛憾セラレ、昭和四年四月以來本會援助ノ下ニ
歐洲ノ圖書館竝ニ同地方ノ研究ヲナス爲メ四年八月出發、主トシテ、ベルシヤ、イラク、シ
リヤ、パレスタイン、エヂプト、トルコ、露國等ヲ旅行スルコト約二ケ年、多クノ資料ヲ蒐集

シテ五年五月歸朝セラレ、之ヲ美術研究所ニ於テ整理シ、目下報告書作製中ナルカ該費
用參百圓ヲモ追加補助スルコトトナリタリ

四六、梵文楞伽經ノ英譯

京都市上京區小山大野三九

金五千圓ノ補助

鈴木貞太郎

「略傳」 鈴木氏ハ明治三年十月金澤下本多町ニ生マル。二十六年頃東京帝國大學哲
學科在學、二十九年春渡米、シカゴ市附近「マン・オープン・コート」發行社編輯部勤務、四十二年
春歐洲ニ遊ヒ、四十三年初夏ニ歸朝、學習院教授ニ任セラレ、東京帝國大學講師ヲ兼ヌ、翌
年再ヒ渡歐シ、大正十年四月同院ヲ辭シ、直ニ京都大谷大學教授ニ任セラレ今日ニ及フ。

「事業」 楞伽經ハ今ヨリ千五百年程前ニ支那ニ譯セラレタル大乘經典ニシテ、其教理
ハ東洋精神的文化ノ源泉ノ一ナリ。而シテ此教理中從來不明トセラレシ部分少カラ
サリシカ、大正十二年故南條博士ノ梵文楞伽經ノ出版ニ依テ大ニ究明セラレタリ。鈴
木氏ハ右梵文楞伽經ヲ英譯シテ教理研究ニ貢獻スルト共ニ、東洋文化ノ所依處ヲ歐米

人ニ紹介セントスルモノニシテ、昭和四年四月以來本會援助ノ許ニ約二ケ年ヲ期シテ完成セントシ、目下折角進捗中ニ屬ス。

四七、播磨國風土記ノ研究

金貳千八百圓ノ補助

東京市外澁谷町青葉一〇

醫學博士 井上通泰

〔略傳〕 井上氏ハ慶應二年十二月姫路ニ生マル



明治二十三年十二月東京帝國大學醫科大學ヲ卒業、三十七年九月學位ヲ授與セラル。四十年八月御歌所勅任寄人ヲ命セラレ大正九年二月辭職セラル、同時ニ宮中顧問官ニ任セラレ以テ今日ニ及ブ。大正八年十二月敍勳三等授旭日中綬章、同十五年七月敍從三位。

〔事業〕 風土記ノ今ニ傳ハレルモノハ常陸、播磨及外二三ヶ國ノモノノミナリ。此中

常陸、播磨二國ノモノハ靈龜元年以前ノ作ニシテ古事記日本記等ト共ニ極メテ貴重ナル史料ナリ。播磨風土記ハ嘉永五年谷森善臣氏ニ依テ三條西家ヨリ發見セラレシモノニシテ、其後二三ノ學者之ニ標註ヲ加ヘタルモ、關係諸學ノ進捗シタル今日ニテハ淺膚ニシテ、遺憾ノ點少カラズ。井上氏ハ先年來本書ノ註釋ニ着手シ已ニ相當ノ進捗ヲ見タリ。而シテ昭和四年四月以來本會援助ノ下ニ、更ニ一ケ年ヲ期シテ、資料ヲ蒐集シ又實地踏査ヲモナシ、之カ完成ヲ期セラレ、已ニ文學、史學方面ノ研究ヲ終リ、目下地理學方面ヨリ研究ヲ進メラレツ、アリ。

四八、鳥類生熊寫真ノ撮影及出版

金貳千八百圓ノ補助

東京市外澁谷町青葉八

農學博士 内田清之助

福岡市西職人町七〇

下村兼二

〔略傳〕 内田氏ハ明治十七年十二月東京市京橋ニ生マル。第一高等學校ヲ經テ四十二年東京帝大農學部卒業、後理科大學動物學教室ニテ鳥學ヲ專攻ス。四十二年農科大



學講師農商務省囑託トナリ、現ニ農林技師、文部省囑託、萬國鳥類保護委員會日本委員タリ。大正十四年鳥類ノ羽虱ノ研究ニヨリ學位ヲ受ク、昭和二年汎太平洋教育會議日本代表トシテ渡米シ次テ歐洲諸國ヲ巡遊、鳥類保護事業ヲ視察セリ。著書ニ日本鳥類圖說、鳥學講話等アリ。

「略傳」 下村氏ハ明治三十六年二月佐賀市ニ生マル。大正六年佐賀中學ニ入學、八年慶應義塾大學普通部ニ轉シタルモ、十年病氣ニテ中途退學セラレ、爾後鳥類生態撮影ヲ研究シ以テ今日ニ至ル。

「事業」 鳥類ノ生態寫眞ハ應用的研究ニハ頗ル重要ナルモノナレトモ、我國ニテハ未タ其見ル可キモノナシ。内田氏之ヲ遺憾トスル事多年ナリシカ、幸ニ鳥類ノ生態寫眞ニ優秀ナル技術ヲ有スル下村氏ヲ得ラレ、同氏ヲ指導シテ全國各地ニ於ケル特殊ノ鳥

類ノ蕃殖、渡リ地、棲息地等ニ付生態寫眞ヲ撮リ、説明ヲ附シテ出版センコトヲ企テラレ、昭和四年七月以來本會援助ノ下ニ其ノ完成ニ努力シ已ニ第一卷ハ五年三月出版セラレ、第貳卷ハ目下印刷中ナリ。

四九、支那工藝圖鑑ノ編輯

金貳萬圓ノ補助

帝國工藝會々長

法學博士男爵

阪

谷

芳

郎

東京市小石川區原町一二六



ラス、大正十五年七月帝國工藝會ノ創立セララルヤ推サレテ其會長トナリ今日ニ及フ。

東京市本郷區西片町一〇

支那工藝圖鑑編輯委員長

工學博士

伊東忠太

略傳 前出



「事業」帝國工藝會カ夙ニ其事業ノ一トシテ計畫セル支那工藝圖鑑ノ編輯ハ、我國工藝ノ淵源スル所ヲ究メ、其將來ノ發展ニ資スルト共ニ特ニ輸出工藝振興上ノ參考タラシメシメコトヲ目的トシ支那工藝ノ古今ニ涉リ組織的調査ヲ行ヒ、其必要

ナル資料ヲ蒐集撮影シ、之レヲ系統的ニ分類整理シ、其編輯完了ノ後ハ出版又ハ展示等ノ方法ニ依リ、産業界ハ勿論、遍ク各方面ノ利用ニ貢獻セントスルモノナルカ、昭和四年六月以來本會ノ援助ニ依リ愈々實行ニ着手スルコトナリ、即チ工學博士伊東忠太氏ヲ委員長トシ、六角紫水、奥田誠一、香取秀真、鹿島英二、安田祿造、工學博士關野貞等ノ諸氏ヲ委員トスル支那工藝圖鑑編輯委員會ヲ組織シ、爾來同委員會ハ屢次會合ヲ重ネ、今ヤ

既ニ材料考查ヲ終リ、引續キ各委員ハ内地及支那へ出張シテ材料ノ蒐集ニ努メ寫真ノ撮影ヲ終リタルモノ將ニ數百點ニ達ス、是等ハ今後集收スヘキ資料ト共ニ整理ヲナシ説明ヲ附シ茲ニ編成ヲ終ル順序ナルカ、大體本事業ハ昭和六年八月末日ヲ以テ完成ノ豫定ニ依リ銳意其進行ヲ計リツ、アリ、尙本事業ノ附帶施設トシテ昭和六年三月ヲ期シ啓明會ト共同シテ支那工藝展覽會ヲ開設スルノ計畫ヲ立テ目下準備ヲ進メ居レリ。

五〇、X光線ニヨル吸收スペクトルノ研究

金貳千圓ノ補助

仙臺市花壇三九

理學博士

青山新一



「略傳」青山氏ハ明治十五年六月岐阜縣養老郡小畑村ニ生ル。四十三年東京高等師範學校卒業、四十四年四月東北帝大理學部助手トナル。大正八年同學部講師トナリ、十一年三月東北帝大助教ニ任セラレ、今日ニ至ル。十三年六月學位ヲ受ケ、十四年三月一般化學研究ノ爲メ歐洲諸國ニ出

張シ昭和三年三月歸朝セラル。

「事業」 X光線ニヨル吸收線カ溫度ノ差異ニヨリ其ノ波長ニ相違ヲ來スヘキハ誰シモ豫想スル處ナリ。青山氏ハ昭和四年十月以來本會援助ノ下ニ「ルテニウム」(北海道イリドオスミン)ヨリ製シタル六鹽化ルテン酸加里ヲ變成シテ五鹽化亞ルテン酸加里トナシタルモノト、常法ヨリ作りタル五鹽化亞ルテン酸加里トノX線分析ニヨル差異ヲ檢シテ、異性體ノ存在ヲ確定センカ爲メニ、昭和四年十月以來本會援助ノ下ニ、兩鹽類ノ製造ニ着手シ、一方X線發生裝置ニ必要ナル準備ヲ進メツツアリ。斯クシテ本實驗完成後「ルテニウム」ノ「ハロゲン」錯鹽ヲ製シ、以テ常溫及低溫ニ於テX線吸收線ノ波長變化ヲ定量的ニ檢セントスルモノナリ。

五一、「隨意筋ノ緊張的竝ニ榮養的支配」ノ出版

東京市神田區駿河臺袋町一〇

金參千圓ノ補助

醫學博士 吳

建

「略傳」及ヒ「肖像」ハ前出

「事業」 吳氏カ大正四年以來引續キ標記ノ如キ研究ヲナシ、其都度發表セシ斷片的成績ヲ一括論述シ、伯林ニ於テ、フェルステル及ウイルマン氏編纂ノ神經及精神學叢書ノ一冊トシテ出版セントスルモノニシテ、昭和四年十月本會援助ノ下ニ刊行スルコトニ決シ目下伯林ニ於テ校正中ナレバ近々發行スルニ至ルヘシ。

五二、産卵鶏ノ標準飼料量ノ研究

九州帝大農學部

金參千圓ノ補助

農學博士 片山 外美雄



「略傳」 明治十年五月福井市ニ生マル、第一高等學校ヲ經テ三十五年東京帝大農科農藝化學科卒業、三十八年獨逸ニ留學、家畜榮養學ヲ專攻シ四十年歸朝、同年九月農商務省農事試驗場技師ニ任セラレ、大正六年七月學位ヲ受ケ、十二年三月九州帝大農學部教授ニ任セラレ、以テ今日ニ及ブ。昭

和二年農學部々長ニ補セラレ四年間在職ス。

〔事業〕 産卵鶏ニ給與スヘキ飼料ノ標準量ヲ査定スルハ、鶏ノ飼養上最重要ナル事項ナレトモ、之カ研究ハ未タ行ハル、コト少シ、片山氏ハ糞ニ鶏ノ糞尿ノ成分ヲ化學的ニ分離スルコトニ成功シ、數種ノ飼料ニ就テ其消化率ヲ測定セシガ、更ニ一般飼料ノ營養價值ヲ闡明シ、殊ニ産卵ナキ鶏ノ養分需用量ト産卵ノ爲メニ要スル養分量トヲ査定シテ其成績ヲ多數ノ産卵鶏ニ應用シテ試験センコトヲ企テラレ、昭和五年七月以來本會援助ノ許ニ約三年ヲ期シテ本研究ヲ進ムルコトトナリ、先ツ各飼料ノ營養價值ヲ明ニスル爲メノ未研究ノ飼料ニ付試験中ニシテ、尙本年ヨリハ産卵ナキ鶏ノ維持飼料量ノ査定ヲ開始シタリ。

五三、東洋美術總目錄編纂

東京市牛込區矢來町三三

四ヶ年ニ金八千圓ノ補助

正 木 直 彦

〔略傳〕

正木氏ハ文久二年十月泉州堺ニ生マル 明治二十五年東京帝國大學法科大



學ヲ卒業、三十四年八月東京美術學校長ニ任セラレテ現在ニ至ル。其間四十年文部省美術審査委員會主事トナリ、大正八年帝國美術院ノ成立ト共ニ之ガ幹事ニ任命セラレ、昭和五年六月帝國美術院附屬美術研究所主事ヲ兼ネテ今日ニ及フ。

〔事業〕 東洋美術ノ研究ハ現時多數ノ史家ニ依

リテ殆ント遺憾ナク研究セラレタルガ如シト雖、未タ之等ニ關スル現存作品ノ總目錄ヲ編纂シ、各年代ト各作家トニ互リテ夫レ夫レノ標準作品ヲ決定シ、現存作品ノ概觀ニ資スルカ如キ基礎的の事業ニ著手セラレタルヲ聞カス。正木氏ハ之ヲ遺憾トシ、該事業編纂委員七名ヲ依囑シ、氏カ多年ノ蘊蓄ヲ傾ケテ之カ遂行ヲ期セラレ、昭和五年四月以來本會補助ノ許ニ、各種現存美術作品ヲ主要ナル年代ト作家トニ分類シ、各作品ハ何レモ一點一葉ノ「カード」トシ、其寫眞及ヒ所要ノ解説ヲ附シ、同時ニ各項目ニヨリテ標準作品ヲ決定スルコトニ努メラレツツアリ。已ニ日本美術、支那美術ヲ通シテ、百數十項目

ニ分チ其「カード」六千餘枚ヲ作ラレタリ。

五四、「ヒボクラテス全集」ノ邦譯及出版

札幌市、北海道帝大醫學部

金貳千五百圓ノ補助

醫學博士

今

裕



ラレ四年間在職ス。

「事業」 紀元前四百六十年希臘ノ「コス」島ニ生レプラトン・アリストテレスト併稱セラ

「略傳」 今氏ハ明治三十三年第二高等學校醫學部卒業。直ニ京都帝大醫科助手ニ任セラレ、三十七年臺灣總督府醫學校ニ轉シ、三十九年以後歐米ニ留學スルコト二年、四十二年七月學位ヲ得ラレ、同年東京慈惠會醫學專門學校教授トナル。大正九年再度歐米ニ遊學、十年五月北海道帝大教授ニ任セラレ今日ニ及フ、大正十四年醫學部長ニ補セ

レタル「ヒボクラテス」ハ希臘ノ醫聖ニシテ、其ノ論著ハ醫學上ハ固ヨリ自然科學竝ニ哲學上頗ル著名ナリ。從ツテ西洋諸國ニハ夙ニ其翻譯アレドモ我國ニハ未タナシ、今氏之ヲ甚タ遺憾トシテ同全集五十五編ノ邦譯ヲ企圖セラレ、フックス氏ノ獨譯全集ヲ底本トシウツプマン・グリム等ノ獨譯、リットレノ佛譯、ジョースノ英譯ヲ參照シテ稿ヲ進ムルコト三年、昭和五年四月ヨリ本會援助ノ下ニ已ニ翻譯ヲ完成セラレ、目下印刷中ナリ。

五五、英國救貧史ノ研究

東京市外落合町下落合一三三二

三ヶ年ニ金貳千圓ノ補助

小島

幸

治

「略傳」 明治二十七年宮城縣刈田郡白石町ニ生マル。大正七年早稻田大學史學及社會學科ヲ卒業ス。後東京府慈善協會幹事、栃木縣地方改良主事ニ歷任シ、十年內務省社會局囑託トナル、十四年辭シテ東洋大學ニ社會政策ヲ、早稻田大學ニ英國社會史ヲ講シ、以テ今日ニ至ル。

「事業」 英國ノ救貧制度ハ既ニ世界最古ノ歴史ヲ存シ、又現ニ世界最大ノ規模ヲ有ス、



求メラル。本會其必要ニシテ有益ナルヲ認メ、昭和五年四月以來之ヲ援助スルコトトシ、氏ハ目下折角研究中ナリ。

五六、「繪畫製作及鑑賞ノ真理」ノ出版

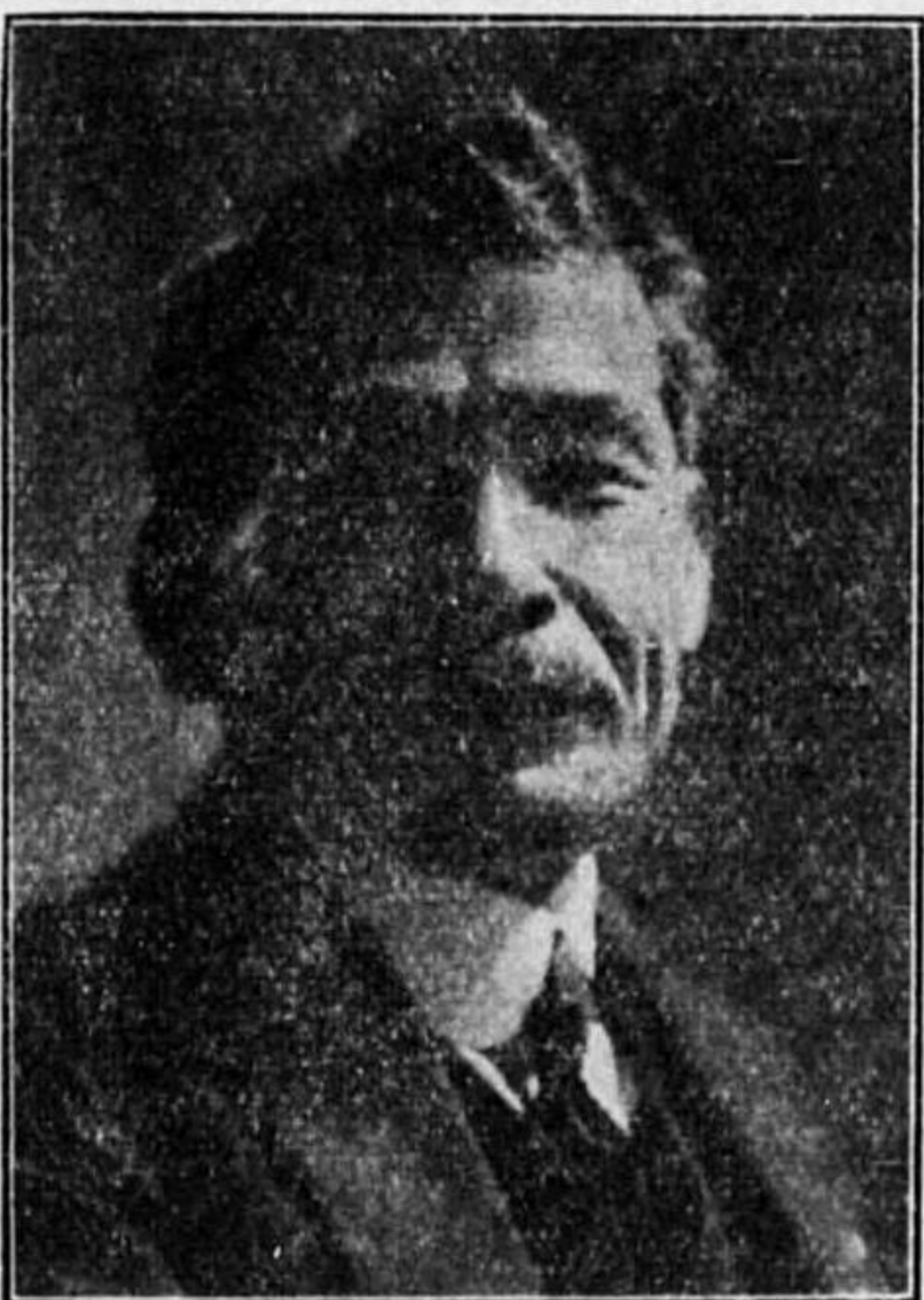
金六千五百圓ノ補助

東京市麻布區筈町八

和田英作

東京市外和田堀町堀ノ内一九六

岩井尊人



〔略傳〕和田氏ハ明治七年十二月鹿兒島縣肝屬郡垂水村ニ生マル。二十四年以來洋畫ニ志シ、上杉熊松、久保田米僊、黒田清輝等ニ師事ス、二十九年東京美術學校ニ西洋畫科ノ新設セラル、ヤ同校助教授トナル、三十二年十月佛國ニ留學ヲ命セラレ、巴里ノラファエル・コラン先生ノ下ニ西洋畫ヲ研究シ三十六年七月歸朝、十月同校教授ニ任セラレ今日ニ至ル。大正八年九月帝國美術院會員ヲ被仰付、十年四月同會員トシテ歐洲へ出張ヲ命セラレ日佛交驩美術展覽會事務ニ從事シ、十一年九月歸朝ス。十一年七月佛國國民美術協會々員ニ推舉セララル。

〔略傳〕岩井氏ハ明治二十五年奈良縣丹波市町

ニ生マル。第一高等學校ヲ經テ大正六年東京帝大法科卒業、直グニ三井物産會社ニ入ル。八年ヨリ倫敦ニ在リ十五年ニ歸朝、昭和二年ヨリ一ケ年再度歐洲ニ出張ス、滯英中業務ノ餘暇英國サア・ジョーヂ・クラウゼン師ニ就キテ繪畫ヲ、スタンレー・アンダーソン氏ニ就キテ版畫ヲ、ビブワース氏ニ就キテ塑彫ヲ習鍊シ、大正十二年、ロイアル・ソサエティ・オブ・ブリテイシユ・アーティストツノ會員ニ推舉セラレ、作品ニシテマンチェスター博物館ヨーク美術館等ニ買上ラレタルモノアリ、現ニ第一美術協會同人竝ニ日日會同人ナリ。

「事業」本邦ニ於ケル泰西美術殊ニ繪畫藝術ノ進況ハ國民文化生活ノ構成上看過シ得サルニ至レリ。然ルニ之カ製作ニ確タル定見ナク、一般鑑賞界亦基準トスル所ヲ識ラス、評論批評モ大衆指導ニ付充分ナラサルカ如シ、サア・ジョーヂ・クラウゼン師ハ現代歐洲畫壇ノ耆宿ニシテ、繪畫藝術ニ於ケルダウインチ以後ノ知識ト稱セラル。師カ實ニ數年ニ互リテアカデミー研究科ノ爲メニ講述セラレタルモノコソ將ニ前述本邦畫壇及鑑賞界ニ對シ緊切ナル要求ヲ充タシ得ヘケレ、蓋シ裨益スル處甚大ナラン。岩井

氏之ヲ慮リ數年ニ亘リテ之カ邦語版編著ヲ企テ、和田教授亦之ヲ翼贊シ、茲ニ出版ノ準備成リタリ。而シテ之カ完成ニハ數百枚ノ引照繪畫ノ挿入ヲ必要トスルガ故ニ、昭和五年四月以來本會ノ援助ヲ受ケ、其ノ出版ヲ進メラレ、目下印刷校正中ナリ。

五七、方言調査及採集

二ヶ年金壹千圓ノ補助

富山市清水町五八

大田 榮 太郎



「略傳」大田氏ハ明治三十二年十月富山縣上新川郡太田村ニ生マル。大正十一年日本大學高等師範部國漢文科ニ入學、同十五年卒業、後日本大學圖書館ニ勤務ス、昭和五年五月「方言集覽稿」編輯ノ爲メニ退職、今日ニ至ル。

「事業」方言トハ國語ノ細胞ニシテ、國語トハ方言ノ寄り集リタルモノナリ、前ニ國語

調査委員會ニ於テ方言調査ノ必要ヲ感ジ、口語法及音韻上ノ調査ヲナシタル事アリシモ、其方法ヨロシカラサリシ爲メ比較的効果少カリキ。方言研究ハ右ノ如キ調査ニノミ依ルベキモノニアラスシテ、其ノ採集研究ニヨリ、古代文獻ノ不明ヲ明ニシテ史上ノ疑問ヲ解キ、民族學、土俗學等文化學ニ貢獻スル處多カラシムベキモノナリ。太田氏深ク此處ニ留意シ「方言集覽稿」編輯ヲ企圖セラレ、本會ニ援助ヲ求メラル。本會ハ其必要事業ナルヲ認メ、昭和五年七月以來之ヲ援助スルコトトセリ。依ツテ氏ハ直ニ方言ノ採取ニ著手シ、已ニ群馬、栃木、和歌山ノ三縣ヲ終リ目下四國九州地方ニ採集旅行中ナリ。

五八、「實驗葡萄全書」ノ編輯並ニ出版

新潟縣中頸城郡高士村北方

金參千圓ノ補助

川上善兵衛

「略傳」川上氏ハ明治元年三月新潟縣中頸城郡高士村ニ生マル。幼ヨリ漢學ヲ修メ又英書ヲモ學ヘリ、二十四年以來葡萄ノ栽培及葡萄酒ノ醸造ニ從事シ今日ニ及ブ其間村長ニ就任セラレシコト四回ニ及ヘリ。



「事業」川上氏ハ明治二十三年以來私財ヲ投ジ

テ山林ヲ開墾、道路ヲ開キタルコト二十餘町步、之ニ葡萄ヲ栽植スルコト六萬餘株ニ及ヘリ。二十六年始メテ葡萄酒ノ醸造ニ著手シ、三十年ニ販賣スルニ至リ、目下年ニ三百石乃至六百石ヲ産ス。其間邦産ノモノハ勿論、佛國及米國ヨリ多クノ原種ヲ取リテ我國風土ニ適スル優良種ノ改良ニ苦心努力セラレ、已ニ二十餘ノ改良種ヲ得ラレ、又醸造ニツキテモ常ニ研究ヲ怠ラス、殊ニ特別ニ培養セル良酵母ニ依ル葡萄果液ノ改良ニ成功セラレタリ、明治三十五年五月皇太子殿下(大正天皇)並ニ有栖川宮殿下ノ台臨ヲ辱フシ近クハ大正十二年八月久邇大將宮殿下ノ台臨ヲ辱フシタリ。氏ハ之等ノ學理ト實驗トニヨル著書數種ハ斷片的ニ出版セラレタルモ、其栽培ト醸造法等ヲ纏メタルモノナキヲ遺憾トシテ、數年前ヨリ之ヲ編纂ニ著手セラレ、稿略成リタリ。昭和五年五月以來本會援助ノ下ニ之ヲ完成シ出版セラルルコトトナリ、氏ハ更ニ山梨、信濃、廣島、岡山ノ諸縣及大阪府ヲ視察シ且朝鮮

ヲモ視察セラレテ目下折角執筆中ナリ。

一五四

五九、佛、獨、白諸國ノ農業經濟ノ調査

金參千圓ノ補助

東京市外馬込町小宿一三七七

法學士 笠 森 傳 繁



〔略傳〕 明治二十年三月石川縣石川郡笠間村ニ生ル。第一高等學校ヲ經テ、大正二年七月東京帝大法科大學政治學科ヲ卒業、一時大學院ニ入り地方財政ヲ攻究ス。大正七年六月以來財團法人啓明會幹事、大正十一年九月以來現在ノ大正大學講師、大正十三年九月以來現在ノ駒澤大學教授ヲ依囑セラレ今日ニ及ブ。

〔事業〕 歐米農業經濟ノ研究ハ、直接ニ本邦農業經濟ノ改善ニ裨益スル所少キモ、二者ノ比較研究ハ本邦農業經營研究上ニ有益ナル暗示ヲ與フ可キハ勿論ニシテ、又其ノ改

良上ニ他山ノ石ヲ齎スベキハ疑フ可カラズ。笠森氏ハ多年本邦農村生活ノ經濟的、社會的研究ニ從事シ、殊ニ時代ト環境トガ農業經營ニ及ボス影響ヲ攻究シツアリ。而シテ本研究ヲ促進センガ爲ニ、歐米農家經濟ノ實狀殊ニ比較的我國農村ニ類似スト思ハル、佛、白二國及隣國獨逸ノ農家經濟ノ實況ヲ調査スルコトノ必要ヲ認メ、其ノ遂行ヲ計畫セラレ、本會ハ昭和五年四月之ニ對シテ標記ノ補助ヲ爲スコトニ決定セリ。依テ氏ハ直ニ米國經由渡歐シ、佛、獨、白諸國ノ多數ノ農村ヲ實地ニ踏査シテ、同年九月歸朝セラレタリ。爾來右踏査ノ成績ト其際蒐集ノ文獻トニ據リ、目下折角調査報告ノ整理中ナリ。

附表 補助事業成績一覽 (昭和五年末現在)

一、昭和五年度末迄ニ全部完成結了セルモノ
(一) 昭和四年度末迄ノ分

件名	擔任者	摘 要
敦煌古畫ノ摹本作製	瀧 精 一	摹本二十點ハ大正十年展覽會講演會開催ノ上之ヲ東京帝大へ寄附シタリ、然ルニ大正十二年九月ノ震災ノ爲メ燒失セリ、但シ其寫ハ東京美術學校ニ存ス
「本朝文粹註釋」ノ出版	柿 村 重 松	上下二冊二千三百九十五頁ヨリ成リ一千部ヲ出版セリ、内三十部ハ本會ヨリ各方面へ配布シ殘部ハ出版者ニ於テ賣捌キツツアリ、尙本件ニ付柿村氏ハ恩賜賞ヲ受ケラレタリ
第一回支那佛蹟踏査	常 盤 大 定	山東外四省ノ踏査ヲ遂行シ其成績ハ展覽會講演會ニ於テ發表シ、且ツ支那佛蹟史跡ノ著トナル、尙蒐集拓本等ハ東大文學部漢文研究室へ假寄託ノ處大正十二年九月ノ震災ノ爲メ燒失シタリ
英國博物館所藏支那古寫本ノ研究	矢 吹 慶 輝	「スタイン」氏ノ敦煌發掘品中主トシテ東洋ノ宗教ニ關スルモノ約七百餘點六千枚ノ撮影ヲ完了シ、之ニ基ク「三階教之研究」ニ對シテ恩賜賞及ビ學位ヲ授ケラル、尙右寫眞ハ全部整理済ナリ
日本家庭ニ於ケル電力ノ利用	鳥 潟 右 一	四年ニ完成豫定ノ處約二ヶ年半經過後死去セララル、但シ學理上ノ研究ハ一段落ヲ告ゲ「蓄電包厨装置ト電氣鍋並ニ電氣火鉢」ト題シテ發表済ナリ
瓜哇史ノ翻譯	松 岡 靜 雄	蘭語ヲ以テセル「フロイン・メリス」夫人原著ノ翻譯ヲ完成シ「瓜哇史」(菊判四百三十二頁)ト題シテ出版シ、内本會へ提出ノ二十部ハ各方面へ配布シタリ

古語拾遺ノ研究、英譯及出版	加 藤 玄 智 星 野 日 子 四 郎	研究及英譯ヲ完成シ、「古語拾遺」ト題シテ出版シ(菊判百九頁)、内本會へ提出ノ百部ハ各方面へ配布シタリ
校本萬葉集ノ整理及刊行	佐々木 信 綱	「校本萬葉集」五帙二十五冊ヲ出版ス、本會へ提出ノ五部ハ各方面へ配布ス
更科日記錯簡考ノ出版及同註釋ノ研究	玉 井 辛 助	「更科日記錯簡考」ト題シテ出版ス、本會へ提出ノ二十部ハ各方面へ配布ス、同註釋モ亦完成出版ス
日支對譯漢辭典ノ編纂及出版	服 部 操	「日華大辭典」ト題シテ出版ス、本會へ提出ノ三十部ハ各方面へ配布ス
鳥頭屬植物ノ猛毒成分研究	眞 島 利 行	「アコニツム、アルカロイド」ニ就テ(獨文)ヲ發表シ更ニ「鳥頭屬植物ノアルカロイドノ研究成績」ヲ出版ス、本會へ提出ノ五十餘部ハ各方面ニ配布ス
西日辭典ノ出版	清 野 三 郎	「西日辭典」ト題シテ出版ス、本會へ千二十五部提供、内百二十餘部ハ各方面へ配布シ、殘部ハ實費讓渡ス
グエイマルン博士「コロイド」化學研究成績ノ發刊	片 山 正 夫	Die Allgemeinheit des Kolloidzustandesト題シ出版ス、本會へ提出ノ百部ハ各方面ニ配布ス
假名調査	大 矢 透	假名遣及假名字體沿革資料トシテ「十輪經元慶點」ニ成實論(天長點)「願經四分律古點」ヲ發表、「唐寫四分律古點」外四卷ヲ脱稿、外ニ「韻鏡考」ヲ出版シ(本會へ提出ノ二百部ハ各方面へ配布)更ニ「結論トシテ「假名研究」一卷ノ提出アリ、其概要ハ「假名の研究」ト題シ、本會紀要ニ發表セリ

「アイヌ」辭典ノ増補 改版	ジヨン・パチラー	「An Ainu-English-Japanese Dictionary」一千部ヲ出版シ、内三十部本會ノ提出アリ、諸方面ノ配布シタリ
日本住宅ニ關スル衛 生的研究	田村昌	「空氣中ノ有毒瓦斯」「空氣中ノ有形物質」「空氣ノ衛生學的研究」「日本室ノ換氣」「病室ト暖房ト其空氣」等ヲ發表ス
支那財政ノ研究	木村増太郎	「支那財政論」ヲ發表シ學位ヲ受ケラル、本會ヘ提出ノ十一部ハ諸方面ヘ配布ス、外ニ「支那ノ關稅改正」外一論文ヲ本會紀要ニ發表ス
爬蟲類ノ聽覺ノ研 究	黒田亮	「Experimental Researches upon the Sense of hearing in Lower Vertebrates, including Reptiles, Amphibians, and Fishes」ヲ發表ス
常磐炭田ニ於ケル炭 層ノ研究	徳永重康	研究報告「常磐炭田地ノ地質」ヲ發表シタリ
「大唐西域記ニ記セ ル東南印度諸國ノ研 究」ノ出版	高桑駒吉	「大唐西域記ニ記セル東南印度諸國ノ研究」一千部ヲ出版シ、内四十部本會ヘ提出アリ、諸方面ヘ配布シタリ
「經濟上ヨリ觀タル 蘭領東印度」ノ完成 並出版	増井貞吉	「經濟上ヨリ觀タル蘭領東印度」一千部ヲ出版シ、二百部本會ヘ提出アリ、内四部ヲ獻上シ、殘ハ諸方面ヘ配布シタリ
植物色素ノ生物化學 的及分光化學的研究	柴田雄次	關係論文十四篇ヲ發表シテ研究ヲ完結ス

「德川制度史料」ノ出 版	小野清	「德川制度史料」一千部ヲ出版シ本會ヘ提出ノ三十部ハ諸方面ヘ配布ス
山椒魚ノ研究並ニ同 出版	田子勝彌	研究報告「日本産有尾兩棲類に就きて」ヲ完成シ、「蝶鰻と山椒魚」ヲ出版ス、三十部本會ヘ提供アリ、諸方面ヘ配布ス
生體染色及細胞機能 的鑑別研究	清野謙次	「生體染色研究」第一卷乃至第九卷ヲ發表シ本研究ヲ完成ス、尙本研 究ニ對シテハ學士院賞ヲ受ケラル
「日本藻類圖説」ノ出 版	岡村金太郎	豫定ノ通り第四卷第五集乃至第五卷第十集計十六冊ヲ出版ス
實驗遺傳學上ノ研究	池野成一郎	關係論文七篇ヲ發表シテ研究ヲ完結ス
俗間藥ノ研究	八木精一	關係論文十二篇ヲ發表シテ研究ヲ完結ス
海産動物ノ「プロタ ミン」並ニ「ニューク レイック」酸ノ研究	山川洵	關係論文八篇ヲ發表シテ研究ヲ完結ス
アイヌ傳説研究ノ整 理	金田一京助	第一篇「ユーカラ」概説、第二篇アイヌユーカラ「虎杖丸」ヲ出版ス

小學校圖書教育改善ノ研究並ニ「畫ノ教育學」出版	上阪雅之助	研究ヲ完成シ「畫ノ教育學」一卷ヲ出版ス、三十部本會へ提出アリ、諸方面へ配布ス
「孔子」ノ出版	赤池濃	「萬世ノ師孔子」一千部ヲ出版シ本會ニ提出ノ二百部ハ諸方面へ配布ス
圓形瓣ノ研究	沖巖	「辨裏面の渦の影響」ヲ發表シテ完成ス
「かつを、まぐろ」類研究	岸上鎌吉	關係論文二篇ヲ發表シテ完結ス
紅色素ノ研究	黒田ちか	「The Constitution of Carthamin」 Part I-III ヲ發表シテ完成ス、尙本研究ニ對シテ學位ヲ受ケラレ
歐米ニ於ケル少年裁判ト犯罪ノ現況	芳川顯雄	「米國少年裁判ノ研究」ナル論文ヲ提出サレタリ、依ツテ本會ハ紀要トシテ壹千部印刷シ利用多キ方面へ配布シタリ
日本武士道ノ研究	有馬祐政	關係資料書籍壹百拾餘冊ヲ蒐集シテ完結ス
「ザンドロ・ボテイチエリ」を中心としたる文藝復興期の研究	矢代辛雄	「ザンドロ・ボテイチエリとフロレンス文藝復古」ヲ出版シテ完成ス

(二) 昭和五年中ノ分

「續日本名家四書註釋全書」ノ出版	關儀一郎	「論語解」「讀孟叢書抄」「學庸部」三卷ヲ出版シテ完成ス
「Japan day by day」ノ翻譯出版	石川幹之助 宮島千代松	「日本その日」上、下各壹千部ヲ出版、本會へ提出ノ百部ハ諸方面へ配布ス
蘭學史料謄寫	板澤武雄	「信心錄」(天草刊)及「正徳享保年度を中心とする出島葡館日記」ヲ謄寫將來ス
件名	擔任者	摘要
古社寺所藏圖書ノ調査	高楠順次郎	「吉水藏目錄」三卷、「仁和寺御經藏目錄」十一卷、「石山寺深密藏目錄」十四卷、「法藏臺聖教目錄」二十二卷、「東寺金剛藏目錄」四十卷書寫完成ス
善見律毗婆沙ノ出版	高楠順次郎	「Samanta-Pasadika」三卷ヲ出版ス
家畜ニ於ケル遺傳ノ細胞學的研究	増井清	「マウスニ於ケル生殖腺除去ノ副腎ニ及ボス影響並ニ其組織細胞學的研究」「The Effect of Gonadectomy on the Structure of the Suprarenal gland of Mice, with Reference to the Functional Relation between this Gland and the Sex Gland of the Female」「The Effect of Gonadectomy on the Weight of the Kidney, Thymus, and Spleen of Mice」「副腎除去ガ雌鼠ノ生殖腺ニ及ボス影響」ヲ發表シテ完成ス

フルオレン誘導體ノ 藥化學的研究	中村敬三	「フルオレン列ノ研究第四報」「Katalytische Hydrierung des Phorens und Seiner Derivate」「フルオレン誘導體ノ研究」ヲ發表ス、 尙本研究ニ對シテ學位ヲ受ケラル
延喜式校本ノ出版	江木千之	「校本延喜式」上、下卷ヲ出版ス、二十部ハ本會ニ提出アリ諸方面へ 配布ス
後法興院記ノ出版	平泉澄	「後法興院記」上、下卷ヲ出版ス、三十部ハ本會ニ提出アリ諸方面へ 配布ス
梵文金光明經ノ出版	泉芳璟	「梵文金光明最勝王經」ヲ出版ス、二十部ハ本會ニ提出アリ、諸方面 へ配布ス
朝鮮佛教ノ研究	忽滑谷快天	「朝鮮禪教史」ヲ出版シテ完結ス
高爐「セメント」ノ研 究	永井彰一郎	「高爐「セメント」の研究」第一報、及第二報ヲ發表シテ完結ス
「亞富汗斯坦」ノ出版	田鍋安之助	「亞富汗斯坦」ヲ出版ス、三十部ハ本會ニ提出アリ、諸方面へ配布ス
「政教上ヨリ觀タル 論語新釋」ノ出版	赤池濃	「政教上ヨリ觀タル論語新釋」ヲ出版ス、二十部ハ本會へ提出アリ、 諸方面へ配布ス

二、昭和五年度末迄ニ略完成シテ整理中ノモノ、及一部完成シテ發表濟ノモノ

件名	擔任者	摘要	
		前年度末迄ノ分	本年度中ノ分
「日本産魚類圖説」發 刊	田中茂穂	第三十一卷乃至第四十六卷ヲ出 版ス	第四十七卷及第四十八卷ヲ出版 ス
東洋音樂理論ノ科學 的研究	田邊尙雄	「朝鮮李王家ノ古樂舞」及「臺灣、 琉球ノ音樂」ニ付研究成績ヲ講 演ス	
波斯ニ關スル研究史 料ノ蒐集	荒木茂	辭典、紀行、歴史、言語學等ニ 關スルモノ一千百餘冊到着ス	
日本産鑛物ノ蝕像ニ 關スル研究	市川新松	「日本産黃寶石ノ研究」(英文) 「燐灰石ノ天然蝕像ノ研究」外六 論文ヲ發表ス	
渦動ノ研究	藤原咲平	「地形ノ渦卷ト相模灘大地震」、 「相模灘大地震ノ機巧ニ就テ」及 「地球ノ表面ノ渦卷ニ英文」ヲ發 表ス	
明治工業史ノ編纂完 成及出版	男爵古市公威	「化學工業篇」、「造船篇」、「鐵道 篇」、「建築篇」、「電氣篇」、「土木 篇」、「火兵・鐵鋼篇」ヲ出版ス	「鑛業篇」、「機械・地學篇」ヲ出版 ス
琉球藝術調査	伊東忠太郎 鎌倉芳太郎	「琉球美術ノ性質」(伊東忠太郎)、 「琉球美術工藝」(鎌倉芳太郎)ト 題シテ調査成績ノ一部ヲ講演シ 蒐集品約二千點ヲ展覽ス、其後 研究資料千三百點ヲ蒐集ス	

本邦化學業績總覽ノ 編纂	眞島利行	日本化學總覽(I)ヲ出版ス	同上(II)ヲ出版ス
蟾蜍毒ノ化學的研究	小竹無二雄	「蟾蜍毒に就て」第一報、第二報、 「日本産毒の有成分に就て」第 三報、第四報及「日本産毒の分泌 物の有毒成分に就て」ヲ發表ス	
人間ノ個性及能率ニ 關スル研究	高峰博	「性能考査法の研究」第四乃至第 六及「精神能力の研究」ヲ發表セ ラル	
南洋群島人類學ノ研 究	長谷部言人	「わが南洋群島に於けるポリネ シア人の墜落に就て」ヲ發表 ス	
日本語及日本樂器ノ 音響學的研究	小田幡重一郎	「再び三味線の勘所に就て」ヲ發 表ス	「言語、歌謠に於けるアクセント 又は語調を研究する實驗的一方 法」及「尺八の音色」ヲ發表ス
日本藻類圖譜出版繼 續	岡村金太郎	第六卷第一輯、第二輯ヲ出版ス	同上第三輯、第四輯ヲ出版ス
英國博物館所藏支那 古寫本ノ寫真帳出版	矢吹慶輝		「鳴沙餘韻」ヲ出版ス
鳥類生態寫真ノ撮影 及出版	内田清兼二助		鳥類生態寫真第一輯ヲ出版シ第 二輯ハ目下印刷中

一、依囑事業

一、「最近政治外交史」ノ講述並出版

約二ヶ年間に約百回(經費、壹萬三千五百
八十五圓九十六錢)

東京市本郷區向ヶ岡彌生町三

文學博士 坪井九馬三

「事業」坪井氏ハ西洋史殊ニ近世政治外交史ノ權威ニシテ、多年東京帝大ニ於テ頗ル該博詳細ナル研究ヲ發表セラレタリ。而シテ其ノ學界ニ貢獻スルト共ニ、政治外交ノ實務ノ參考トシテモ亦頗ル有益ナルヘキハ定評ノ存セシ所ナルカ、未タ其全部ヲ纏メテ著述セラレタル事ナシ。本會之ヲ遺憾トシ、筆記ノ上出版センカ爲メ、右講述ヲ博士ニ依囑シ快諾ヲ得タリ。而シテ先ツ資料ノ蒐集等準備ヲ整へ、大正十三年一月ヨリ講述ヲ開始セラレ、毎週二回ノ講述ヲ勵行シ、十五年末迄滿二ヶ年ニシテ上、中兩卷ノ原稿ヲ完結本會ハ直ニ富山房ト契約シ先ツ昭和二年十一月上、中、二卷ヲ出版シ、引續キ三年十月下卷ヲ出版、更ニ四年五月ニハ其續卷ヲ出版シテ全部完結シタリ。發行部數何レモ一千部、内各二百部ヲ購入シテ獻上竝ニ諸方面ヘ寄贈シタリ。尙本事業ノ爲メ文學士淺野利三郎、溝口駒造兩氏ハ坪井博士ヲ助ケテ其進捗ニ努メラレタリ。

二、衛生ニ關スル著述

小石川區竹早町八一

醫學博士

三

宅

秀

約一ケ年間ニ完成(經費、三千六百八十五圓五十六錢)

「事業」人其身ノ養生ニ氣付ク頃ニハ、既ニ健康ヲ犯サレタル後ナルコト多ク、青少年時代ヨリノ注意ヲ肝要トス。又今日交通社交ノ頻繁トナルヤ自他ノ爲メ公衆衛生ノ重スヘキモ明ナリ。實ニ衛生殊ニ各自養生法ノ知識ハ老若ノ別ナク極テ必要ニシテ、社會ノ繁忙、交通ノ頻繁ヲ極ムルト共ニ一層痛感スル所ナリ。然ルニ机上ノ學理、實行ノ伴ハサル説明ハ之ヲ爲スニ其人乏シカラス、學理ニ通シ、實行之ニ伴ヒ其體驗ニ依ツテ養生ノ原理、衛生ノ真髓ヲ語リ得ルノ人ハ洵ニ少シ。是レ本會カ三宅博士ニ懇請シテ標記ノ事業ヲ依囑セル所以ナリ。博士カ我國醫學界ノ耆宿ニシテ衛生事業ノ殊勳者タラルルハ世間周知ノ所、而シテ博士ハ八十餘歳ノ今日迄強健壯者ヲ凌キ諸方面ニ活動セラレツアルハ吾人ノ驚嘆トスル所ナリ。即チ博士ノ學識ト經驗ト更ニ其ノ體驗トニ基キテ本件ノ著述ヲ請ヒシニ、幸ニ快諾ヲ與ヘラレ、昭和二年十二月以來醫學博士氏原佐藏氏ヲ補佐員トシテ、規則正シク事業ノ進行ニ努メラレ、豫定ノ通り脱稿シ

タルヲ以テ、直ニ富山房ト契約シ、四年四月、衛生長壽法トシテ出版、内五百部ハ獻上竝ニ利用多キ諸方面へ配布シタリ。

三、講演會及展覽會

(前年度末迄ニ開催セルモノ)

回数	演題及展覽品	會場	年月日	講演者及説明者
第一回講演會	法律上ヨリ觀タル國際聯盟 經濟方面ヨリ觀タル國際聯盟	東京高商	八、二〇、二五	法學博士 山川 端夫 日銀理事 源井 英五
第二回講演會	獨逸ノ近況 最近世界ノ三大思潮	私立衛生會	九、四、一七	文學博士 高楠 順次郎 法學博士 岡 實
第三回講演會	露國ノ最近社會變動ノ經過及 因由	保險協會	九、一〇、二三	文學士 今井 時郎
第一回展覽會	燉煌發掘古畫摹本 二十點	東京帝大	一〇、四、二四	文學博士 瀧 精一 井上 白楊
第四回講演會	「スタイン」氏發見ノ燉煌畫ニ 就キテ	東京帝大	一〇、四、二四	文學博士 瀧 精一
第五回講演會	朝鮮李王家ノ古樂舞——我カ 宮中ノ舞樂トノ關係	工業俱樂部	一〇、七、九	理學士 田邊 尙雄
第六回講演會	米國々民性ノ研究ト日米關係 ノ新生面	工業俱樂部	一〇、一〇、二三	法學士 鶴見 祐輔

第七回講演會	支那佛教史蹟ノ踏査報告	東京帝大	一一、四、九	文學博士 常盤 大定
第二回展覽會	支那佛教史蹟ノ拓本及寫眞約 三百點	東京帝大	一一、四、九	文學博士 常盤 大定
第八回講演會	臺灣蕃人及琉球諸島ノ音樂ト 日本音樂トノ關係	工業俱樂部	一一、一一、四	理學士 田邊 尙雄
第九回講演會	「往來物」(徳川時代庶民教育 教科資料)ニ就キテ	商工獎勵館	一一、一一、一八	理學博士 岡村 金太郎
第三回展覽會	「往來物」(徳川時代庶民教育 教科資料)約二千部	商工獎勵館	一一、一一、一八	理學博士 岡村 金太郎
第十回講演會	歐洲ノ近況	工業俱樂部	一二、六、一六	法學士 石井 銀彌
第十一回講演會	建築ノ理想ト實際	工業俱樂部	一三、五、三	工學博士 伊東 忠太
第十二回講演會	波斯、メソポタミヤ、及土耳 古方面視察談	工業俱樂部	一三、七、一九	總領事 縫田 榮四郎
第十三回講演會	ブラジル移民問題ニ就キテ	工業俱樂部	一三、一二、二三	法學士 富田 愛次郎
第四回展覽會	英國博物館所藏燉煌出土古寫 本佛典ロートグラフ	東洋文庫	一四、四、一九	文學博士 矢吹 慶輝
第十四回講演會	同右ニ就キテ	東洋文庫	一四、四、一九	文學博士 矢吹 慶輝

第五回展覽會

琉球藝術品

東京美校 一四、九、五—七

工學博士 伊東忠太郎 鎌倉芳太郎

第十五回講演會

琉球史概観
南島研究ノ現状
古琉球ノ歌謡ニ就キテ
琉球美術ノ工藝ニ就キテ
琉球美術ノ性質
琉球ノ音樂ニ就キテ
附琉球音樂演奏舞踊

東京美校 一四、九、五
東京美校 一四、九、六
東京美校 一四、九、七

文學士 東恩納寬惇
法學士 柳田國男
文學士 伊波普猷
文學士 鎌倉芳太郎
工學博士 伊東忠太郎
山内盛彬

第十六回講演會

新土耳其國ノ建設
土耳其ノ經濟事情

工業俱樂部 一四、一〇、一〇

前特命全權大使 内田定槌
土耳其代理大使 フエルシー・ベ
フエアド・ベ

第十七回講演會

海外企業ニ就テ

工業俱樂部 一五、三、六

貴族院議員 藤山 雷太

第十八回講演會

眼前ノ異人種問題
アイヌノ研究ノ現状
アイヌノ生活ニ就キテ
活動寫眞
白老コタンアイヌノ生活
アイヌ生活變遷
アイヌ語ノ本質

工業俱樂部 一五、四、一七

東朝顧問 柳田國男
東大講師 金田一京助
北大教授 八田三郎
同 伏根弘三
十勝アイヌ 伏根弘三
神學博士 ジョン・パチラ

第十九回講演會及邦樂會

我が國ノ古舞古樂ニ就キテ
朗 詠
聲 明
田 樂

九段靖國神社 能樂堂 一五、一〇、三〇

文學博士 高野辰之
宮内省樂部員 同
佐伯定胤
佐伯良謙
多紀道忍
熊野那智神社田樂部員

第二十回講演會

歐洲ニ於ケル労働問題ノ趨勢
支那ノ帝政ト共和政
支那ト外國

工業俱樂部 二、三、一二
工業俱樂部 二、四、九

前國際労働理事會政府代表 前田 多門
文學博士 矢野 仁一
文學博士 坪井九馬三

第二十一回講演會

獨逸ノ近況

工業俱樂部 二、七、九

文學博士 老川 茂信

第二十二回講演會

支那最近ノ政情

工業俱樂部 二、九、二〇

元湖廣新報社長 笹川 潔

第二十三回講演會

國際經濟會議ニ就テ

日本赤十字社 講 二、二一、五

前國際經濟會議日本代表 志立鐵次郎

第二十四回講演會

南洋ニ於ケル日本關係史料遺蹟ニ就キテ

工業俱樂部 三、六、三〇

文學博士 黑板 勝美

第二十五回講演會

滿蒙ニ於ケル人類學上ノ研究ニ就キテ

工業俱樂部 三、二、四

文學博士 鳥居 龍藏

第二十六回講演會

日本ノ立場ヨリ見タル西洋美術

工業俱樂部 三、六、二

東京美術學校教授 矢代 辛雄

第六回展覽會
(創立十年記念)

琉球藝術品、朝鮮陶器、中央亞細亞出土品模本、波斯工藝品及圖書、其他本會事業成績品

東京美校

三、九、六十七

工學博士 伊東忠太郎
工政會專務理事 倉橋芳太郎
文政會專務理事 倉橋勝治郎
東京美術學校教授 田邊孝美
東京美術學校教授 矢吹慶輝

第二十八回

講演

東洋藝術ノ系統
琉球染色ニ就キテ

東京美校

三、九、六

工學博士 伊東忠太郎
工政會專務理事 鎌倉芳太郎

第二十九回

講演

朝鮮陶器ニツキテ
燉煌出土品ニ就キテ

東京美校

三、九、七

工政會專務理事 倉橋勝治郎
工政會專務理事 矢吹慶輝

第三十回

會
(念記年十立創)

西洋美術ニ於ケル東洋的要素
波斯旅行談

東京美校

三、九、八

文學士 矢代辛雄
文學博士 黑板勝美

第三十一回講演會

歐米視察談

工業俱樂部

四、二、三

貴族院議員男爵藤村義朗

第三十二回講演會

希臘事情

工業俱樂部

四、六、一五

特命全權公使 川島信太郎

第三十三回講演會

新物理學
連續講座

東京帝國大學
理化學研究所
自四、九、七
至四、九、七

ライプツヒハイゼンベルグ
大教授
ケンデリッヂ
大教授
デーラツク

第三十四回講演會

滿蒙ノ經濟學的價值
軍縮會議ノ開カル、ニ臨ミテ

工業俱樂部

四、一〇、二六

經濟學博士 木村増太郎
海軍少將 南郷次郎

第七回展覽會

燉煌出土經卷ニ就キテ

京都、家政高女

四、二、三十一、四

文學博士 矢吹慶輝

第七回展覽會

燉煌出土品ロートグラフ

京都、家政高女

四、二、三十一、四

文學博士 矢吹慶輝

(本年度中ニ開催セルモノ)

第卅六回講演會

産業合理化

工業俱樂部

五、三、二九

商工省工務局長 吉野信次

第卅七回講演會

最近ノ獨逸

工業俱樂部

五、七、二二

獨逸國駐劄特命全權大使 長岡春一
法學博士

第卅八回講演會

歐洲労働運動ノ趨勢ト
失業問題
航空研究ノ最近ノ情況

工業俱樂部

五、二、八

内務省社會局労働部長、前國際労働理事會政府代表 富田愛次郎
東京帝國大學教授、航空研究所長、貴族院議員、工學博士、男爵 斯波忠三郎

第卅九回講演會

波斯ヲ中心トシタル西方
亞細亞ノ美術

東京美術學校
美術研究所々員

五、二、二九

東京美術學校 助教授 青山新

右講演筆記ハ一二ヲ除キ皆之ヲ印刷ニ附シ、講演集トシテ各方面ニ配布シタリ。

四、紀要

一七四

(前年度末迄ニ出版セルモノ)

- 第一號 「往來物目錄」 理學博士 岡村金太郎君編
- 第二號 「英國博物館所藏スタイン寫本寫真帖」文學博士 矢吹慶輝君編
- 第三號 「支那財政ノ真相ト其革新策ニ就テ」 經濟學博士 木村増太郎君報告
- 第四號 「支那ノ關稅改正問題」(特別關稅會議ト其對策)
經濟學博士 木村増太郎君報告
- 第五號 「假名ノ研究」 文學博士 大矢透君報告
- 第六號 日本產業推移ノ經路
「キモノ」カラ西洋式勞働服ニ至ル經路 米國 モーリス・ホーランド君報告摘要
- 第七號 「米國少年裁判所ノ研究」
芳川顯雄君報告
- 第八號 「世界大戰ノ獨逸教育ニ及ホシタル影響」 獨逸 フリップ・ケルンルマン述
候爵 大久保利武君譯
- 第九號 「支那ト日本トニ於ケル古代ト近代」 英國 アーノルド・ジェイ・トインビー述
浦口文治君譯

一一會 計

貸借對照表(昭和四年度末)

借方(資産ノ部)		貸方(負債ノ部)	
有價證券 <small>(額面一百十三萬八千二百四)</small>	一、〇八一、四七九・五〇〇	寄附財產	100,000・000
定期預金	八、〇〇〇・〇〇〇	當期剩餘金	一一九、九三三・四七〇
當座預金	三〇、四五三・九七〇	合計	一一九、九三三・四七〇
合計	一一九、九三三・四七〇		
昭和三十四年度收支決算			
收入之部		支出之部	
前年度ヨリ繰越金	一一九、〇六四・八三〇	事務費	九、五二二・五五〇
有價證券利子	五、九五六・一五〇	會議費	一一七・二〇〇
其他預金利子	一一、〇六二・五〇〇	俸給及給與	六、一四四・七二〇
雜收入	二七二・六八〇	合計	一七、三五七・〇六〇
			一七五

備品費	一四・六〇〇
消耗品費	八六・七九〇
圖書及印刷費	三〇・九〇〇
通信運搬費	八〇・〇〇〇
雜費	二、六六八・三四〇
事業費	四七、九二一・〇四〇
委員手當及報酬	一七〇・〇〇〇
寄附行爲第三條補助費	三六、七四・四〇〇

昭和五年度豫算

收入之部	
前年度繰越金	一六、〇〇〇・〇〇〇
有價證券額面五十萬圓ノ利子	二五、〇〇〇・〇〇〇
有價證券額面五十八萬四千六百圓ノ利子	二九、三三〇・〇〇〇

寄附行爲第三條依囑費	五、五六〇・三〇
寄附行爲第三條講演會等經費	五、二五四・四〇〇
右 同出版費	一四五・〇〇〇
右 同發送費	四四・三九〇
右 同圖書費	二二・五〇〇
合計	五七、四三三・五九〇
差引	
剩餘金	一一九、九三三・四七〇

有價證券額面五萬三千五百圓ノ利子	二、六七五・〇〇〇
預金利子	七〇〇・〇〇〇
合計	一七三、六四五・〇〇〇
支出之部	

事務費	八、九六八・〇〇〇
會議費	三六・〇〇〇
俸給及給與	六、五〇二・〇〇〇
旅費	二〇・〇〇〇
備品費	五〇・〇〇〇
消耗品費	一一〇・〇〇〇
圖書及印刷費	三〇九・六〇〇

通信運搬費	一〇〇・〇〇〇
雜費	一、五六〇・五〇〇
事業費	一六四、三三七・〇〇〇
委員手當及報酬	一、五〇〇・〇〇〇
寄附行爲第三條事業費	一六三、七七・〇〇〇
豫備費	五〇〇・〇〇〇
合計	一七三、六四五・〇〇〇

三會議

昭和四年度中ニ理事會ヲ開催セシコト八回、評議員會ヲ開催セシコト五回ナリ

附 錄

本會設立月日

大正七年八月八日

本會寄附行爲

第一章 總 則

第一條 男爵牧野伸顯平山成信ハ赤星鐵馬ノ寄附ニ係ル金壹百萬圓ヲ以テ財團法人ヲ設立ス

第二條 本財團法人ハ啓明會ト稱ス

第三條 本會ハ公益ニ資スル爲メ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス

- 一 特殊ノ研究、調査、著作ヲ助成シ及發明發見ヲ獎勵スルコト
- 一 必要ニ依リ本會自カラ専門家ニ依頼シテ前項ノ事業ヲ爲スコト

- 一 外國ニ於ケル同種ノ事業ヲ紹介シ又ハ著作ヲ反譯スルコト
- 一 本會ノ目的遂行ノ爲メ必要ナル講演ヲ開キ又ハ出版ヲ爲スコト
- 第四條 本會ノ事務所ハ之ヲ東京市麴町區丸ノ内壹丁目六番地ノ壹ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業年度ハ毎年一月一日ヲ以テ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル但初年度ハ本會設立ノ日ヲ以テ始マル
- 第六條 本寄附行爲ノ條款ハ評議員會ノ決議ヲ經且主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ變更スルコトヲ得

第二章 役員

- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一 理事長 一名
 - 一 理事 五名
 - 一 評議員 十五名
- 内一名ヲ常務理事トス

第八條 理事長及理事ハ評議員會ノ決議ヲ以テ評議員中ヨリ之ヲ推薦ス但本會設立ノ際ハ寄附者之ヲ推薦ス

理事長ハ本會ヲ代表シ理事會及評議員會ノ議長ト爲ル
理事ハ會務ヲ掌理ス

第九條 初度ノ評議員ハ寄附者之ヲ推薦シ缺員ヲ生シタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ其補缺ヲ爲ス

評議員ハ重要ナル會務ヲ審議ス

第十條 理事長及理事ノ任期ハ三年トス但重任ヲ妨ケス

第十一條 本會ニ必要ナル事務員以下ハ理事長之ヲ任免ス

第三章 顧問及委員

第十二條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク

顧問ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ推薦ス但本會設立ノ際ハ寄附者之ヲ推薦ス
第十三條 顧問ハ本會ノ諮問ニ應シ且隨時理事會及評議員會ニ出席シテ意見ヲ開陳

ス

第十四條 本會ハ必要ニ應シ各種ノ委員ヲ置ク
委員ハ理事長之ヲ囑託ス

第四章 會 議

第十五條 會議ヲ分チテ理事會及評議員會トス

第十六條 理事會ハ理事長隨時之ヲ召集ス

第十七條 理事會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長
ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス

第十八條 評議員會ハ通常及臨時トス

通常評議員會ハ毎年十二月及三月ヲ以テ理事長之ヲ召集シ本會ノ豫算及決算ヲ議
定ス

臨時評議員ハ理事長必要ニ應シ之ヲ召集ス

評議員五名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求スルトキハ臨時會ヲ召集ス

ルコトヲ要ス

第十九條 左ノ事項ハ評議員會ノ議ニ付スルヲ要ス

- 一 寄附行爲ノ變更
 - 一 本會諸規制ノ制定變更
 - 一 本會ニ於テ施行スヘキ事業ノ決定
 - 一 理事長及顧問ノ推薦
 - 一 資産管理ノ方法
 - 一 其他理事會ニ於テ評議員會ノ決議ヲ要スト認メタル事項
- 第二十條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議
長ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス但左ノ場合ニ於テハ評議員三分ノ二以上ノ出席アリ且出
席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
- 一 寄附行爲ノ變更
 - 一 不動産ノ買入
 - 一 理事長及理事ノ推薦

第五章 資 産

第二十一條 本會ノ資産ハ左ニ掲クルモノヲ以テ之ヲ組成ス

- 一 寄附財産金壹百萬圓
 - 一 本會ノ事業又ハ財産ヨリ生スル收益
 - 一 其他本會ニ於テ取得スル財産
- 第二十二條 本會ノ財産ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若クハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入ルルモノトス但特別ノ事情アル場合ニハ評議員會ノ決議ヲ經テ不動産ヲ買入ルルコトヲ得

第六章 會 計

第二十三條 本會ノ收支ハ每事業年度ノ末日ヲ以テ之ヲ決算ス

第二十四條 本會ハ事業年度毎ニ財産目錄貸借對照表及事業報告書ヲ作り決算ト共ニ評議員會ニ提出スヘシ

本會職員名簿

(イロハ順)

顧問 伯 爵 牧 野 伸 顯

理事長 侯 爵 大 久 保 利 武

常務理事 鶴 見 左 吉 雄

理事 工學博士 子爵 大 河 内 正 敏

串 田 萬 藏

山 之 内 一 次

小 松 謙 次 郎

評議員

農學博士	新渡戶	稻造
法學博士	子爵	大河内
工學博士	侯爵	大久保利武
工學博士	高松	豐吉
理學博士	鶴見	左吉雄
理學博士	長岡	半太郎
理學博士	串田	萬藏
農學博士	山之内	一次
農學博士	小松	謙次郎
理學博士	古在	由直
理學博士	櫻井	錠二
文學博士	三上	參次

委員

醫學博士	三宅	秀
工學博士	鳳	秀太郎
工學博士	塚本	靖
工學博士	男爵	斯波忠三郎

14.5
32

終